

Evdokija Mironovna Samandina 氏
（Евдокия Мироновна Самандина）



Elena Trofimovna Paskaeva 氏
(Елена Трофимовна Паскаева)



Dora Leont'evna Kini 氏
(Дора Леонтьевна Кини)



D. L. Kini 氏（左）と E. T. Paskaeva 氏（右）

A2（環北太平洋班）

文部科学省特定領域研究

環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究

風間伸次郎　採録・訳注

ツングース言語文化論集19

ネギダール語
テキストと文法概説

ツングース言語文化論集　19

Publications on Tungus Languages and Cultures 19

NEGIDAL
TEXTS AND GRAMMAR

Shinjiro KAZAMA

2002

ツングース言語文化論集　19

ネギダール語
テキストと文法概説

風間　伸次郎

２００２年

目次

まえがき 1

資料編

あらすじ（和文） 5

あらすじ（英文）（Summary） 8

あらすじ（露文）(Содержание) 11

テキスト本文（ラテン文字に基づく音韻表記とその日本語訳）

1. モモンガ（omkıkkan） 15

2. ウムスニ（əməsəni） 23

3. 最初に天が生まれた（ələxəs bʊɣa baldıča） 30

4. ある人が暮らしていた（əmən bəjə baldıča） 37

5. ネギダール語による三番目の姉妹のエンマについての話（*razgovor pro tret'ju sestru emmu po negidal'skij*） 44

テキスト本文（キリル文字に基づく音韻表記）

1. омкіккан 62

2. эмэсэни 65

3. элэхэс бува балдіча 68

4. өмэн бэjэ балдіча 71

5. разгавор про третью сестру Эмму по негидальский 74

ネギダール語基本文例 80

分析編

ネギダール語の音韻 98

ネギダール語 接尾辞一覧表 100

ネギダール語 文法概説 104

まえがき

本書は資料編と分析編の二つの部分より成る。資料編はコンサルタントの語った民話等のテキストをテープより書き起こしたものと、ロシア語の文例を訳してもらった基礎例文から成り、分析編はこれらの資料を基に分析したネギダール語の音韻論と文法概説より成る。

［ネギダールとその概況］

ネギダール語はツングース諸語の一つで、エウェンキー語及びエウェン語、ソロン語と近い関係にあるが、r 音を失うなど、ウデヘ語及びオロチ語にも通ずる特徴を持つツングース諸語の研究において重要な位置を占める言語である。

津曲（1996）によれば、1970 年のネギダールの人口は 500 人、うち母語話者は 222 人（44.4%）、1989 年の人口は 600 人、うち母語話者は 170 人（28.3%）である。筆者が現地で接することのできた流暢な話者の年齢は 70 代もしくはそれ以上である。子供や若者によるこの言語の習得は絶望的な状況にある。1970 年から 1989 年までの約 20 年で話者は 50 人ほど減っているので、さらに 13 年が経過した 2002 年現在その話者数は 100 人ほどと考えられる。より現地の状況に明るい Pevnov i Khasanova（1994）はその人口を 350 人とみているので、現実には上記の数字の半数程度である可能性がある。すなわち話者は 50 人前後ということになる。いずれにせよ今後 10 年から 20 年の間にこの言語が消滅する可能性はおおいに考えられる。

Pevnov i Khasanova（1994）及び筆者の得た情報によれば、ネギダールが現在住んでいる主な村はポリナ・オシペンコ村（上流方言）とマゴ、カリマ、トゥイル、ベログリンカの４つの村（下流方言）である。Pevnov i Khasanova（1994）は上述の 350 人のうち、上流方言地域が 150 人、下流方言地域が 200 人とみている。したがって下流方言地域での各村の話者は数人ずつということになるが、これは筆者が現地でみた状況とよく符合する。

筆者は 1994 年８月にカリマ、トゥイル、ベログリンカの各村を、1998 年にマゴ村を訪れることができたが、どの村でも流暢な話者は数人程度であった。1994 年現地で得た情報では、当時のトゥイル村の少数民族の人口は 192 人（ロシア人を含めた全体の人口は 712 人）、うちギリヤークが 113 人、ウルチャ 24 人、ナーナイ 3 人、ネギダール 43 人、エウェンキー9 人であった。同じくベログリンカでは 68 人（ロシア人を含むと 109 人）、うちギリヤーク 23 人、ウルチャ 12 人、ナーナイ 7 人、ネギダール 25 人、エウェンキー１人であった。カリマ村は 161 人（ロシア人を含むと 190 人）、うち 110 人ほどがギリヤークで、それ以上の情報は得られなかった。

なお上記の村への交通事情はあまりよいとは言えない。まずハバロフスクより空路または船でボゴロツコエもしくはニコライフスクに入る。マゴへはニコライフスクより車で、他の村は船で行くことができる。トゥイルへは公共交通機関の船で行くことができる。カリマ及びベログリンカはトゥイルをはさんでアムールの同じ側の岸（右岸）にある。川が凍結していれば車で、それ以外の時期は個人所有のモーターボートと話をつけて行く以外に方法はない。

［先行研究について］

Языки народов СССРの概説（p.p.109-28、Kolesnikova i Konstantinova 1968）以外には、単行本の総合的な記述としてCincius（1982, 全311p.）があるのみである。サンクトペテルブルグのA. M. Pevnov氏及びM. M. Khasanova氏が長年にわたって現地調査に基づく研究を行っているがその成果は現時点ではまだ発表されていない。Cincius（1982）は30ページの音韻・文法の概説、137ページにわたる約40編のテキスト、7000語の語彙集からなる。

［テキストに関するデータ、コンサルタントの方についての情報］

テキストの１から４までは、1994年８月20日、ベログリンカ村にてEvdokija Mironovna Samandina氏より録音した。氏は1917年２月生まれ、録音当時77歳であったが、1997年１月に亡くなったという。現在のKherpicha村の４キロ上流にあったSamn'a村で生まれ、12歳までをUst'-Amguni村で、祖母と母と子供三人で暮らしていたという。12歳の時、Bobik氏と結婚。中国の服とウオッカと若干の家畜と引き換えに売られたのであるという。Bobik氏との間にできた子は全員亡くなったという。後にSamandina氏と再婚。５人の子供をもうけたが、３人亡くなり、２人の息子がいるということであった。

８月19日にはじめて氏を訪れたが、氏は二日酔いで、翌日また訪ねることになった。筆者はトゥイルに宿泊場所を得ていたが、そこからベログリンカまではモーターボートで30分程度の距離である。しかし風があって波のある場合にはすごく揺れる。またスクリューに定置網がひっかかったり、モーターが故障したりして筆者自身も漕がなければならないはめにも遭った。翌日訪れると、氏の記憶力は予想をはるかに超えてすばらしく、氏は用意した１本半ほどの90分テープが尽きるほどたくさんの民話や伝説を語って下さった。したがって録音したテキストは今回収録した４編以外にもまだ長いものがいくつもある。

さてきわめて貴重なテキストを録音したものの、書き起こすことができずにいたが、1998年マゴ村にてElena Trofimovna Paskaeva氏の協力を得て、少しずつ書き起こし始めることができた。氏は1929年Im村（現在のPol'na-Osipenkoの近く）生まれ、11歳の時Pel'kat村（Pol'na-Osipenko）、さらにKerpichnyj zavodを経てUst'-Amguniに移住した。録音時は69歳であった。両親ともネギダールという環境の中で育ちことばもアイデンティティーもネギダールであったというが、父方の祖父は漢人、祖母はギリヤーク、母方の祖父はエウェンキー、祖母はナーナイであるという。この地域の複雑な民族混住の状況がここに反映しているといえよう。

テキストの５は、1998年８月18日、マゴ村で録音した。これは上記のElena Trofimovna Paskaeva氏（テキスト中では[P]とした）と、Dora Leont'evna Kini氏（テキスト中では[K]）による会話である。D. L. Kini氏は、1927年Ust'-Amguni村生まれ、21歳までその村に住み、1948年Dylma村に移り、1957年よりMago村に住み始めた。録音時は71歳であった。なおこのテキストは全文を書き起こすことができなかったので、途中で終っている。筆者所有のテープにはなお終わりまで録音がある。1998年、ハバロフスク地方には大きな山火事があり、これがために予定を切り上げて帰途に着かねばならなくなった。そのためにこのテキストの書き起こしも途中であきらめざるを得なかった。まことに残念である。

資料編の後半である基礎例文も上記のD. L. Kini氏にお願いしてロシア語から訳していただいたものである。使用したロシア文は津曲（1997）が用いたもので、佐藤他編（1989）を参考にしたものである。

［各テキストに関するコメント］

「1. モモンガ」はCincius（1982）にも採録されている。これと良く似た話はナーナイやオロチにもみられるが、このことについては風間（1995）で詳しく述べたので、それを参照されたい。

「2. ウムスニ」はいわゆる英雄による祖先の敵討ちの話であるが、敵の魂を女性から得て、これによって敵を倒すくだりはナーナイなどのものと同じである。語り手は話の終わりに言っているようにこれをエウェンキーの話であるとしている。途中少しだけ歌のように節のついた部分がある。

「3. 最初に天が生まれた」とよく似た話をウデヘより録音した。今後発表する予定である。そこではトラが天の代わりになっており、クマがイノシシの代わりに登場している。どちらの民族においても、この話は伝説であり、事実であるとみなされている。

「4. ある人が暮らしていた」は話の語っているように、未完の話である。やはり節のついた歌いの部分が２ヶ所ある。

［表記と分析］

ラテン文字に基づく音韻表記と、キリル文字に基づく音韻表記は一対一に対応する。この言語の音韻論に関して、くわしくは分析編を参照されたい。

・子音

無声破裂・破擦音	p(п)	t(т)	č (ч)	k(к)
有声破裂・破擦音	b(б)	d(д)	ǰ(ӡ)	g(г)
鼻音	m(м)	n(н)	ň(нь)	ŋ(ң)
無声摩擦音		s(с)		x(х)
接近音	w(в)		j(j)	
流音		l(л)	(r(р))	

※ r は主に外来語等にしか現れない

・母音

女性母音　i(и)　ə(э)　ɵ(ө)　u(ү)

男性母音　ɪ(i)　a(a)　o(o)　ʊ(y)　e(e)　ee(ee)

č, ǰ は破擦音であり、IPA では通常 tʃ, dʒ であるが、一音素一文字の原則から、補助記号による文字とした。

ň が示している音声は、IPA では ɲ を用いるのが一般的だが、それが体系上で占める位置（č, ǰ と同一調音点である）からこのような表記をとることにした。

協力者にも不明で最終的に分析できなかった語には下線を付した。

ロシア語からの外来語はイタリック体でこれを示した。

なおロシア語の単語は実際の発音よりも、もとのロシア語のつづりを優先して表記した。ただし一部発音の違いがいちじるしいものはその発音に近づけた表記をしたものもある。なおロシア語の単語の転写は以下のような方式に拠っている。

а-a, б-b, в-v, г-g, д-d, е-e, ё-jo, ж-zh, з-z, и-i, й-j, к-k, л-l, м-m, н-n, о-o, п-p, р-r, с-s, т-t, у-u, ф-f, х-kh, ц-ts, ч-ch, ш-sh, щ-shsh, ъ-", ы-y, ь-', э-e, ю-ju, я-ja.

［参考文献］
佐藤純一・木島道雄 共編 1989 （第１刷 1983）『例文で覚えるロシア重要単語 2200』白水社.
津曲敏郎 1996 「中国・ロシアのツングース諸語」『言語研究』110: 177-191.
津曲敏郎 1997 「ウデヘ文例」『言語センター広報 *Language Studies*』第５号 83-91. 小樽商科大学言語センター
Cincius, V. I. 1982 *Negidal'skij jazyk: issledovanija i materialy.* AN SSSR, Leningrad.
Kolesnikova, V. D. i O. A. Konstantinova 1968 Negidal'skij jazyk. Jazykki narodov SSSR 5, AN SSSR, Leningrad.
Pevnov A. M. i M. M. Khasanova 1994 Negidal'skij jazyk. *Red Book of the Languages of Russia - The Encyclopaedia.* Chief Editor V. P. Neroznak. <<Academia>>. Moscow.

［謝辞］
コンサルタントの皆様、そして村での滞在を支えて下さった方々にまず何よりも御礼を申し述べたい。当地での生活状況は厳しく、電気も無く、また山火事もあって交通事情も悪かったが、その中で調査がすすめられたのは全くたくさんの現地の方々の助けがあったからに他ならない。
1998 年の調査を計画し、科研費での同行メンバーに私を加えて下さった金子亨先生をはじめとする千葉大学の諸先生方にもこの場を借りてお礼申し上げたい。また 1998 年の調査でマゴ村のコンサルタントを紹介して下さり、現地での交通や生活の便宜を図って下さったばかりでなく、調査に関してもアドバイスを下さった A. M. Pevnov 氏と M. M. Khasanova 氏の両氏には心より深くお礼申し述べたい。いっしょに調査した基礎例文の発表を快諾された津曲先生にもこの場を借りてお礼申し上げる。
最後になるが、無くなられた Evdokija Mironovna Samandina 氏の冥福を祈りたい。

Посвящается памяти Е. М. Самандина.

あらすじ

1. モモンガ

モモンガとその三匹の子供が木の上に暮らしていた。そこへお腹を空かしたキツネがやって来た。キツネはモモンガに子供をくれと言った。くれなければ木を切り倒すと脅した。尻尾のところに斧があると言って騙した。モモンガは恐れて子供を一匹やった。キツネはそれを喰った。キツネはさらにもう一匹要求し、モモンガは与えた。モモンガが泣いているとそこにフクロウが現れて、キツネがうそをついていることを教えた。またキツネがやって来た。フクロウはキツネをつかんで、海へ運んで行って海に落とした。キツネが泣いているとアザラシがやって来た。キツネはアザラシに、「おまえの親類は多いか？」と訊いたので、アザラシは自分の親類を全員呼び寄せた。キツネはそれを数えるふりをして、その上を跳んで岸に渡ることができた。空腹のキツネはベリーを見つけてそれを腹一杯食べた。満腹になってキツネが寝ていると、そこへおばあさんが一人やって来た。おばあさんはそのキツネを家に持って帰って、皮を剥いで帽子にした。冬になるとおばあさんのところへ別のキツネがやって来た。キツネは水を汲んで来るから帽子を貸すようにと要求した。キツネは帽子をかぶったまま逃げ去った。キツネはある一軒の家にたどり着いた。その家ではたくさんのさまざまな鳥たちがシャーマンをしていた。一羽の鳥はたいへんよくシャーマンしていた。その鳥はキツネに帽子を貸すよう要求した。キツネが貸すと、鳥は窓から飛び去ってしまった。鳥はおばあさんのところへ行って、帽子を返してあげた。おばあさんは喜んで、鳥にさまざまな色の布を結わえつけてやった。終わり。

2. ウムスリ

ウムスリという名の男が一人で暮らしていた。彼の父親も母親も魔物に食べられてしまった。食べ物が無くなって旅に出た。自分の姉を見つけた。彼は自分に姉がいたことも知らなかった。一頭のヘラジカを獲った。さらに獣を求めて行くと、道が続いていた。そこにあった足跡はとても大きかった。姉の所へ戻って来て、それが何の足跡であるのか、訊いた。姉が答えて言うには、彼らの両親を食った魔物の足跡であるという。次の日、その魔物が襲って来た。魔物は六つの頭を持つヘビであった。少年は家から出てきて、その魔物と戦った。魔物は不死身で、少年はだんだんに疲れてきた。魔物はかつて小さな娘を攫って来て、自分の所で育てていた。その娘は少年の危機を感じ取った。娘はマガモに姿を変え、戦っている二人の所へ飛んで来た。少年に不死身になる水を飲ませ、体にも塗った。彼は強くなった。マガモはさらに魔物の魂を取りに飛んで行った。そして魔物の魂である、小さな卵を取って来てそれを上から落とした。卵を壊すと中か

ら小さなカモが一羽出てきた。その足を引きちぎると、魔物の足もちぎれた。腕を引きちぎると、魔物の腕もちぎれた。そうして殺した。これはエウェンキーの伝説だ。

3. 最初に天が生まれた

最初に天が生まれた。天は全ての動物に言った、「二本足で黒い髪を持つ者（人間のこと）を見たら逃げるように、」と。獣のうちイノシシだけは、自分がもっとも強いと言い張って譲らなかった。鳥のうちヤマドリだけは騒いでいて話を聞いていなかった。そのために今でもヤマドリは人間を恐れない。罠にも簡単に掛かる。天はイノシシを人間に会わせた。人間はイノシシの上に跳び乗った。イノシシは走った。人間はイノシシの耳をつかんで捻った。イノシシは走り疲れて降参した。今後は人間には手を出さないと誓った。

天は動物たちに話をして去る時に、二匹の犬を作った。犬が完成する前に、天は犬たちの不死の体を取りにでかけた。天が留守の間に何者かが現れ、犬に肉体と毛皮を与えた。その者は言った、「皆が不死であれば地上は一杯になってしまうだろう。もしくは互いが互いを喰い尽してしまうだろう。だから一つの世代が死ねば次の世代が育つ、というように、死すべき肉体をおまえに与えよう、」と。戻って来た天は、犬が何者から肉体を得たことにたいへん腹を立てた。天は犬の顔を叩いて言った、「これ以降おまえたちは言葉を失うだろう。人間の大便を食べるようになるだろう、」と。このようなわけで犬は言葉が話せなくなった。これは事実である。終わり。

4. ある人が暮らしていた

我々の世界は真ん中の世界で、この下には魔物の世界があり、この上には飛ぶ者たちの上の世界がある。さてこの真ん中の世界に、一人の人が暮らしていた。その母は天の世界から来た人だった。父は真ん中の世界の人だ。その母親は自分の子供の妻を求めた。自分の親類から、つまり天の世界の者の中から子供の妻を求めたのだ。

さて、この真ん中の世界に、女の子が一人、一人で暮らしていた。その父親も母親も、魔物が食べてしまった。娘を敷物の下に隠したので、彼女は助かったのだ。その娘は母親が敷物の下に隠した食べ物を食べて大きく育った。彼女には弟がいた。ある時その弟がやって来た。弟は訊いた。「近くに道があって足跡がある。その歩幅は私の背丈より大きい。あれは何者か？」と。姉は答えた、「それを追って行ってはいけない、」と。兄弟は肉を煮て食べた。寝ていると、床の下から声が聞こえてきた、「私はおまえを連れに来る、」と。少年はその声に答えて言った、「私は男の子だから、自分の家を捨てて行くことはない、」と。そうして暮らしていたが、また床の下から声がした。少年は再び答えた、「私は自分の家を捨てていくことはない、」と。それから先は知らない。

5. エンマについての話

（前半部省略）私（パスカーエバ氏）が妊娠していた時に、従姉妹のエンマも妊娠していた。そして彼女は産気づいた。私がそこに駆けつけた時、そこには誰もいなかった。エンマはドアのノブにつかまって子供を産んだ。私は糸を見つけてへその緒を縛り、切った。それからエンマを寝かせたが、後産が出てこなかった。年輩の女性が来て、揉んだが、やはり後産は出て来なかった。そして彼女は熱を出した。私はエンマの兄二人と、彼女を病院のある村まで運ぶことにした。小舟に乗って大河に出たが、風を伴って大雨が降り出した。私は生まれたばかりの赤ん坊を懐に入れ、村の対岸まで舟でやって来た。川は波も高く、荒れていたので、翌朝渡ることに決め、火を焚いて休んだ。翌朝天候は回復し、川を無事渡って村に着いた。電話で連絡がついていて、車が待っていた。エンマは病院に運ばれ、私は知り合いの家で体を洗って、お茶を飲んで休んだ。その後病院に行ったが、二人の兄は病院に入れてもらえなかった。私はエンマを見舞った。後産の処理は終わっていた。翌日三人で病院に行くと、今度は二人の兄も入れてもらえた。それから自分たちの村へと、帰路についた。しかし兄の一人が結核を発病し、引き返して病院に入院させた。そして再び帰路についた。（未完）

Summary

1. The flying squirrel

A flying squirrel and her three children lived in a tree. A hungry fox came along. The fox said, 'Give me your children.' He threatened her, saying, 'If you don't, I'll cut this tree down.' He tricked her by saying he had an axe at his tail. The flying squirrel became frightened and gave him one of her children. The fox ate it. The fox then demanded another child, and the flying squirrel gave another one to him. As the flying squirrel was crying, an owl appeared and told the flying squirrel that the fox was lying. The fox came again. The owl grabbed the fox, carried him out to sea and dropped him into the sea. While the fox was crying a seal came along. The fox asked the seal, 'Do you have a lot of relatives?' The seal then asked all his relatives to come. The fox pretended to count them, and got back on land by hopping over their backs. The hungry fox found some berries and ate until his stomach was full. When he was full and fell asleep, an old woman came along. The old woman brought the fox home, skinned him and made him into a hat. When winter came, another fox came to where the old woman was. The fox offered to draw water for the woman and asked to borrow her hat. The fox ran away, wearing the hat. The fox then reached a certain house. In the house were many birds of all kinds, practising shamanism. One particular bird was very good at shamanism. The bird asked whether he could borrow the fox's hat. As the fox handed over his hat, the bird flew off from the window. The bird went to the old woman and returned the hat to her. The old woman rejoiced, and fastened cloths of many colours onto the bird.

3. Emeseni

A man named Emeseni was living by himself. Both his mother and father had been devoured by an evil being. He had no food, and went on a journey. After that he found his older sister. He didn't even know he had an older sister. He caught an elk. As he went and hunted for more beasts, the road continued on. The footprints on the road were very big. He returned to his older sister, and asked her what those footprints were. His sister replied by saying that those footprints belonged to the evil being that had killed their parents. The next day, that evil being came and attacked them. The evil being was a snake with six heads. The boy came out of the house and fought with the evil being. The evil being was invulnerable, and the boy gradually grew tired. The evil being had once captured a small girl and was bringing her up in his own home. That girl sensed the boy was in danger. The girl turned herself into a wild duck, and flew to the scene of the battle between the two. The girl gave the boy a drink of the water that caused invulnerableness, and also applied this water to his body. The boy became strong. The wild duck went to get the evil

being's soul. She brought back an egg, which was the evil being's soul, and dropped it from above. As she broke the egg a small duck came out of it. When they tore off the small duck's legs, the evil being's legs were torn off also. When they tore off the arms, the evil being's arms were torn off also. Then they killed it. This is the legend of the Ewenki.

3. In the beginning heaven was born

In the beginning the heaven was born. Heaven said to all the animals, 'When you see beings with black hair and walking on two legs (human beings), run away from them.' Out of all the beasts, only the boar insisted that he was stronger, and refused to concede to this. Out of all the birds, only the copper pheasant was rowdy and did not listen. That is why to this day the copper pheasant is not afraid of humans. It easily falls into traps as well. Heaven caused the boar and the human to meet. The human jumped onto the boar and rode on it. The boar ran. The human got hold of the boar's ear and twisted it. The boar grew tired from the running, and gave up. He swore not to mess with humans again in the future.

When heaven had finished talking with the animals and was about to leave, he created two dogs. Before the dogs were completed, heaven went out to get immortal bodies for the dogs. While heaven was away, some being appeared and gave the dogs their physical bodies and fur skins. The being said, 'If everyone were to live forever, the earth would be filled to capacity. Or, living things would devour and consume each other. So I'm going to give you a mortal body, so that when each generation dies, the next would grow up and take its place.' When heaven came back, he was angry that the dogs had received their bodies from another being. Heaven hit the dogs' faces and said, 'From now on you're going to lose the power of speech, and you're going to end up eating the faeces of humans.' And so the dogs lost their power of speech. This is the truth. The end.

4. A certain person lived

Our world is the middle world. Under us lies the world of evil beings. Above us is the upper world of flying beings. Once a certain person lived in this middle world. His mother was from the heavenly world. His father was from the middle world. The mother was seeking a wife for her son. She looked for a wife for her son from among her relatives, in other words, from among the beings in the heavenly world.

There was a girl who lived by herself in this middle world. An evil being had eaten both her father and her mother. They had hidden her under the carpet: that is why she had survived. The girl ate the food that the mother had hidden under the carpet and grow up. She had a younger brother. Once the younger brother came along and asked, 'There is a path nearby and some

footprints on it. Each stride measured greater than my own height. What is it?' His older sister replied, 'Don't follow the footprints.' The brother and sister boiled some meat and ate it. As they slept, a voice came from beneath the floor: 'I'm coming to take you away.' The boy answered the voice and said, 'I am a boy, so I can't leave my home and go away.' They continued living there. The voice was heard again. The boy answered, 'I can't leave my home and go away.' I don't know what comes after that.

5. A talk about Emma

(the first half of the narrative is omitted here) When I (Ms Paskaeva) was pregnant, my cousin Emma was also pregnant. She started having labour pains. When I had rushed to her side, there was no one else around. Emma gave birth to her child while holding onto the doorknob. I found a string and tied the umbilical cord and cut it. After that I let Emma sleep, but the afterbirth did not come out. An older woman came in and massaged her, but still the afterbirth did not come out. Then she came down with a fever. Together with Emma's two older brothers, we decided to carry her to a village with a hospital. We got in a small boat and went out to the big river, but were met with a fierce rainstorm. I held my newborn baby in my bosom, and came to the other side of the river from the village by boat. The river had high waves, and it was rough. We decided to cross it the next morning; we made a fire and rested. The next morning the weather improved, and we crossed the river safely and reached the village. We had been able to contact someone by telephone, and a car was waiting for us. Emma was carried off to hospital. I washed myself at an acquaintance's home, had some tea and rested. After that I went to the hospital, but the two older brothers were not allowed into the hospital. I went to see Emma. The afterbirth had already been dealt with. The next day the three of us went to the hospital, and this time they let the two brothers in. Then we headed for our own villages, but on the way one of the brothers came down with tuberculosis, and we had to go back and put him in hospital. After that we went on our way home. (incomplete)

Содержание

1 .Летяга

Летяга и её трое детей жили на дереве. Лисица, которая очень проголодалась, прибыла туда. Лисица попросила летягу дать её ребёнка. И лисица сказала, что лисица срубьёт дерево, если летяга не даст ребёнка. Лисица сказала, что у неё хвост являлся топором. Таким образом лисица обманула летягу. Летяга очень боялась, и дала одного ребёнка. Лисица съела его, и попросила ещё одного ребёнка, и летяга дала. Когда летяга плакала, сова прибыла туда. Сова сообщила о том, что лисица обманывала. Опять лисица прибыла туда. Сова поймала лисицу, привела её в море, и бросила её в море. Когда лисица плакала, тюлени подходили к ней. Лисица спросила у тюленя, "Много ли у тебя родственников". Тогда тюлень вызвал всех его родственников. Притворяяся считать их число, лисица прошла над их спинами, дошла до берега. Лисица, которая проголодалась, нашла много ягод. Она их съела, наелась, ложилась спать. Потом одна старуха прибыла туда. Старуха принесла лисицу домой, содрала кожу, сделала кожу шляпой. Зимой другая лисица прибыла. Лисица требовала от старухи дать её шляпу на время, чтобы черпать воду. Лисица убежала с шляпой. Лисица попала в один дом. В этом доме много птиц делали церемонию шамана. Одна птица из них очень хорошо делала церемонию шамана. Та птица требовала от лисицы дать шляпу на время. Лисица дала птице шляпу. Птица улетела из окна. Птица пришла к старухе и вернула её шляпу. Старуха очень обрадовалась, и дала птице ткани разных цветов. Конец.

2."Эмэсэни"

Мальчик, которого звали "Эмэсэни", жил один. Его отца и матери съел дьявол. Однажды продукты истратились, и он отправился в поездку. Он нашёл свою старшую сестру. Он не знал даже, что у него старшая сестра. Он поймал одного лося. Он ещё изкал животных. Перед собой была дорога. Там был очень большой след. Он вернулся,и спрасил у старшей сестры, "Чей след это? ". Она сказала, что это след дьявола, который убил их родителей. В следющий день дьявол прибыл нападать их. Дьявол являлся змеёй, у которой шесть голов. Дьявол был нечувствителен к боли, поэтому мальчик постепенно становился более усталым. На самом деле однажды дьявол получил маленькую девочку, и сам воспитыва её. Та девочка почувствовала кризис мальчика. Девочка стала уткой, и прилетела в место, где они борются. Она дала мальчику пить специальную воду, чтобы он стал нечувствительным к боли, и она облила его специальной водой. Он стал сильным. Утка улетела, чтобы взала душу дьявола, и она взяла маленькое яйцо, которое является душой дьявола, и сбросила яйцо сверху. Яйцо разбилось, и одна маленькая утка вышла из внутренней части яйца. Когда она сорвала ногу маленькой утки, то нога дьявола сорвалась. Когда она сорвала руку маленькой утки, то рука дьявола сорвалась. Таким образом они убили дьявола. Это легенда "Эвэнки".

3. Небо было произведено сначала.

Небо было произведено сначала. Небо сказало всем животным, "Во время, когда вы будете встречаться с людьми, у которых чёрные волосы, и которые ходят двумя ногами (то есть человек), обязательно убегайте от них". Но среди животных только кабан упрямно настаивал, что он самый сильный. Среди птиц, только медный фазан шумел и не слушал неба. Поэтому, даже теперь, медный фазан не боится человека, и он часто попадает в ловушку. Небо познакомило кабана с человеком. Человек сел на спину кабана. Кабан бегал. Человек хватал уши кабана и искривлял уши. Кабан так долго бегал, что он устал, и сдался человеку. Кабан клялся, что в будущем он не будет сопротивляться человеку.

После того, как небо говорило животным, оно начинало создать две собаки. Перед самым тем, как небо закончило создать две собаки, небо вышло, чтобы взяло нечувствительные тела к боли для собак. Когда неба не было, один человек появился, дал двум собакам тела и шкуры. Человек сказал, "Если бы каждый был нечувствительный к боли, земля переполнялась бы животными и людьми, или все ели бы друк друга. Поэтому я дам вам нечувствительные тела к боли, чтобы, после кончания одного поколения, следующее поколение росло". Небо вернулось, и оно

рассердилось на собак за то, что собаки получили тела от кого-нибудь. Небо ударило собак в их лицо, и сказало, "В будущем вы потеряете свой голос, и станете есть калы человека" .Таким образом собака стала не говорить. Это факт. Конец.

4.Один человек жил.

Наш мир является серединой мира, под нашим миром есть мир дьявола, и над наш мир есть мир животных, которые летают. Теперь, в серединном мире один человек жил. Мать того человека была из мира неба. Отец того человека был из серединного мира. Мать того человека хотела, чтобы он женился на женщине из своих родственников, то есть на женщине из мира неба. Теперь, в серединном мире одна девочка жила. Её отца и матери раньше ел дьявол. Перед тем, как её родителей дьявол убил, её родители укрыли её под подстилкой, поэтому она спаслась. Она хорошо росла, благодаря продуктам, которые её мать сранила под подстилкой. У неё был младший брат. Однажды он пришёл к ней, спросил у неё, "Не далеко отсюда есть следы. Видимо, длина между двумя следами длиннее, чем рост у меня. Чьи следы это?". Старшая сестра ответила, "Нельзя следовать за теми следами". Младший брат варил мясо, и ел. Когда он спал, он услышал кое-какой голос из-под пола -"Я прибуду взять тебя". Мальчик ответил,"Я мужчина, поэтому я не брошу свой дом. Я не уйду отсюда". Потом однажды опять он услышал кое-какой голос из-под пола. Мальчик ответил снова, "я не брошу свой дом. Я не уйду отсюда". После этого ничего не извесно.

5.Разговор об "Эмме"

(Первая половина разговора сокращена) Когда я (Меня зовут Паскаева) была беременной, моя двоюродная сестра "Эмма" тоже была беременной. Потом у Эммы началась родовые боли. Когда я пришла туда, где она жила, кроме неё никого не было там. Хватая ручку двери, Эмма родила ребёнка. Я нашла нитку, обмотала пуповину ниткой, отрезала ребёнка от Эммы. Потом я помогла Эмме лечь. Но послед не выходил от её тела. Одна старая женщина пришла, и делала массаж Эмму, чтобы послед вышел. Но всё-таки послед не выходил. Потом у Эммы появилась высокая температура. Мы со старшими братьями Эммы решили довести Эмму до деревни, где есть больница. Мы сели на маленькую лодку. Мы попали в большую реку. Начался идти сильный дождь с ветрой. Я крепко обнимала ребёнка. МЫ приехали на противоположному берегу деревни. Волна реки была высока, так что мы решили, что следующим утром мы переедут через реку. Мы развели огонь, и там мы одыхали. В следующий день погода улучшилась, и мы переехали реку, и пришли в деревню. Заранее мы сообщили о том, что мы приедем туда, поэтому там уже встречающий ждал нас с машиной. Эмму привели в больницу. Я умылась в доме у знакомого, и попила чай, потом отдыхала. Потом мы поехали в больницу, но братьев Эммы не пропустили. Я посетила Эмму. Оказалося, что послед уже вышел. В следующий день мы пошли втроём в больницу. В этот раз братьев тоже пропустили. Потом по дороге в нашу деревню, один брат заборел туберклёзом, поэтому мы вернулись в больницу. Мы помещали его в больницу. Потом мы ушли оттуда домой. (продолжается)

1994年8月20日 ベログリンカ村にて
E. M. Samandina氏より録音

1. omkɪkkan
モモンガ

1−001
əsi-gdə～ omkɪkkan ɪlan xutənin, tadʊ～ moodʊ bĭjəjən,(1)
今 モモンガと 三匹の その子供が、 あそこに、木の上に 暮らしていた、

1−002
əsi-gdə sʊlaxɪ əməčə. nʊŋandʊn ǰəmugdi,
今 キツネが やって来た。 彼は お腹を空かしていた、

1−003
''omkɪ-ə～ piktəji buuru,(2)'' gunən, ''xutəj buuxəl,''
「モモンガよ、 おまえの子を くれ、」と 言う、 「おまえの子を くれ、」と。

1−004
omkɪ gunən, ''atam buujə～.'' ''əsixis buujə, mooŋɪs, mooŋɪs,
モモンガは 言う、 「やらないよ、」と。「おまえが くれないなら、おまえの木を、木を

1−005
xoŋnĭjaw, tibgʊǰəw.'' omkɪ gunən, ''eeǰɪ tibgus,
切ってしまうぞ、倒してしまうぞ、」と。 モモンガは 言う、 「何で 倒すのか、

1−006
oon-ka.'' ijgi, ijgi, ičəwkəččən, ''ədu, *ostryj* əmən bisin, *tapor.*
どうやって？」尻尾を、尻尾を 見せた、 「ここに、鋭いのが 一本 あるぞ、斧が。

1−007
ədu *taskaju* ijgiduj,'' alaxɪččɪdaj, ''gə,
ここに 持ち歩いているんだ、尻尾のところに、」と 言って騙すために。「さあ、

1−008
tapor taskaju. əsi xoŋnĭjaw, mooŋɪs tibgʊǰəw.''
斧を 持っているぞ。 今 切ってやるぞ、 おまえの木を 倒してやる、」と。

1−009
əsi-gdə～ əŋun, omkɪ ŋəələləjən əmən xutəj ǰolodojon, tajwa ǰəppən,
今、 その、モモンガは 恐れた、 一匹の 子供を 投げた、 それを 食った。

1−010
''ňaan buuxəl, omkɪ-ə, ňaan buuxəl, bii əčəw ələjə.''
「もう一匹 くれ、 モモンガよ、もっと よこせ、オレは まだ足りない。」

1−011
ňaan əmən xutəj ǰolodojon.
もう 一匹 自分の子供を 投げた。

1－012
əsi-gdə omkɪ soŋojon, soŋojon, tixəm-dixən taj, apaxa gaaja[3]～,
今 モモンガは 泣いた、 泣いた、それからそこに あの おじいさんの フクロウ、

1－013
eema-xa bičən taj, *bol'shoj ɸilix*a bĭjəni-gə, əməčə,
何と 言うんだったかしら、あの、大きな ワシミミズク だったか、やって来た、

1－014
''omkɪ-ə～ eedʊ soŋos.'' ''əttə～,'' gunən, ''sʊlaxɪ,
「モモンガよ、なんで 泣いているんだ。」「ああ、」と 言う、「キツネが、

1－015
xuilbə čʊpal ǰawanaxan ǰəppən.'' ''eedaa buuktəs.''
子供たちを すっかり 奪って 食べてしまうんです、」と。「どうして 与えるんだ。」

1－016
''mooŋʊ tibgudəj nixəjən,'' gunən. ''eeǰɪ tibgujən nʊŋan.''
「私の木を 倒そうと するんです、」と 言う。「何で 倒すというのか、ヤツは。」

1－017
''ičəwkəččən-e～ gunən, əj *mešok*dʊ, əənmə *ljogkij topor* bisin.''
「ヤツは見せました、言った、この 袋の中に、とっても 軽い 斧が あるんだと。」

1－018
tixəm-dixən, ''alaxɪččan, alaxɪččan,
すると（ワシミミズクは）、「ヤツは騙したんだ、嘘ついたんだ、

1－019
gəə, əsi, ňaan əməjgĭjən, ňaan əməjgĭjən, xəmə～ bixəl.''
さあ、今、 また やって来たならば、また 来たら、 静かに していろ。」

1－020
taja, tadʊ uilə～ dooča, tixəm-dixən, əməjgijən,
そこへ、その時 （木の）上の方に とまっていた、そうしていると、またやって来た。

1－021
''omkɪ-e, xutəj buuxəl.'' taj apaxa gaaja tajwa,
「モモンガよ、子供を よこせ。」 その おじいさんの フクロウは そいつを、

1－022
čawaxalačan, ələə, əŋuntixi, *more*tti tibgunəčə,
ひっつかんだ、 それまで、あそこへ、 海へ 行って落とした、

1－023
gə, tadʊ *more*dʊ, soŋojon,
さあ、そこで 海で、 泣く、

1－024
''əntəxaja～ serowoj[4], omkɪ-ə xuilbən serowoj,
「ウントゥハヤ～ セロウォイ、モモンガの 子供たちを セロウォイ、

1－025
manaačaaǰɪ serowoj, lamu čoktan ooǰas-e～ serowoj,
食べ尽くしちまって セロウォイ、海の 貝殻に なるだろう、セロウォイ、

1－026
oon nixəji-kəjə～ serowoj, omkɪ-ə xuilbən serowoj,
どう するんだ、 セロウォイ、モモンガの 子供を セロウォイ、

1－027
manaačaaǰɪ～ serowoj, lamu əŋunin maaktan[5] ooǰas-ɪ～ serowoj.''
食べ尽くしてしまって セロウォイ、海の 何だ、木片と なるだろう セロウォイ。」

1－028
tixəm-dixən, əmən kʊʊmaxa juučə,
そうしていると、一匹の アザラシが 出てきた、

1－029
''omkɪ-ə[6], eedʊ soŋos, sʊlaxɪ, eedʊ,''
「キツネよ、なんで 泣いているのか、キツネよ、どうして。」

1－030
''əəj, gə, sin əŋusi, *rodnjas* əgdi.'' ''ee,'' gunə,
「おお、さて、おまえの あれは、親類は 多いか？」「ああ、」と 言う、

1－031
tajsal gunə, ''bisin.'' ''əə, ičəs min *rodnja*w
そいつらは 言う、「いるぞ。」「そうか、見えるか オレの 親類たちを、

1－032
taj taj taj taj taj əŋunmə, *eto vsjo*
ほうら あれ あれ あれ あれ、たくさんなのを、こいつらは みんな

1－033
min *rodnja*w taj, taj min, *rodnja*salbɪ. gə, sii-də juuwkəxəl,
オレの 親類だぞ、ほれ、ほれ オレの 親類たちだ。さあ、おまえも 現れさせろ、

1－034
məən *rodnja*j ičəwkəxəl.'' gəə, əsi-gdə, taj kʊʊmaxa iigičə,
自分の 親類を 見せろ。」 さあ、今、 その アザラシは 再び水に入った、

1－035
juujgijən te～s *polnyj more* koomasalba,
再び出てくる、ぎっしりと 海中一面に アザラシだ、

1－036
eema-da čʊpal juujgijə əməjgijə, gəə əsi-gdə talɪ, dawwan, dawwan,
どんなのも 全部 出て来る、来る、 さあ 今 そこを通って、渡る、 渡る、

1－037
''*odin*, əmən ǰuul, xelebatax, ɪlan diɣin xelebatax,'' čʊp čʊpal,
「一匹、一匹、二匹、ヘレパッタフ、三匹、四匹、ヘレパッタフ、」 最後まで 全部、

1－038
kooma gunən, ''sʊlaxɪ, eeda tii əŋunəs, taŋkal,
アザラシが 言う、「キツネよ、どうして お前はそうした、(ちゃんと) 数えろ、

1－039
əməndukkəj əməntixi, eeda tii xətəxəsis.''
一匹から 別の一匹へと (一匹ずつ)、どうして そんな風に 跳ぶのか、」と。

1－040
ǰaanma, ɪlanma, əj, gaajan daajan bisi,
十匹、 三匹、と、こいつらは 遠くに、近くに、と いる、

1－041
gaajan əənmə əgdi, daajan, nʊŋan tujgənǰi dawdan,
遠くのほうまで、とっても 多い、近くへ、彼は 早く 渡るために (とばした)。

1－042
əsi-gdə čaaskɪ dawča. ''pəw-ee～,'' əŋuwən,
今 向こうへ 渡った。「ペッペッ、」(唾を吐く) そいつは、

1－043
''kooma, oŋoktas-da mʊxaŋkɪsɪ,'' gunən,
「アザラシよ、お前の鼻よ、お前の尻よ、」と 言う (馬鹿にする)、

1－044
taj kooma gunən, ''əənmə goola atas ŋənəjə,
その アザラシは 言う、「(お前は) とても 遠くへなぞは 逃げて 行けないぞ、

1－045
atɪjakan, genɪʊndʊlan buǰəs.'' əsi-gdə ŋənəsinčə,
ばあさんの所で、こん畜生め、死ぬぞ、」と (言う)。今 やっとそこで行き始めた、

1－046
taj ŋənəjən, ǰəmugdi nʊŋandʊn ləbgədəj *nado*, ǰəbdəj,
それは 行く、 腹を空かしている、彼には 食うことが 必要だ、食べようと、

1－047
ŋənəjən, tixəm-dixən ičəčə taj-a～, inŋəktə, əənmə *sushjonnyj*
行く、 そこで 見た、そいつを、エゾノウスミズザクラの実を、とても 乾いている、

1－048
əənmə əgdi. əŋuǹǰi tɪksaǰɪ,
とても 多い。そいつで、白樺の樹皮の箱で (集めて)、

1－049
əmən *berjozaǰi* *sytyj* tadʊ tajwa ǰəpčə, ǰəpčə,
一箱分の 白樺の箱で 満腹になる、そこで それを 食った、食った、

1－050
əmugdəxən əj-dixən ooča. əsi-gdə əŋuntixin, *suchka* əŋuntixin,
その腹は こんな風にパンパンに なった。今 そっちへ、一匹の雌犬の それへ、

1－051
*nora*ttɪxɪn iičə, tadʊ aasmča, *potom* atɪjakan iijən.
獣の穴へ 入った、 そこで 眠り込んだ、それから おばあさんが 立ち寄った。

1－052
''eexʊn əj, əmən-də inŋəktə aačɪn.
「何だ、これは、 一つも ウスミズザクラの実が ないわ。

1－053
əsi-gdə əj eeča inŋəktə,'' talɪ gələktijən.
今 これは どうしたのか、実は、」と そこいらを 探し回った。

1－054
taj əŋunduli ičəčə, *sobačij nora*la, əm sʊlaxɪxa,
ほうれ そのあたりを 見たら、犬の 巣穴に、 一匹の キツネが、

1－055
əmugdəxən əj-dixən xugləjən.
その腹が こんなにでかいのが 寝ている。

1－056
əsi-gdə atɪjakan *tikhoniku zashjol* ǰootkɪ,
今 おばあさんは 静かに 入った、 家へ、

1－057
sɪňŋapʊn *vot takoj* əŋun, sɪňŋapʊn-a,
ナイフだ、ほれ こんな風な それ、 ナイフだ、

1－058
eewa-da čʊpal *rubili* tajǰɪ,
何でも 全部 切り落とした、それで、

1－059
tixəm-dixən əsi-gdə, tajwa ǰawa<u>xanam</u>, nʊŋanman waača.
そうしてから 今、 それを つかんだ、 彼（キツネを） 殺した。

1－060
taj-a əŋunmən *shkura*wan əŋunčə, *sushil*, məənduj *shapkaj* ooča,
それから そいつを、 毛皮を ああした、乾かした、自分に 帽子を 作った、

1－061
ə～j tixən *shapkaǰ*ɪ, əŋunən, təččəjən.
そうれ、そうして 帽子で、 どうする、 かぶっている。

1－062
tixəm-dixən tuwə, əmən sʊlaxɪ əməjən.
それから 冬、 一匹の キツネが やって来た。

1－063
''atɪjaka～n əə～j, muuŋis bisini. gə, bii sindu muukkəlbə muuliktə-ji.
「ばあさん、おおい、水は あるか？ さあ、オレが あんたに 水でも 運んで来ようか。

1－064
mookkalba ɪwakta-jɪ.''　　''gə, bələtmi bələtkəl-kə,''
薪でも　伐って割って来ようか、」と（言う）。「ああ、手伝うなら 手伝っておくれ、」と

1－065
atɪjakan.　　gəə tixən　　gunən, ''əj sɪanmɪ əənmə gɪlɪgdɪ.
おばあさんは（言う）。さあ それから（キツネは）言う、「この 耳が　とても 寒い。

1－066
atɪjakan, aawʊnmɪ ɪldʊxal mindu.'' aawʊnmɪ buujən tətiwkənən.
ばあさん、自分の帽子を 貸せ、 オレに。」 自分の帽子を やった、かぶらせた。

1－067
gəə, taj aawʊnǰɪ xuliptixən　　čop　　taj aawʊnma təttəən
さあ、その 帽子で 歩き回るのだが、すっかり姿を消した、その 帽子を　かぶって

1－068
tʊksanča. ŋənəčə. eema-xa ǰootkɪ ŋənəčə-wu.
逃げた。 行った。どんな方へ、家へ　行ったのか。

1－069
tadʊ ə～ ŋəələmu～　　tadʊ bičəl,　　čɪwkakka～l,
そこには ああ、恐ろしく（たくさん）そこには 暮らしていた、鳥たちが、

1－070
eemakkal-da čʊpal *letajut...*　　dəɣittikkəl.　　gə əsi-gdə,
いろんなのが 全部 飛んでいる、飛ぶ者たちは皆いる（虫も）。さあ 今、

1－071
əmən čɪwkakkan əŋunən, ňamkallan.
一羽の 小鳥が　ああする、シャーマンをし始めた。

1－072
''xə～ xə～ xəlbəgdiw,　　to～ to～ tolobagdɪw.''
「フー フー、フルブグディウ、トー トー トロバグディウ、」と。

1－073
əj sʊlaxɪ gunən, ''əj aja-da saman bǐjən-i.
この キツネは 言う、 「こいつは 良い シャーマン だろう。」

1－074
gə, taj čɪwkakkan gunən, ''gə, aawʊnmɪ ɪldʊxal, mindu,
さあ、その 小鳥は　言う、 「さあ、帽子を 貸せ、 私に、

1－075
bii ajaǰɪ ňamkaǰaw.''　　əsi-gdə aawʊnǰɪ təttən,
私は 良く シャーマンするだろう、」と（言う）。今　その帽子を かぶる、

1－076
taj sʊlaxɪ aawʊnǰɪn atɪjakan　　aawʊnǰɪn, *i* əsi-gdə,
その キツネの 帽子で、 おばあさんの 帽子で、　で、今、

1－077
''xə～ xə～ xəlbəgdiw, to～ to～ tolobagdɪw,''
「フー フー、フルブグディウ、トー トー トロバグディウ、」と、

1－078
čoŋkolduli, čoxol bolbol. taj aawuŋji təttən,
天窓から、 バタバタと飛び去ってしまった。その 帽子を かぶったまま、

1－079
čoŋkolɪ gummi, *vot takoj dyra*li taj taj diinin
天窓から という、 ほうれ そんな風に 穴を通って、 これくらいの 大きさだ、

1－080
tadukkaj-da əgdiŋə, əsi-gdə talɪ juučə,
これより 少し大きい、今 そこから 飛び出て行った、

1－081
atɪjakantɪxɪ ŋənəwgičə. əsi-gdə atɪjakan tajwa čuxətimi,
おばあさんの所へ 再び持って行った。今 おばあさんは これを 喜んで、

1－082
əjə, əsi eema-gda čupal bǐjən,
さて、今 どんなのだって 全て あるだろう（おばあさんの所に色とりどりの布が）、

1－083
gə, *sa～moj krasivyj-to i vsjakaj,*
さあ、最も 美しいのも、そして どんなのも全て、

1－084
əŋun, *kra～snyj vsjakaj est'*-da, gəə taj, atɪjakanɪm,
そうした、赤いのやら あらゆるのが あるのだ、さあ、その、おばあさんは

1－085
əjwə *krasnyj* əŋunčə, *vsjakaj trjapkaǰi privjazavala*
これを、赤いのを そうした、さまざまな色の 布で 結わえつけた、

1－086
chtoby navechno ostalsja. ''ty budeshsh' tak krasivyj.''
永遠にそのまま 残るように。「お前は そんな風に 美しくなれ。

1－087
təǰə-ŋu eexun-ŋu, *vot eto* baj *skazka.* alaxɪčča təəluŋ taj.
本当だろうか、何だろうか、ほうれ これは 単なる 話さ。 人を騙した 話さ、これは。

(1) bǐjəjən という語形はエウェンキー語であるという（書き起こし協力者による）。
(2) piktə という語及び buuru の -ru という命令形はウルチャ語もしくはナーナイ語の形式である。同じ行で xutə 及び buuxəl とネギダール語本来の命令の形式で言い直している。おもしろいことに、Cincius (1982)収録の同じテキスト（p.p.62-65）でも同様の形が現れて

いる。このことはおそらくこの話が上記の民族から伝えられたことを示していると考える。
(3)Cincius (1982)は apoxo　gajanin としている。
(4) əntəxaja～ serowoj 以下は歌になっている。əntəxaja 及び serowoj は意味の無い refrain であろう（かつては何らかの意味があったのかもしれないが)。Cincius (1982)もそのように扱っている。
(5) maakta とはドロヤナギの枝を乾かして樹皮を取り去った白い枝であるという（協力者による)。
(6) solaxi と言うべきところを言い間違えたものであろう。

1994年8月20日 ベログリンカ村にて
E. M. Samandina 氏より録音

2. əməsəni
ウムスニ

2-001
baldɪjan, əmən bəjə, gəlbinin əŋun, əŋun, ŋii-xə bičən-e～,
生まれた、一人の 人、 その名は、それは、それは、誰だかだった、

2-002
gəlbənin omŋoča bisim tii. əməsəni, əməsəni, əmukčəkkən,
名前は 忘れて しまった、そう。 ウムスニ、ウムスニだ、一人者だから、

2-003
po tomu chto nʊŋan əmukčəkkən əsin saaja
なぜならば 彼は 一人者だから、 知らない、

2-004
amɪnman, əninmən ǰəpčəl bǐjən, amba,
父親も 母親も、 食べてしまったん だろう、 魔物が、

2-005
bǐjəmdi～n saača, saača, əmukčən bǐjəjiləj,
暮らしていて、 知った、知った、一人で 暮らしている時に、

2-006
ǰəmugdi ooča, səktəj xəjgidəəlin gələktijən, eexʊn-da aačɪn ǰəpuuwi,
空腹に なった、自分の布団の 下に沿って 探すけれども、何も ない、食べ物は、

2-007
əninin nəəŋkin bičən səktə xəjgidəəlini～ uləkkəə～lbən olokkaalban,
母が 置いたの だったが、布団の 下に沿って (探すが)、 肉も、 魚も、

2-008
aačɪn ǰəmugdi, əsi-gdə, ''oon nixəǰəm əsi, ŋənəktə bii.
ない、 食べ物は、今、 「どう したらよいのだろう、今、 行こう、オレは。

2-009
ǰəmu.'' əsi-gdə juujən, juujən talɪ～ geexʊktajan, geexʊktajan,
お腹が空いた。」今 家の外へ出た、出た、そこを 歩きまわった、たくさん歩いた、

2-010
eexʊn-da əsin ičəwwə, eexʊn-da əsin ičəwwə.
何も 見あたらない、何も見あたらない。

2-011
tixəm-dixən talɪ～ čaaskɪ ŋənəjən, əxinin bičə
それから そこを通って 向こうへ 行った、 姉が いたが、

2－012
taj-da əsin saaja nuŋan, taj əxinin gunən,
彼女のことも 知らなかった、彼は。 その 姉は 言う、

2－013
''əli eewa gələktis～'' gunən.
「ここで 何を 探しているのか、」と 言う。

2－014
''bii dɪltɪxɪn xulmi ičəčimi～ təə～ talɪ
「私が 頭の向いた方へ 歩き回ると、見ていると、ほうら 向こうには

2－015
əənmə əgdi bəjukkəəsəl eekkaal-da čupal bisi,'' gunən.
とても たくさん ヘラジカでも 何でも 全て いる、」と 言う。

2－016
''tajkaxaanma-da waajaa～n-da əməwgimčəs eewa ǰəbǰəp
「ほうれそれを 獲ってから 持って来ればよかったのに、何を 私たちは食べよう、

2－017
ǰəbǰəp, oodan.'' ''maŋga bəjə bisim,'' gunnəxən,
食べる事に なろう。」 「強い 人間 である、私は、」と 言いながら、

2－018
''ələ gaaja əŋunən-ŋu, waajan-ŋu.'' taɪŋɪ waaja～n,
「もう 長いこと やっていることか、 獲っていることか。」そのヘラジカを 獲った、

2－019
ǰəbǰəjidun, xugləǰijən eexun nuŋandun,
それが草を食べている間に。そうして寝ているのか、何か、彼は、

2－020
ǰəppən aasɪŋgɪjan, eexun *nado*,
食べた、再び横になった、いったい何が 必要だろうか、

2－021
bittə-gəčin dəŋsijən *chto li*,
私たちのように 働いただろうか、

2－022
xawaɪlan əsi-gdə, bǐjən tadu tixəm-dixən, buɣaɪ-da tixəm...
今 いただろう、そこに、 それから、

2－023
ŋənəjən talɪ～ ŋənəjən, bəjulbə gələktinəmi, eema-xa ʊjawan baxača-wu,
行く、 そこを、行った、 獣を 求めて行くと、何かしら 道を 見つけた、

2－024
tiiski aasɪnnɪxɪn bəgdij-də ŋaalaj əsin ɪssa.
それは 横になってみたら その自分の足も 自分の手も 届かないくらい広かった。

2－025
tixən, ulgumääjən əxintixin əməjgijən, ''əxi-jə～,'' gunən,
それから 訊いた、 姉へ、 姉の所へ戻って来た、「姉さん、」と 言う、

2－026
''taj eema ʊjanɪn,'' əxinin gunən, ''əxəl tawɪjaja, əxəl tawɪjaja,
「あれは 誰の 道なのか、」と（言うと）、姉は 言う、 「触るな、 手を出すな、

2－027
taj amban bittə amɪnmat əninmət ǰəpčə amban,''
あれは 魔物だ、私らの 父さんと 母さんを 食った 魔物だ、」と

2－028
gunən, ''tajwa əxəl tawɪjaja, *luchshe* sii tʊksaxal.''
言う、 「あれを 触るな、 むしろ お前は 逃げたほうがよい。」

2－029
''atam, tʊksaana,'' gəə əsi-gdə, ŋəələmu～
「オレは 逃げないよ、」と（言う）。さあ 今 恐ろしや、

2－030
tɪmannan-ŋʊ, ooxɪn-ŋʊ, əməjən,
次の日だか、 いつだか、 やって来る、

2－031
''ale～ko～me～ a～le～ko～me～ ale～ko～məskoojando～o-gda～
「アレ～コ～メ～、アレ～コ～メ～、アレ～コ～ムスコーヤンド～、

2－032
ale～ko～me～ ale～ko～me～ ale～ko～məskoojando～o-gdal,''
アレ～コ～メ～、アレ～コ～メ～、アレ～コ～ムスコーヤンド～、」と、

2－033
əməjən ambaxa, taj, ''an, doogdalɪ ə～ ajanɪn gəlbinin,''
やって来た、大きな魔物が、そいつは、「間に合ったか、 その良い 名を（聞いたぞ）、」
と、

2－034
əsi-gdə əməjən, ''gəə, eeča, taj kʊŋaxakan,''
今 やって来た、「さあ、どこへ（行ったんだ）、あの 子供は、」と（魔物は言う）。

2－035
taj kʊŋaxakan ɪlča, juujən, ''eema minəwə ǰəmnəčəs-i.''
その 少年は 立った、家の外へ出た、「何だ、僕を 食べにやって来たのか。」

2－036
''ǰəmnəčəw,
「ああワシは食べにやって来たのだ、

2－037
ǰuul, ǰuul iktə siglədun-də atas ɪssa,''

二本の、二本の 歯の 間にさえ　　足りないほどに（小さいなあ、お前は)。」

2－038
taj kuŋaxan gunən, ''kuŋaxan bəjə, ulənin masɪ bǐjən.
その 少年は 言う、「子供の 者の、肉だって 強い だろう。

2－039
poka ne budem əwijə, minəwə atas ǰəppə.''
まだ 食うわけにはいかないぞ、　　僕を　まだお前は食べるわけにはいかないぞ。」

2－040
''eexʊn, sii əj dikkəənin, bii əj dixəənin.''
「何、　おまえは そんなに 小さいのに、 オレは こんなに デカいんだぞ。」

2－041
adɪ dɪlɪlkan-ŋʊ, dɪlɪmɪn əgdi,
そいつは いくつ頭があるのだろうか、そいつの頭は 多い、

2－042
ňuŋunǰi dɪlɪlkan, əŋun, *zmeja, ottuda vykhodit* amban.
六つの 頭を持っている、あれだ、ヘビだ、そこから 出てきた、魔物だ。

2－043
cheloveka, ə～j əsi-gdə a～j *ma～len'kij chelovek,* bittəŋi *chto,*
（対するは）人間だ、この、今　小さ～な　人間、　我ら人間とが、

2－044
əsi *nachinajut* kusilčə, kusijə, kusijə, kusijə, kusijə,
今 戦い始めた、　戦う、 戦う、 戦う、 戦う、

2－045
tixəm-dixə～n bittə əŋunŋit, *nachinaet* əŋunən, *ustajot,*
そうしてから 我らが あれ（少年）は、 どうなりはじめた、 疲れてきた、

2－046
ne mozhet ustawat', potomu chto u nego, bezsmertjanyj, əŋun, əjgənin,
（魔物は）疲れるはずもない、 なぜなら そいつは、不死身だからだ、それ、体が。

2－047
vot tam eto, kak ego, krjakovyj utka, a tam krjakovyj utka,
ほうれ そこに この、ほら何と言ったっけ、マガモ、　そこに マガモが、

2－048
əmən ʊmokta, *on uletit,* taj ʊmoktawa *uronit,*
一個の 卵を、 その鳥は 飛び去ったが、その 卵を　落としていった、

2－049
gəə, əsi-gdə, *a potom* gunən, taj amban, nəkčičən
さあ、今　それから 言う、 その 魔物は、監禁していた、

2－050
əmən *devka krasivyj. malen'kawa prinjos,*

一人の 女の子を、美しい。 小さい娘だったのを ひっさらってきた、

2－051
i sprjatal, i ona rasla, ona-to chustvala.
で、隠していた、 彼女は 成長し、彼女は 感じ取った、

2－052
əməčə, əməčə, ičəččən, nuŋan, bittə bəjəŋit ugdəxələllən.
やって来た、(少年が) 来た、と。見た、 彼、 我ら 人間の仲間が 弱ってきている。

2－053
taj əŋunmə, *sholkovoj platokkɪ* əŋuntixi, *amur*tɪxɪ *vynjos*,
その あれ (卵) を、絹の ネッカチーフに (包んで) あそこへ、大河へ 持ち出した、

2－054
raz vytrjakhnul.
今 振り落とした。

2－055
tadukkaj, tadukkaj, əmən, *shshuka*, *svistil*,
それから、それから、一匹の カワカマスだかが、ぜーぜーと呼吸した、

2－056
govorit, *''daj,''* *govorit*, *''prinesi*, əmuwkəl, tajwa,
言った (少年は)、「くれ、」と 言う、 「持って来い、持って来い、それを、

2－057
nuŋan əjgənmən umoktawa, əmuwkəl, *i*,
彼の体を、魂である 卵を、 持って来い、 で、

2－058
tajwa əsixis əmuwwə bii-də atam bisi. eexunxan-da atan bisi.
それを 持って来なければ、私も いられなくなる。どんな豪の者も いなくなる。

2－059
əj tuuj ojodun, buu atawun bisi, čop ǰəbǰən munəwə.''
この 地面の 上、 我々は いなくなる、すっかり、食べてしまうだろう、我らを。」

2－060
tajwa, doosɪnča, tadu bisin. tixəm-dixən əmuwgičə, taj kuŋaxanma,
それを、聞いた、 そこに いる。 それから 持って来た、その 少年を、

2－061
eexunma-xa xəlbučən-ŋu uɣu buɣadukkaj eewa, ǰəpkitpə, əŋunmə,
何を 持って来たんだか、上の 世界から 何を、食べ物か、何か、

2－062
eexun, *bezsmerchennyj* əŋun, muuwə, tajwa umuwkaanan, ǰəpuwkəənən,
何か、 不死身の あれを、水を、 それを 飲ませる、 食べさせる、

2－063
eekkaǰɪ čupal, eeǰɪ-da čupal *maze*jan nuŋanman niilijən,

何やかやで すっかり、あれやこれやを すっかり全部 塗る、 彼の体に 塗る、

2－064
chtoby kusun ojgɪdan, gə, tixəm-dixən, *opjat'* ňaan-daxan kusiligijə,
彼が力強く 再びなるように、さあ、そうしてから、 再び、再び 戦い始めた、

2－065
kusiligijə, tixəm-dixən, taj-a əŋun, kuŋaxan..., taj-a əŋuxə,
また戦った、そうしてから、 その あの、 少年の、 その あの大きなあの、

2－066
*shshuka*xa, əməjgičə, umoktawa gaǰɪjan, amŋaduj.
カワカマスの所へ 戻った、 卵を 持って来る、口にくわえて。

2－067
tajwa, taj asɪ tujgəñji ǰawajan, tixən taj,
それを、その 女は すばやく つかんだ、それから その、

2－068
taj bittə bəjəŋit kuŋaxantɪxɪ buujən, buujən, tixən gunən,
その 我らが 人間の者、 少年に あげた、あげた、それから 言う、

2－069
''eexunma dabdačuɪsɪ～,'' gunən, ''bii ičəčimə, əjwə ičəwkəxəl,'' gunən,
「何を 怒っているのか、」と 言う、「オレが 見てやる、それを 見せろ、」と 言う、

2－070
nuŋantɪxɪn, ''ičəwkəxəl.'' tixən tes siŋgijəmi waadan.
彼に、 「見せろ、」と。 それから ひどく 苦しめて 彼が殺すために。

2－071
''bii asiw bisin, bii aǰaawɪ, asɪ bəjəwə waamɪ aǰaawɪ.''
「私の 妻だ。 私にとっては タブーだ、女性を 殺すことは タブーだ。」

2－072
''aja, əsilə-xə, asɪ-da bəjə bəjəwə waajan,
「いい、今やもう同じだ、女の 人だって 夫を 殺す、

2－073
nɪjawɪ-da bəjə bəjəwə waajan,'' ii təŋ bisin
男の 人も 妻を 殺す、」 そうだ、 正しい、

2－074
gə, əsi-gdə, taj-a kuŋaxan, gunən, ''o～j, ičəxə～l,'' gunən,
さあ、今 その 少年は 言う、「おい、 見ろ、」と 言う、

2－075
''əjwə, o～j'' ičəjən, ičəjən, soŋolča, ''xə～j buujgixə～l,'' gunən,
「これを、おい、」見る、 見た、 泣き出した、「ああ、返してくれ、」と 言う、

2－076
''*pozhalujsta*. mindu buujgixəl. bii xunaaǰɪbɪ sindu buuǰəw.''

「どうか。　私に　返してくれ。私の 娘を　お前に やるから。

2－077

xʊnaaǰɪn tadʊ.　xʊnaaǰɪn gunən, ''əxəl buujgijə, waaxal,
娘は　そこにいる。娘は　言う、「返さないで、 殺して、

2－078

siŋgijəŋǰi waaxal,''　tajwa ʊmoktawa əŋunčən,
苦しめて 殺して、」と。その 卵を　どうした、

2－079

čapčačatɪn tadʊkkaj　əmən ňajamŋjan,
壊した、 そこから 一羽、忍び足で歩き出た、

2－080

utjon'ka mal'nkaj.　tadʊ bisi　ooča,　tajwa, bəgdiwən xəgdəlixitin,
カモ、 小さなカモ。そこに いる、出て来た、それを その足を ひきちぎったらば、

2－081

taj bəjəxə,　bəgdin xəgdəjkinən,　aasɪxan xəgdəlixitin,　taj bəjəxə,
その 大きな奴の、足も ひきちぎれた、　ひきちぎった、その 大きな奴の、

2－082

ŋaalan xəgdəjkinən,　gəə tii　siŋgijəŋǰi waačatɪn, təǰə,　eewʊ oo,
その腕も ひきちぎれた、さあ そうして 苦しめて 殺した、 本当の話だか、何だか、

2－083

taj əwəŋki　təəluŋnin, eelɪ　saas-ɪ,
これは エウェンキーの 話だ、　どこから 知ることができようか、

2－084

təǰəgdəwə,　alaxɪččawa,　aačɪlba-gda　alaxɪččawa.
本当のことか、嘘かを、　無いことなのか、 嘘なのかを。

1994年8月20日 ベログリンカ村にて
E. M. Samandina 氏より録音

3. ələxəs bʊɣa baldɪča
最初に 天が 生まれた

3−001
gəə, ələxəs bʊɣa baldɪča. gəə, bʊɣa baldɪmɪ əsi-gdə, ŋənəčə, tii,
さあ、最初に 天が 生まれた。さあ、天は 生まれると 今、 行った、そうして、

3−002
eema-da bəjŋəltiki čʊpal gunčə,
どんな 動物たちへも 全員に 言った、

3−003
''ǰuulǰi bəgdilkənmə, koŋnɪjmǰɪ dɪl... ňuuktəlkənmə ičəmi oodɪxɪn
「二本の 足を持つ者を、黒い 頭、 髪の毛を持っている者を 見たらば、

3−004
čʊpal tʊksandawaj,'' gunčə,
とにかく 逃げることにせよ、」と 言った、

3−005
əsi-gdə taj ŋənəčə, taj əŋun, *dikaj kaban*, *po nashemu* ujguli(1),
今 それが 行った、その 何だ、野生の イノシシ、我々の言葉では イノシシ、

3−006
ujguli gunčə, ''gə, oon, oon taj.
イノシシが 言った、「ふうん、どんな、どんな奴なんだ、そいつは。

3−007
mindukkəj soo aačɪn ədu.''
オレより 強い奴なんか いないぞ、ここには。

3−008
əj tuujdu, əj bʊɣadʊ. bii-gdə, bii-gdə-kən soo bisim.''
この 大地には、この 世界には。オレが、 オレこそが 強者 だ。

3−009
taj bʊɣa gunčə nʊŋantɪxɪn, ''sindukkəj soo bisin, ǰuulǰi bəgdilkən,
その 天は 言った、彼に、 「お前より 強い者は いる、二本の 足を持ち、

3−010
i koŋnɪjn dɪlɪlkaan. gəə, məənmi saamkal oodɪxɪs-ɪ,
そして、黒い 頭を持っている者だ。さあ、自ら 知れ、 それなら、

3−011
bii əməwkəňəw tɪmanna nʊŋanman, baxaččaasʊn,''
私が 来させてやるから、明日 そいつ（人間）を、出会うがよい、」と（言う）。

3−012
gə tixən əsi-gdə bʊɣa ŋənəčə,
さあ そうしてから 今 天は 去った、

3−013
taj ŋənəjiduj gunčə čʊpal čʊpal bəjŋəltixi dəɣiltixi, gunčə,
それは 去る時に 言った、全ての 全ての 四足の獣たちへ、空を飛ぶ鳥たちへ、言った、

3−014
''ǰuuǰi bəgdilkən ičəmi oodixin čʊpal tʊksandawaj-e,''
「二本の 足を持つ者を 見たら、そしたら 皆 逃げるがよい、」と。

3−015
əsi-gdə xɪŋkɪkkan, *rjabchik*kan, əsi-gdə〜 əŋunən-nə, əŋunəsini,
今 エゾヤマドリ、エゾヤマドリは、今、 どうしていた、どうしている、

3−016
doočɪjan, *rjabchik* čičiəduəni saʊ〜-da.
木にとまっていた、エゾヤマドリは 騒いでいる、うるさく。

3−017
ona ne... əčə dooldɪja, nʊŋan əčə dooldɪja,
話を聞かなかった、彼女は 話を聞いていなかった、

3−018
gə tiixəmi, ''eewa gunəs-e〜,'' ulgumičə *rjabchik*kaxan,
さあ そうして、「何て 言ったんですか、」と 訊いた、小さなエゾヤマドリは、

3−019
''aɪ,'' bʊɣa gunčə, ''gə, əčə dooldɪja omɪ-da xəmə bixəl-tə.''
「ああ、」と 天は 言った、「さあ、もし聞いていなかったの なら、 黙って いろ、」と。

3−020
gə, tiixəmi əsi..., əsin ičəččə, əsin alaačča,
さあ、そうして 今、 見てもいないし、待ちもしなかった。

3−021
*ona ne boitsja chelovek*aǰi tajwa *petlja*kaxanma oǒjas,
ヤマドリは 恐れない、人間を、 あれを、小さな紐の輪による罠を 作って、

3−022
povesish' ona sama tuda zalezɪt,
吊るしておけば、ヤマドリは 自分で勝手に そこに はまり込む、

3−023
sama məənəxən məənmi waaǰan.
自分で、自分で 自らを 殺す。

3−024
əsi-gdə, gəə taj ujguli, ujgulittixi, bəjəwə, gunčə. ''*tol'ko* əxəl waaja,
今、 さあ その イノシシ、イノシシへ、人間へ 言った。「とにかく、殺しはするな、

3－025
nuŋanman əxəl waaja, *prjamo* ojolan təədəj, ǰuul seendun ǰawadaj,
イノシシを 殺すな、 まっすぐ 上に 座って、二つの 耳を つかんで、

3－026
*kruch*daj, seenman tes-da, *tol'ko* əxəl waaja, bəjə eejan
ねじるようにせよ、耳を 強く、だ。ただ 殺すな、 人は どうにかする、

3－027
taj, waapku əxəl-gdə gojowo waajan-ŋu,'' gəə ŋənəjən.
その、殺すなら すぐに殺せ、長いことかかって 殺すな、」と。 さあ 去った。

3－028
gəə ŋənəjən taj buɣa, ŋənəjən talı～,
さあ 去った、その 天は、 去った、そこを、

3－029
taj ujguli-xə ičəččə, taj ǰuuǰi bəgdilkən əməjən, məjgəjən,
その イノシシは 見た、 その 二本の 足を持つ者が 行くのを、考える、

3－030
''eexun taj ǰuuǰi bəgdilkən, nuŋan eexundukkaj kusun bǐjən,
「何だ、あの 二本の 足を持った奴は、奴の いったいどこから 力が出ると いうんだ、

3－031
a bii diɣinǰi bəgdilkən bii bəgdixəəw-də iktəxəəw-də sootki,
一方 オレなんかは 四本 足だし、 オレの 大きな足だって、大きな歯だって すごい、

3－032
taj iktədukkən toɣonapčan, *iskry letaet* iktədukkin, gə, tajwa,
その 歯からは 火花が散る、火花が 飛んでいる、 その歯から、さあ、それを、

3－033
əsi-gdə buɣa, ičəččə, *prjamo* ojottıkın xətəxənčə, ojodun təɣəčə,
今 天は、見た、 まっすぐ 上へ 飛び乗った、上に 座った、

3－034
ǰuul seenman mujča, mujča, mujča, mujča,
二つの 耳を ねじった、ねじった、ねじった、 ねじった、

3－035
əsi-gdə taj bimi xuktiktəjən ujguli bimi xuktiktəjən, xuktiktəjən
今 そうして 四本足で獣が走り回る、イノシシが 走り回る、 走り回る、

3－036
ənugdi-ǰə. nuŋandun *bol'noj uxo*, *uxo*, ənugdi.
痛くなってきた。 イノシシには 痛い、 耳が、耳が 痛い。

3－037
gəə, tixəm-dixən dəjčə. gəə, ''ələə～,'' gunčə,
さあ、そうしてから 疲れた。さあ、「もう十分だ、」と 言った、

3－038
''*bol'she* ədukkəj atam,'' təj ujguli gunčə,
「もう これからは しない、」と その イノシシは 言った、

3－039
''ooxɪn-da ooxɪn-da atam tawɪjaja. təǰə～ bʊɣa gunčən
「どうにも、どうも しないよ、手を出さないよ。本当だ、天の 言ったことは、

3－040
bǐǰəji-deeda. sindukkəj soo, təŋ ǰuuǰi bəgdilkən.
いるのだと。お前より 強いと、たった 二本の 足を持つそいつは。

3－041
a bii məjgəčəw,'' gunčə, ''ǰuuǰi bəgdilkən, eexʊn kusun bǐǰən,''
だが オレは 思った、」と 言った、「二本 足の者が、いったい何の 力が あるのだと。

3－042
min bəgdixəəw diɣin, *eshshjo daj* əŋuxəəw, əj əŋduŋə iktəxəəw,
オレの 大きな足は 四本だし、 さらに ほれ、これも、 この 大きな 歯も、

3－043
daj iktədukkəj *eshshjo iskry letaet.*''
ほれ、歯からは さらに 火花だって 散るし。

3－044
a nʊŋandʊn eexʊn-da aačɪn taj, ǰuuǰi bəgdilkəkəndu,
なのに 人間には 何にも ない、あの、二本の 足を持っている奴には、と

3－045
tii məjgəčəw-e～,'' gunčə, gəə taj, gəə taj dabdajan,
そう 思ったんだが、」と 言った、さあ それは、 さあ イノシシは 負ける、

3－046
dabdača. ''gəə～ ədukkəj čaaskɪ atam tawɪjaja,'' gunčə,
負けた。 「さあ、 これからは ずっと 手を出さないよ、」と 言った、

3－047
''ǰuuǰi bəgdilkənmə atam tawijaja, ičəmi oodɪxɪn *srazu* tʊksaǹjaw.''
「二本の 足を持つ者に 手を出さない、見ることに なったら すぐに 逃げるよ。

3－048
dabdača. əj əsin, əsin, *eto* əsin *skazka* bisi *eto* ulgu. *eto*, ulgu.
負けた。 これは おとぎ話ではない、 これは 伝説だ。これは、伝説だ。

3－049
eto ne skazka, a rasskaz, eto tochnyj, gəə *obozhdi,*
これは 架空の話ではない、じゃなくて 談話だ、 これは 正しい、 さあて ちょっと待て、

3－050
əsi-gdə taj bʊɣa ŋənəčə, ŋənəsinən, ǰuul ŋɪnaxɪnma ooča,
今 その 天は 去った、 去る時に、 二匹の 犬を 作った、

3－051
ǰuul *sobaka*wa *sdelal.* ''gə, bii ŋənəktə,
二匹の 犬を 作った。「さあ、私は 行く、

3－052
əsi gənnəktə,'' nuŋatıl əŋunnətin, *chtoby*
今 取りに行ってくる、」と。彼ら二匹の犬の、 あれを、 そのために、

3－053
dykhat' dyshali, sami delal, oni-to lezhat,
息をする、息をしていた、 自分でした、 彼らは 横たわっている、

3－054
gə, ŋənəčən, ''bii gənnəktə nuŋatıl əjgənətin,
さあ、去った、「私は 取りに行ってくる、 彼らの 体を、

3－055
chtoby ooxın-da ədətin budə, *tak budut zhi～t' zhit'.*
いつになっても死なないようにするために、そうすれば ずっと生きられる。

3－056
gəə əsi-gdə taj-a əŋun-ə, ŋənəčə bʊɣa taj bəjə, əjgənmən gənnəčə.
さあ 今 それは 行った、天は その者たちの、体を 取りに行った。

3－057
gəə taj aačındʊn, əŋun əməčə. eema əməčən,
さあ 天が いない時に、あれが やって来た。何が 来たんだったか、

3－058
eema, *uzhe zabyla* bičə. *a kto zaprishjol-to,*
何が、 もう 忘れてしまったようだよ。 だが 誰だか やって来た、

3－059
ŋii əməčən-ŋu *nu vo obshim prishjol.*
誰が 来たんだったか、ま、とにかく やって来た。

3－060
chelovek, chelovek ili zver'-čixə, gəə, gunčə, taj *sobaka*saltıxı-bbə,
人が、 人だか 獣だか、 さあ、言った、その 犬たちに、

3－061
əŋunmə *dykhan*ıjatın *sdelal* ee～ bʊɣa-ta *ne sdelal,* *oni uzhe karauljut,*
あれを、彼らの命を 造った、いや、天は 造ってなかった、彼らは もう 狙っていた、

3－062
bʊɣa taj, bʊɣa gunčə, ''*oni golaj, bez ogoni, bez shkura,*
天は その、天は 言った、「彼らは 裸で、 火もないし、毛皮もない、

3－063
kak odin mjaso, *nu* taj, *vot* bʊɣa gunčə,
まるで ただ 肉ばかりだ、さあて その、ほれ 天が 言った、

3－064
''bii, bii sundu, əŋun *shuba*sal buuktə, ooxɪn-da *nikogda nikogda*,
「私は お前たちに、この 毛皮を やろう、いつだって いつになったって、

3－065
atan amap... əŋun atan manawwa, *a*, əŋun, tuwə əmən aňŋandʊ,
無くならない、 尽きることのない、 冬に、ある 一年に、

3－066
əmnə, ŋňaktasʊn ojowʊ tikčən, xəntə baldɪgǐjan.
ある時、犬の体毛が 上のが 抜け落ちたならば、別のが 生えてくるだろう、

3－067
gəə, tajjačɪn oojɪ *shuba*wasʊn buuktə.
さあ、そんな風に 作って、そういう毛皮をお前たちに やろう。

3－068
a bii, əŋunmə, əjgənəsun ookta.''
さて 私は あれを、お前たちの体を 作ろう。」

3－069
a to bʊɣa gənnəčə. əj bəjəsəldu, taj bəjəsəl-to *lezhat*,
さて その 天は 取りに行った。この 者たちに、その 者たちは 横たわっている、

3－070
chelovek-to, ''*i vsjo zemlja* əŋunǰən, oǒjan,
(来た) 人だかは (言う)、「(天は) こうして 全ての 大地を するだろう、作るだろう、

3－071
ǰalʊpčan, a～ əmi budə-xə.
(そうしていたら地上が) いっぱいになってしまう、(何者も) 死ななかったならば。

3－072
gəə, bii ookta, əmən *pokolenie*wa *puskaj* biŋitin, *eto umurut*,
さあ、私が 作ろう、一つの 世代が いるとしよう、それが 死ねば、

3－073
a vtoroj pokoleno budut rasti,
他方で 二番目の 世代が 成長するだろう、

3－074
a to i vsje, *budut rasti*,
そうじゃなくて、皆が (不死なら) 皆育つだろう (そうしたら)、

3－075
kto drug drushku budut s'edat'.
誰もが皆、互いが お互いを 食い尽くしてしまうだろう。

3－076
a ryba-da ne budet ili nichego eexʊn-da,
魚も いなくなるし、または 無くなる、なんにも、

3－077
olo-da eexʊn-da aačɪn oǒjan.'' gəə taj-da *tochno,*
魚も 何も いなく なるだろう。」 さあ、それも 本当だ、

3－078
ii, taj-da təǰə. təǰə taj. gəə, əsi-gdə, ŋənəčə.
そう、それも 正しい。事実だ、それも。さあ、今、 去った。

3－079
bʊɣa əməjgičə, ə-je～ taj ŋɪnaxɪnŋɪ *shuba*lkasal *uzhe* geexʊktaja.
天は 戻ってきたが、あれあれ その 犬たちが 毛皮を纏った者たちが もう 歩いている。

3－080
''bəjə xəsənin... ŋii oočan sundu, ŋii oočan, əjgənəsun.''
「人の 言葉を... 誰が 作ったのか、お前たちに、誰が 作ったんだ、お前たちの体を。」

3－081
taj omŋoča, ŋii, *kto sdelali,* taj oočan, *a* bəjəxəsəl,
そいつを 忘れた、 誰だったか、誰が 作ったか、そいつが 作った、 人間たちが、

3－082
alɪllan alɪllan, nʊŋan dəəlbən əŋunmən,
天は怒った、怒った、彼の 顔の あれを、

3－083
əj ʊntaj doktonman atalčan, dəəlbən daapkɪ iktəčən.
その 自分の靴の中の 長靴下を 剥ぎ取った、その顔を その正面から 叩いた。

3－084
''ədukkəj čaaskɪ aačɪn xəsələ oǒjasun.
「これから この先 言葉は無く なるだろう、お前たちは。

3－085
bəjə amʊnman ǰəbǰəsun.''
人の 大便を 食べるようになるだろう。」

3－086
vot tiixəm ŋɪnaxɪn aačɪn xəsələ ooča. *eto* təǰə,
ほうら そんなわけで 犬は 言葉が無く なった。 これは 本当だ、

3－087
eto pravil'nyj, eto, eto ne skazka təŋ bisin.
これは 真実だ、 これは、これは おとぎ話ではない、正しいほんとのことだ。

(1) Cincius (1982) はこの語 (ujguli)を、「民話における、とても大きなクマ、クマの主人」としている。

1994年8月20日 ベログリンカ村にて
E. M. Samandina 氏より録音

4. əmən bəjə baldǐča
ある 人が 暮らしていた

4−001
əmən bəjə baldǐča, əj dʊlɪn bʊɣadʊ, bittə,
ある 人が 暮らしていた、この 真ん中の 世界に、 我々の、

4−002
vot eto nasha sveta eto nazvanie... gəlbinin dʊlɪn bʊɣa.
ほら この 私たちの 世界さ、その 名前は、 名前は 真ん中の 世界、だ。

4−003
bittə xəjgidəədut amban bʊɣanɪn. bʊnɪnkan bʊɣanɪn.
我々の 下には 魔物の 世界だ。 死んだ者たちの 世界だ。

4−004
a bittə uwidəədut, taj uwu bʊɣa, dəɣiktiisəl taj dəɣiktiisəl.
一方 我々の 上には、 この 上の 世界は、飛ぶ者たちの、その 飛ぶ者たちの（世界）だ。

4−005
uwu bʊɣadʊn eexʊn, bəjə *chto li*, bəjətin bəjə,
上の 世界には 何が（いるか）、人間だろうか、人といえば 人、

4−006
nu ǰəpkuntin əŋun. *srazu* ičəǰəəs, gunnəxən〜 buu...
だが 彼らの食べ物は あれだ。すぐに 見るだろう、と 言いながら、 私たちは、

4−007
bii ičəččəw təəluŋ tii bisin-i. ičəǰəəs,
私は 見た、 話が そのようであるのを、話がそのようであることを。見るだろう、

4−008
taj asal əməjə, ɪla〜n keetɪxan əməjə, əŋučəl,
その 女たちが 来た、 三羽の 川カモメが 来た、 ああした、

4−009
taj-kka, bittədimi eema keetɪxan, ɪla〜n keetɪxan əməjə,
それは、 ネギダール語で 何と、川カモメ、三羽の 川カモメが 来た、

4−010
əmən əənmə *prjamo* siwundulə *blestě*jan. taj *krasivee vsekh*,
一人は すごく、まっすぐ 太陽の 輝きだ。 それは 美しい、 誰よりも、

4−011
əənmə iidukkəj-də aja taj asɪ, taj-a *srazu*,
すごく、どれよりも きれいだ、その 女は、 彼女は すぐに、

4－012
taj　təəluŋ taj,　　*eto*　*skazka*,　　*ne pravda*
この 話は、これは、これは おとぎ話だ、真実ではない、

4－013
nu,　　əsi-gdə əməjən gəə,　əmnə　eexun,　əmən　bəjə　baldɪča,　　əŋunən,
さあて、今　　来た、 さあ、ある時 何が、 一人の 人が 暮らしていた、あれだ、

4－014
əninin əŋundukkəj,　uwu～ buɣadukkaj　bisin,　amɪnɪn　dulɪn　　buɣadukkaj,
母は　あそこから、 上の　世界からの者 だ、　父は　真ん中の 世界から、

4－015
amɪnɪn gəlbinin əŋun,　ɪldaanɪ,　　əninin gəlbinin eema-xa,　　ŋii-də əsin saaja,
父親の 名前は　あれだ、エルダーニ、母親の 名前は　何とかいうが、誰も　知らない、

4－016
tajwa,　əsi-gdə～ taj-a　əŋunən,　bisi,　　tixən-ə　əninin,
それを、今、　　それが ああする、暮らしているが、それから 母は、

4－017
xutəj　　asɪjan gələjən,　uwu buɣadukkaj,　məən əŋun...　*rodnja*dukkaj,
自分の子供の 妻を　求める、 上の 世界から、 自分の　　親類たちから、

4－018
eedukkaj-wu,　əməŋitin,　əməŋitin,　uwu buɣadukkaj.
どこからから、 来させる、 来させる、上の 世界から。

4－019
tadu　əənmə　gojolo əčə bisi,　əmən asatkan,　ədu,　tii taj dulɪn　buɣadu,
そこは そんなには 遠く　なかった、一人の 女の子、ここに、この　真ん中の 世界に、

4－020
bittə　buɣadut,　baldɪča,　　baldɪčan-ŋu～,
我らの この世界に、暮らしていた、暮らしていたんだが、

4－021
amɪnman　əninmən　　amban ǰəpčəl,　　*a*　nuŋanman ǰajačal,
その父親も その母親も、 魔物が 食べてしまった、しかし 彼女を　隠した、

4－022
eečal-wu　　səktə　xəjgidəədun,　gəə,　taj-a　əgdəŋə oodan,　ɪsowwun,
どうしたか、 敷物の 下に、　　さあ、彼女が 大きく なった、すっかり育った、

4－023
buɣaskɪ juujən,　buɣala～-da təɣəčiktəjən,　taj　səktə　xəjgidəəlin gələktijən,
外へ　出た、 外に　　座っている、 その 敷物の 下を　　探した、

4－024
əninin　　tes　　taj　səktə　xəjgidəəlin nəəktəčə　　ǰəpkitkəlbə,
その母親は たくさん その 敷物の 下に　　置いておいた、 食べ物を、

4－025
eekkalba, uləkkəlbə, gə, tajkaxa～nma baxajaan ǰəppən, tixəm-deen taj,
いろんな物を、肉を、 さあ、そのそれを 見つけて 食べる、それから その、

4－026
səktə xəjgidəədun čʊpal manapča, manawwan,
敷物の 下にあった物は すっかり 尽きてしまった、無くなった、

4－027
ǰəbǰəxin aačɪn oodan, asatkan.
食べ物は なく なった、女の子は。

4－028
tixəm-dixə～n, taj nəxunin bičə, əmən kʊŋaxan. tajwa əsin saaja,
それから、 その 弟が いた、一人の 男の子。 そのことを 知らない、

4－029
nəxulkənmi-də əsin saaja, eelkanmɪ-da əsin saaja.
弟がいることを 知らない、 どんな兄弟がいるのかも 知らない。

4－030
tixəm-dixə～n tadʊ təɣəčiktəjidun, təɣəčiktəjidun-e～ əmən kʊŋaxan,
それから そこに 座っていると、 座っているときに、 一人の 少年が、

4－031
əŋun... ŋənəčən, nʊŋantɪxɪn, taj asatkantɪxɪn, gunən,
あれだ、行った、 彼女の方へ、その 女の子の方へ、言う、

4－032
əxinmi saača, gunən, ''sii,'' gunən,
自分の姉と わかっていて、言う、「あなたは、」と 言う、

4－033
''mindukkəj sagdɪnma bəjə, saajɪ bǐjəs～'' gunən,
「私より 年上ですから、(そのことを) 知っている でしょう、」と 言う、

4－034
''eema ǔjanɪn,'' gunən taj-e, ''əmən ǔjawa baxačaw-e～,'' gunən,
「何の 道だろうか、」と 言う、彼は、「一本の 道を 見つけました、」と 言う、

4－035
''tiiski, *ves' rostom* aasɪnčaw,'' gunən,
「あっちへ、丸々僕の身長くらいの幅の道だ、僕が横になって、」と 言う、

4－036
''tii-ji, tii, əmən gɪjaktanɪn, əj min *rosta*dukkaw-da əgdiŋə～,''
「このようだ、そうして、一歩の 歩幅は、 この 私の 背丈よりも 大きい、」と

4－037
gunən, gunən, taj əxinin gunən, ''tajwa əxəl asaktɪja,
言う、 言う、 その 姉は 言う、「それを 追いかけてはいけない、

4－038
sii *luchshe,* əŋunmə ǰəbdəwəj əŋunmə waaxal,''
お前は まだ、 何か 自分たちの食べ物となる 獣を何か、獲れ、」と（姉は言う）

4－039
''əli～ əənmə əgdi iijučən xullə～,'' gunən,
「その道に沿って、とても たくさんの 野生トナカイが 行き来しているんだよ、」と 言う、

4－040
''əli～-də, əsitin gojolo bisi bǐǰən-e～,'' gunən,
「その道に沿って、そんなに 遠くへは行ってない、彼らは、」と 言う、

4－041
''tajwa waajan, əmuwkəl, bii-də ǰəbǰəəw aačɪn ooča.''
「それを 獲って、 持って来て、あたしも 自分の食べ物が 無く なったのよ、」と。

4－042
''sii-dəə ǰəbǰəəs aačɪn ooča,''
「あなたも 食べ物が 無く なったのか、」と。

4－043
ee taj, maŋga soo bəjə bisi,
何か、それは、すごく 力の強い 人が いるのだ、

4－044
''bii ulguxəənəm, gojo tuksaǰan *chto li,*'' ŋənəčən,
「私が 話してやろう、（その強い者が）遠くへ 逃げたりするだろうか、」と、 行った、

4－045
ǰuul bəjə ɪlan bəjəwə səpkələčən-də. ŋaalaǰɪ uksajgɪčan.
二人の 人間を、三人の 人間を ひっつかんだ。 手で 引きずっていった。

4－046
əxintixi ŋənuwgičən, tiixəm-dixən əmnə təɣəččən,
姉の所へ 連れて行った、 それから ある時、座っていた、

4－047
təɣəččən məən ugdanduj, nuŋan ugdan eexun taj,
座っていた、自分の 白樺製の夏用の住居に、彼の 住居は 何か その、

4－048
prostoj jurta, əxinin ǰoonɪn *mezhdu* əŋun,
単なる ユルタだ、 その姉の 家は、 それら（崖）の間にある、

4－049
kadaa, *tam sprjatal ejo, ona tam rasla,*
崖だ、 そこに 隠した、彼女を、彼女は そこで 育った、

4－050
tadu ǰajačan, taj-a dootɪn eewa-da bəjəwə-də əsitin saaja,
そこに 隠した、 その 中で、 何も、 人間さえも 知らない、

4－051
eewa-da əsitin saaja. tixəm-dixə～n tixəm-dixən, uləŋŋən xujuwčən,
何も 知らない。 それから それから、 肉を 煮た、

4－052
ǰəpčən, ňaan, ňaan xujuwgičən, ňaan xujuwgičən,
食べた、 また、また 彼女は煮た、 また 彼女は煮た、

4－053
eewa tes nuŋantıxın tadu ulə,
何を たくさん 彼らのところに、そこには 肉が、

4－054
eexun ulə, *malo chto li* nuŋatıl eewa ǰəppə *krome* əŋun, uləwən,
何の 肉だか、少ないか、 彼らは 何を 食うだろうか、肉以外に、

4－055
eexun bittə-ičin əŋunmə *khleba* ǰəppə *chto li*,
何が 私らと同じようにあるだろうか、あれを、 パンなんか 食べるだろうか、

4－056
bittədu,
私たちにはあるけれども、

4－057
khleba bisixin, *koneshno* ǰəpumčəl, tixəm-dixən, səktəwwəl,
パンが あったならば、もちろん 食べたことだったろうよ、それから、 布団を敷いた、

4－058
a～ ǰəppəə～n aapuxaččan. tixəm-dixən səktə xəjgidəəlin doolduwwan, dooldıča,
さあ、食べてから 横になった。 それから 布団の 下から 聞こえる、 聞いた、

4－059
ası bəjə dılganın, dılganča, oon-tı bičən-e～ oon-tı bičən,
女の 人の 声だ、 声がした、どんな だったかねー、どんな だったかねー、

4－060
''jewe～ je～we～ do～ıkan dulm buɣa solının
「イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、真ん中の 世界の 川の上流、

4－061
jewe～ je～we～ do～ıkan bıkaawu ŋaaladu～ muuləmi
イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、暮らしている、手には、 水の中を行って、

4－062
jewe～ je～we～ do～ıkan bıkaakın bagdarın xulajm minəwə
イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、暮らしている、白い、 赤い、 私を

4－063
əjələlə min ŋaalaj ǰuuləə～n jewe～ je～we～ do～ıkan,
沈めて、私の 手を、 二人、 イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、

4－064
sinəwə gənnəwkənən,'' gunə, əj-*to* kuŋaxan, gunən,
おまえを 取りに行かせて戻って来させる、」と 言う、 この 子供は、 言う、

4－065
ulkan kuŋaxan gunən, məən buutuw uutandukkaj əxi ŋənələ,
子供は 言う、 自分の 冬用の狩猟小屋から 姉が 行くのに対して、

4－066
''bii əsim asatkan bisi. atam ŋənəjə, atam ŋənəjə～,'' gunən,
「私は 娘ではない。 私は 行かない、私は行かない、」と 言う、

4－067
ag-da gojoptı bəjə, bəjədukkəj baldıja bəjəktə, bəjədukkəj,
もうずっと以前に 大昔の 人は、 人間から 生まれた 人間は、 人間から、

4－068
ıtka tii bičən.
その決まりは そのよう だった。

4－069
ulkan kuŋaxan, nıjawı xutə, məən ǰooj ooxm-da əsin noodaja,
男の子だ、 男の 子供、 自分の 家を いつだって 捨てることはない、

4－070
gəə, tixəm-deen aačıgda ojgıča. aačıgda ojgıča～ tii bisin.
さあ、そうしてから、(その声は) 無く なった。 無く なった、 そうして いた。

4－071
tii bimdixə～n, ňaan-daxan tii dooldıjan,
そうして 暮らしていたが、また そうして 聞いた、

4－072
taj səktənin xəjgidəədukkin, bəjəj əsin ičəwkənə, asatkan dılganım, ňaan,
その 敷物の 下から、 自分の姿は 見せない、 女の子の 声だ、 また、

4－073
''jewe～ je～we～ do～ıkan dulın buya solmm,
「イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、真ん中の 世界の 川の上流、

4－074
jewe～ je～we～ do～ıkan, solmm maataduj,
イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、川の上流、

4－075
jewe～ je～we～ do～ıkan akım uŋal ǰoolanı
イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、私の兄の

4－076
jewe～ je～we～ do～ıkan bagdıjm olı,'' gunən əxinin,
イェウェ～ イェウェ～ド～イカン、白く なる、」と 言う、 姉は、

4－077
''əməŋin　　məənəxən,　əməŋin　　məənəxən.''
「来ればいいんだ、自分で、　来ればいいんだ、自分で。」

4－078
''bii　atam ŋənəjə,''　baldɪča　kuŋaxan,　eema-da　ǰoloŋ,　ǰoloŋdukkaj,
「私は 行かないよ、」と 生まれた 少年、　さまざまな 石から、石から、

4－079
kuŋaxan　bəjə,　məən　ǰooj əsin noodaja,　asatkan,
少年という 人は、自分の 家を いつだって捨てることはない、 女の子は言う、

4－080
''əmən　ǰoodu　bisim　bii,''　tixəm-dixə～n　tixəm-dixən əsi-gdə,
「一人きりで 家に　いるのよ、私は、」と。それから　それから　今、

4－081
əmuwčən-ŋu　eečan-ŋu　tajwa.　gəə,　ələə　*etim*　*konchatsja.*
連れて来たんだか、どうしたんだか、それを。さあ、そこまでだ、これは 終わりだ。

4－082
ona　*spat' zakhatela,*　əŋunən,　*i skazala,*　*zavtra prodalzhaem,*
彼女は 眠たくなってしまったのだ、あれだ、 話した、　明日　続きをしようと。

4－083
aj,　*tak i*　*ne prodolzhala*　*ona-to umerla.*
ああ、そうして 続きをしなかった、 彼女は 死んでしまったのだもの。

1998年8月18日 マゴ村にて
D. L. Kini 氏と E. T. Paskaeva 氏より録音

5. *razgovor pro tret'ju sestru emmu po negidal'skij*
ネギダール語による三番目の姉妹のエンマについての話

5－001
[K]nu, tixən bii gunəm nʊŋantɪxɪn, nʊŋantɪxɪn ŋɪjɪjčaw,
さて、それで 私（エンマ）は 言った、彼（ペーチャ）へ、彼へ 手紙を書いた、

5－002
''oon-mal əŋunmi ŋənəǰəw-e～ sinətki,
「何とかして そうなれば 私は行く、 あなたの所へ、

5－003
oon-mal ňaxatkal oon-mal ŋənəǰə,
なんとかして 少しよくなるだろう、 なんとかして 行く、

5－004
bii-də əənəm apčɪm-ɪ,'' əŋunmən, *vitka* amɪnman baxača, *nu,*
私も とても 行きたくてもがく、」と。あれを、ヴィーティカの 父親を 見つけた、さあ、

5－005
ona do etogo nʊŋan saača bǐǰən. əǰələj-də əŋunə,
彼女は それまでには、彼女（エンマ）は 知ったの だろう、 まだ、 あれだ、

5－006
əǰələj-də *vitka* əǰəlin-də budə, əŋunmə, *ona ego* saajan,
まだ、 ヴィーティカは まだ死んでいなかった、 エンマは ペーチャを 知った、

5－007
nʊŋanman saajan, iidu-də bisiwən, *nu, potom,* əŋunən,
彼のことを 知った、どこに 彼が住んでいるかを、さて、それから、ああした、

5－008
vitja bučələn, əŋunčən, ŋɪjɪjčan, nʊŋantɪxɪn,
ヴィーチャが 死んだ時に、どうした、書いた、 その父親（ペーチャ）へ

5－009
*otvet*wa ŋɪjɪjčal te～s-da, əj-ičin oojɪ əŋunmə uŋčəl.
返事を 彼らは書いた、 たくさん。 このような あれを 送った（ペーチャは）。

5－010
*kasseta*wa *chto by,* *ona* məən bisij taj *kasseta*tɪxɪ ŋɪjɪjdan.
カセットを、ああするために、彼女が 自分の 人生を その カセットに 録音するようにと。

5－011
čopal oon bičəwki, *vot piriod* *ikhnij rasstavanie.*
全て、どのように 彼女が暮らしたかを、ほうれ その時期のことを、彼らの 別れの。

5-012
kak *oni* *tam* *zhili.*
どのように 彼らが そこで 暮らしていたかを。

5-013
nu, oon bičəkkən, nuŋanman noodačan, noodamaččalaj,
そう、どのように 彼女が暮らしたか、彼のことを 捨てて、 互いに別れた時に、

5-014
oon ojgɪčatkaj, eenǰɪ bičəkkəl,
そのあとどのように 自分たちのことを自分が感じていたかを、どうやって 暮らしたかを、

5-015
oon-da, čʊpal ŋɪjɪjdan tadʊ,
どのようにかを、すっかり全部 録音するようにと、そこで、

5-016
a məən bičəwki, nuŋan *kassetawa* uŋčə,
一方でペーチャは 自分の 暮らしを、彼は カセットに 録音して送ったんだか、

5-017
ili tixən..., *emma* tajwa dooldɪčča,
もしくは 書いたんだか・・・ エンマは それを 聞いていた、

5-018
oon-da, oon bičəkkən, *tozhe* tes,
どのように、どのように 彼が暮らしたかを、こっちも たくさん、

5-019
''əməmi bii sinətki čʊpal tajwa ulgučənǰəw.
「あなたが来たら、私（エンマ）は あなたに すっかり それを 話しましょう、

5-020
i dooldɪččas.'' aaŋ, *nu* *i* tajwa
そして、 聞くことでしょう、」と。 さあ、で、それを、

5-021
''əənim sinətki apčɪm-ɪ～ əənim sinəwə ǰooŋgɪm-ɪ～
「とても あなたの所へ 行きたい、 とても あなたのことを 懐かしく思い出すけれど、

5-022
mozhet bolotkɪ bǐjəm-ŋu eeǰam-ŋʊ buǰəl-da.''
ひょっとすると 秋まで 私は生きているか どうか、 死んでいるかもしれない。」

5-023
nu, bolonɪ bičən *i* tuwəni bičən *nechego,*
さあ、 秋は 生き延びた、で、冬も 大丈夫だった、

5-024
[P]aga,
そうね、

5－025
[K]ňaxatkan. *nu* *vitalja,* xulliduj
なんとか。 さあ （私の息子の）ヴィターリャは モーターボートで行き来していた時に

5－026
əjkuwəččən, *special'no.*
いつも立ち寄っていた、 特別に、

5－027
[P]čaaskɪ xulčən,
そこへ 行って来たんだったね、

5－028
[K]xulčən, *plavaj*nasɪmɪ ŋənəmi, *aj tak-to oni do tebukh*-a *takhtin...*
行って来た、ボートに乗って 行って、そう 何とか 彼らは テブフ村まで

5－029
ŋənəmi, *a reshili on takhtin*tɪxɪ ŋənədəwəj, *i* əŋundəj,
行って、けど 決めた、彼が タフタ村へ 行くために、そして ああするために、

5－030
[P]əjkudəj,
立ち寄るために、

5－031
[K]əjkudəj, tuktiwəččətin, gə, nʊŋantɪxɪ, *emmu*kattɪxɪ,
立ち寄るために、いつも山の方へ上って行っていた。さあ、彼女の所へ、エンマの所へ、

5－032
nu i tadʊ *ona* gunən, gŭjəj *nichego,*
さあ、で、 そこで言う、彼女は 言う、 かわいそうに、何も、

5－033
tak svelit'sja gunən, tuŋkuktijən əŋunən,
そうして 震えて 言う、 震える、 ああする、

5－034
təpəjiktijən. ǰoo doolɪn. *nu i* tes čuxətisinčə,
（足が悪いので）手をついて歩く、家の 中を。 さあ そして ひどく 喜んだ、

5－035
gunə～, *vitalika*wa-da čapčajan, gŭjəjə～ gunən,
言う、 ヴィターリヤに キスすると、 かわいそうに、 言う、

5－036
''ooj əninməs, ənintixis apčam-e
「おい、 母を、 母（ドーラ）の所へ 私もとても行きたい、

5－037
əninməs əməwkəččim eeda əsin əməjə minəttixi.''
お前の母さんを 来させたいよ、 どうして 来ないのか、 私の所へ。」

5－038
''gunčəw-e～,''　　gunən,　''*ona　tozhe*, əənim　əənim　ənuunəxən bisin.''
「オレは言った、」と 言う、　「彼女も また　ひどく、ひどく 病んで　いるのだ。」

5－039
nu,　tixən,　taj,　nuŋan　əčə　ŋɪjɪja　*kassetad*ʊ,　sajɪman.
さあ、そうして、その、彼女は それ以上 書かなかった、カセットに、恥ずかしがった。

5－040
''sajɪŋgda-ɪ～''　　gunən,　''atam ŋɪjɪja,''　gunən,
「きまりが悪い、」と　言う、　「書かないわ、」と 言う、

5－041
''eewa-da atam ulgučənə oon-da bičəwki,''　　*nu*,　ŋɪjɪjčaw gunčə,
「何も　話さないわ、　どう　暮らしてきたかを、」と。 さて、 書いた という、

5－042
*vnuki*w bisin,　　xutəj　　xutənin bisin　*i*,
孫が　まだ残っていることを、自分の子供の 子供が　いる、そして、

5－043
tatkaččan　əsi,　naxatʊkan binəxən,　*institut*la　əŋunən,　*pastupa*jan,
学んでいる、今、　小さいけれども、　インスティトゥートに 進学した、

5－044
a　gəlbinin　*ljosha*,　　gunčə,　ŋɪjɪjčaw gunən.　*nu*　*i*　*eto*,
で、名前は　リョーシャと、言った、書いた　という。 さあ、そして その、

5－045
[P]*khabarovskad*ʊ！？
　ハバロフスク（のインスティトゥート）に！？

5－046
[K]*on*,　*on*　*komsomor'skad*ʊ　　*chto li*？
　彼は、彼は さあコムソモリスクにだか 何だか。

5－047
[P]*komsomor'ska*,　　noŋatɪl　bičətin　*komsomor'skad*ʊ,　*vitalija*？
　コムソモリスクに、 彼らは いた、　コムソモリスクに、ヴィターリヤは？

5－048
[K]*da*,　*khabarovski*,　*on*,　　*i* tixən　*on*　*govorit*,　''*ja*　*vot*　*ezhu*,
そうだ、ハバロフスクだ、彼（ペーチャ）は、それで 彼は 言う、　「私は ああ 行くよ、

5－049
*komsomor'ska*ttɪxɪ　*kazhdyj raz* xulim-e～''　　gunən,
コムソモリスクへ　　毎回　行き来している、」と 言う、

5－050
taj　*komsomor'sk*attɪxɪ　ooxɪn-da ooxɪn-da xulim　　gunən　*komsomor'sk*attɪxɪ,
その コムソモリスクへ いつも　いつも　行き来する という、コムソモリスクへ、

5－051
i *ne znal* *chto on tam,*
それでいて 知らなかった、ヴィターリヤがそこにいることを、

5－052
[P]*vitalika*wa.
ヴィターリカのことを。

5－053
[K]*i* *vot* gunən *sejchas,* tajwa ŋɪjɪjčaw gunən,
それで ほらそこで 言う、今、 それを 書いた という、

5－054
''xutəs xutənin, tadʊ bisin.''
「あなたの子供の 子供（つまり孫）が そこに いる、」と。

5－055
i asɪn *potom* ŋɪjɪjča asɪn bitəxələn, gunən gunə,
そして ペーチャの現在の妻は それから 書いた、その妻の 手紙には 言う という、

5－056
''sii bitəxəwəs baxača, baxačawʊn, taj bitəxəwə baxalčadʊkkaj
「あなたの 手紙を 受け取った、受け取ったのを、その 手紙を もらって以来、

5－057
ʊmʊlča tes ajaxɪwa ʊmman, ʊmman, *on,* *on.*''
酒を飲み始めた、ひどく 酒を 飲む、 飲む、 彼が、彼が。」

5－058
[P]a～
あ～

5－059
[K]*petja,*
ペーチャが、

5－060
[P]bii *petja*wa saam, bii *petja*wa saam,
私は ペーチャを 知っているよ、私は ペーチャを 知っている、

5－061
[K]saas-ɪ？
知っているの？

5－062
[P]saam, buu tɪlɪxadʊ gəsə bičəwun.
知っている、私たちは ダリジャ村で 一緒に 暮らしていたもの。

5－063
kogda emmuka nʊŋaŋ̃jɪn xullidun.
エンマが 彼と 付き合っていた時に。

5－064
emmuka əŋunčə, *nu* xutəj baxajɪdʊn bii *zhe* nʊŋanman əŋunčə,
エンマが ああした、そう、子供を 産んだ時に 私こそが 彼女を ああした、

5－065
čʊŋʊjʊlban miinəčəw, čʊpalba bii əŋunčəw,
へその緒を 切った、 全部 私が 片付けたりしたから、

5－066
bii *varelkaj*ɪ əŋunčəw, ujgəgdi bičəw,
私は 息子のワレーラで あああだった、 臨月 だった（自分も）、

5－067
varelka baldɪčan *nojabr'*dʊ, *a* əŋun, *vitja* baldɪčan *sentjabr'*dʊ,
ワレーラが 生まれたのが １１月で、 一方 その、 ヴィーチャが 生まれたのが 9 月で、

5－068
*oktjabr'*dʊ *net* *nachalo oktjabrja noverno,* *ili* *sentjabar'*dʊ,
１０月に、 いや違う、 １０月の始めだわ、たぶん、 もしくは 9 月に、

5－069
nʊŋan baxačan, əŋun, *vitalika*wa. ənulčən.
彼女は 産んだ、 その、 ヴィターリカを。 病気になったんだ、

5－070
potom chto xuɣləənǰi əčə baldɪwwa. nʊŋanman,
なぜなら 横になっていて 生まれなかったから。 ヴィターリヤを、

5－071
a ujkədu ǰawaanǰɪ baldɪwčan. gʊǰəj-e～
戸に つかまって 産んだ。 かわいそうに、

5－072
minəttixi gunčətin bii tʊksačaw, əmugdəxəəw əgduŋkəəjə,
私に 彼らは言って、私は 走った、 私のお腹も 大きかったのだけれど、

5－073
tʊksačaw, *i* gʊǰəj～ ɪlɪččan taj ǰawačɪjan
走った、 それで かわいそうに 立っていた、 あれに つかまっている、

5－074
əŋunǰi, ujkə əŋundun, ǰawčɪkɪdʊn. bii nʊŋanman gunəm,
何で、 戸の あれに、 ノブに。 私は 彼女に 言った、

5－075
''ələkənəə,'' bii, bii əj dooldɪččaw sagdɪ ənikəndukkəj,
「待ってて、」 私は、 私は これを 聞いていた、 年寄りの おばあちゃんから、

5－076
oon miinəwwi čʊŋʊjʊwa. *nu,* čʊŋʊjʊwa miinədəj eexʊn...
どうやって 切るかを、 へその緒を。さあ、へその緒を 切るには どうしたら、

5－077
kɪptɪj-da *nado.* əŋun-də sumu *ili* eexun-mal *tozhe nado,*
鋏も 必要だ。 あれも、腱でできた糸か 何かも、 やはり 必要だ、

5－078
eexun-da aačɪn, *nu i* bii baxačaw əŋunmə, əŋunmə,
でもなんにも ない、 さあ それで 私は 見つけた、あれを、 あれを、

5－079
kak surovaja nitki byli xupən,
まるで 粗い麻袋の糸のような 糸が あった、木綿糸が、

5－080
[K]tomkoma,
糸を縒ろうと、

5－081
[P]*da,* tajwa əŋunčəw, xəjkəčəw *i* miinəsinčəw.
そう、それを ああして、しばって、それから 切り始めた。

5－082
a miinəsinčəw, bii gunəm, ''jawatkal,'' gunəm,
で、切り始めた時に、 私は 言った、 「へその緒を握っていろ、」と 言った、

5－083
bii taj ajakanǰɪ əŋunmə,
私は それを 良く しっかりと、それを、

5－084
vot emmuka bisidun ulgučənǰəw, *a* əŋunmə,
ほら今度 エンマが いる時に 話そう、 で、それを、

5－085
''jawačɪxal əxəl tikkə,'' taj xutəwən, əčəw-də sɪlkɪ, awčaw,
「つかんでいろ、倒れるな、」と、その 子供は、 洗わなかった、 ただ布で拭いた、

5－086
''tuɣə tuɣə,'' nuŋan oruɓaxakanǰɪn əxilčəw. *i* nəəčəw,
「早く、早く、」 彼女の 外套で くるんだ、それから 置いた、

5－087
akha bii gunəm ''*emma,* gəə bii sinəwə ŋənəwuktə,
ああ、私は 言った、 「エンマ、さあ 私は お前を 運んで行くよ、

5－088
taj əŋuntixis, səktəwuntixis,'' ŋənəwčəw səktəwuntixin,
その あれへ、 お前の寝床へ、」 行かせた、彼女の寝床へ、

5－089
oon-da *meston* əsin juujə.
だがどうにも 子供のいた場所（後産）が 出てこない。

5－090
[K]tixəm bien, əmuňan, əmuňan,
それから、

5－091
[P]oon-da əsin juujə, bii gunəm əŋuntixi～,
どうにも 出てこない、私は 言った、 彼女へ、

5－092
oon, eema bičən-e～ əŋun-ə, əŋun,
何て、何という名前 だったっけなあ、あの、 あの、

5－093
[K]čuŋuju！？
へそ！？

5－094
[P]*net ne* čuŋuju, axɪmɪn-*to*. *emka* axɪmɪn,
いや へそじゃなくって、 お兄さん、 エンマの 兄さんよ、

5－095
[K]a～ *sasha*！？ mɪnčuka！？
あ～ サーシャ！？ ミンチュカ！？

5－096
[P]mɪnčuka aačɪn bičən ǰoodu. bičən əŋun,
ミンチュカは いなかった、家に。 いたのは あの、

5－097
xutənin-kə～ *volodja*. *volodja*.
その子の、 ヴァロージャ、ヴァロージャ。

5－098
[K]a～ *vovka*.
あ～ ウォーフカ。

5－099
[P]*vovka*, *vovka*tɪxɪ gunəm, ''*vovka*～ ŋənəxəl,'' gunəm bii,
ウォーフカ、ウォーフカへ 私は言った、「ウォーフカ、行け、」と 言った、私は、

5－100
''*tjotja sonja* gənnəxəl,'' gunəm bii,
「ソーニャおばさんを 連れて来て、」と 言った、私は、

5－101
əŋun asɪmɪn, *solov'jova* asɪmɪn, *vot* taj *tjotja sonja*...
あれの 妻、 ソロヴィヨーヴァの 妻、 ほれ あの、ソーニャおばさん、

5－102
dusha. *tjotja dusha* əməjən, gunən minəttixi,
じゃなかった、ドゥーシャ。ドゥーシャおばさんが 来た、 彼女は言った、私に、

5－103
''gə,　　bii　nuŋan　əmugdəwən　　əŋun-*to kak,　ejo,''
「さあ、私が 彼女の お腹をあれだ、何だっけ、　　あれを、」

5－104
[K]*massazh,...*　　moňŋǐjaw,
　マッサージ、 揉むって、

5－105
[P]''moňŋǐjaw,''　　gunən.　*nu*　taj　moňŋɪjɪduj　　*naverno,*
　「私が揉んでみる、」と 言った。さあ その 揉んでいる時にだろう、たぶん、

5－106
əŋunčə　　taanča　　bǐjən.
ああした、(へその緒を) 引っぱったん だろう、

5－107
taj　əŋunmən.　*i*　*u nejo*　*temperatura*　ooča,　　*emmuka*du,　*temperatura,*
その あれを。　そして 彼女には 熱が　　出てきた、エンマに、 熱が、

5－108
əgduŋə　bičən.　bii　gunəm,　əŋuntixi,　axɪntɪxɪn　*emma,*
高い熱　だった。私は 言った、 あれへ、 兄へ、　エンマの、

5－109
gəlbinin　mɪnčʊkattɪxɪ　　*i*　*andrej*ttɪxɪ,
名前は、 ミンチュカへ、と アンドレイへ。

5－110
''ŋənəwmə,　　taktɪntɪxɪ　　ŋənəwmə.''
「連れて行こう、タフタ村へ、連れて行こう、」と。

5－111
a kak raz　　*dozhdik,*　tigdə,　tigdənənən.　*akha,*　daɪ　*i*　əŋun-ə,　ədin,
だがちょうどその時に 雨が、　雨が、 降り出した。さあ、 雷雨と あれだ、風、

5－112
apaw　　mundu　eema-xa　ʊgdawa　baxačan,　　*djadja vasja,*
おじさんが 私たちに 何がしかの 舟を　見つけてくれた、ワーシャおじさんだ、

5－113
apa　　baxačan　ʊgdawa　*my*　　tadʊ,　nuŋanman　*nasilka*dʊ　nəəčəwun,
おじさんが 見つけた、舟を、 私たちは そこに、彼女を　担架に　乗せた、

5－114
i　　ŋənəčəwun,　*a*　tigdə,　gǔjəj　　čʊpal　ʊlappan,
そして 行った、　だが 雨で、 かわいそうに すっかり 濡れてしまった、

5－115
xutəkkənmən　əčəwun　sɪlkɪ,　　*a*　taj　əmnəxən　taj　əŋun　tigdədukkəj,
赤ん坊を　まだ洗っていない、でも その時に、　その 何だ、雨によって、

5－116
əənim ajakkan ooča, čupal, bii tajŋɪn əj-ičin əŋunən
とても きれいに なった、すっかり、私は その赤ん坊を このように こうした、

5－117
əj doolɪn gɪdam. eela baxas taj, əŋun, lapčawa.
この 懐の中へ 差し込んだ。どこに 見つけられるだろうか そんな、あれ、乾いた布など。

5－118
əŋunmə, əj doolɪn gɪdam, talɪ əmnəxən-te～ əmugdəw ojolɪn tuktikixin,
それを、 この 懐の中へ 差し込んで、そこを、あの時、 私のお腹の 上を 這い回る、

5－119
akha, taktɪntɪxɪ əməčəwun, taktɪn bajgɪdattɪxɪn,
さあ、 タフタ村の方へ 来た、 タフタ村の 向こう岸の所へ。

5－120
''gəə əŋusəl, *prjamo* oon dawwus, oon dawwus,''
「さあ どうする、まっすぐなんて どうして 渡れようか、どうやって 渡ろうか、」と言う。

5－121
[K]waata？
波かい？

5－122
[P]əŋ, waatajan, tixəmi～ mɪnčuka gunən,
そう、波打っている、そうして、 ミンチュカは 言った、

5－123
[K]bagdɪmda waatajan,
白く 波打っている、

5－124
[P]*akha*, ''badɪn, badɪn čaalan ŋənəjət.''
そう、 「夜明け、夜明けが来たら あっちへ 行こう。」

5－125
čaaskɪ, badɪk..., nii aasɪnčan, *andrej* moowa təsijən,
それから、朝（まで）、 寝る者は 寝る、 アンドレイは 薪を 集めた、

5－126
*kostjor*wa əŋunən, ɪlaččan, *akhan nu on* tadu,
鍋を ああした（掛けた）、火を点けた、 さあ、 彼は そこで、

5－127
əŋundu, ugda doodun, bii gunəm,
あそこに、 舟の 中に、 私は 言った、

5－128
''*andrej*, ŋənəwkəsun nuŋanman əŋun daɣattɪxɪn, toɣo daɣattɪxɪn.''
「アンドレイ、行かせろ、 エンマを、あれの 側へ、 火の 側へ。」

5－129
nu, mɪnčʊkaǰɪ ŋənəwčətin, toɣo daɣattɪxɪn,
さあ、ミンチュカと 行かせた、 火の 側へ、

5－130
i əŋunmə lapčakalba əŋunəm, *moju.*
それから あれを、布を ああした、洗った。

5－131
[K]*myli* lapčakalba,
洗ったんだ、布を、

5－132
[P]*akha,* moowa tii nəəčəwun, tii lapčalba tii
そう、 木の棒を そうして 立てておいた、そうして 布を そうして

5－133
nəəjiwun, xutəwən əxildəj, tadʊ amʊnča, čixənčə
掛けて乾かした、子供を くるむために、そこには ウンチもしたし、おしっこもした、

5－134
min əmugdəw ojodʊn, *i* nʊŋanman *tozhe* əŋundəj *nado,*
私の お腹の 上で、 そして 彼女をも また ああしなければならない、

5－135
nemnozhko olgodan. *nu, i ladno* baǰɪk-a, ŋənəwsinčəwun,
少し 乾かすために。さあ、で、まあとにかく、朝だ、 運び始めた、

5－136
dawsɪnawʊn, əsi-gdə, *andrej* gunən mɪnčʊkattɪxɪ,
渡る、 今、 アンドレイは 言う、 ミンチュカへ、

5－137
''bii gɪwʊlǰaw, bii gɪwʊlǰaw, sii ajakanǰɪ əŋuxəl, ŋčɪxal.''
「オレが 漕ぐ、 オレが 漕ぐ、 お前は 良く ああしろ、舵をとれ、」と。

5－138
a, minəttixi gunən, ''əxəl ŋəələxəččə, eexʊn-da aačɪn,
一方で 私に 言う、「怖がるな、 何ということも ない、

5－139
əsi aačɪn ojgɪča ədin, tigdə-də aačɪn, nɪxalaa-da bisin.''
今 なく なった、風は、雨も ない、 穏やかな天気 だ。」

5－140
akha, dawčawʊn əənim ajaǰɪ.
さあ、 渡った、 なんとも 良く。

5－141
əənim ajaǰɪ dawčawʊn *prjamo* taktɪntɪxɪ *dibrkatel* əsin bisi,
とても うまい具合に 渡った、 まっすぐ タフタ村へ、 船着場 じゃなくって、

5－142
dibrkater daadʊn *tak-ta,* *i* *kogda* dawwɪdʊj ičəm,
船着場の 河口の所に、そうして、そして 渡った時に 私は見た、

5－143
o～ *mashina* tadʊ ɪlɪččan.
おお、車が そこに 停まっていた。

5－144
akha bii, tadʊkkaj apa ulgučənǰən,
さあ、私のおじさんは、あそこから おじさんは 話をつけたんだろう、

5－145
əŋuntixi ŋənəən-də, telexa tagda～dʊn *ozero* daadʊn bičən,
あそこへ 行って、 ダリジャ村の 河口の所に、湖の 河口の所に あった、

5－146
ǰoo tadʊ *telefonist,* gunəwəččə, *svjazisty.*
家が、そこに 通信兵が、（いると）言っていた、通信兵たち。

5－147
apa əŋuǹǰi *omorochkaǰ*ɪ ŋənəčən taddʊkaj ulgučənčə, *bol'nica*ttɪxɪ,
おじさんは あれで、小舟で 行った、そこから 話しておいた、病院へ

5－148
ŋənəwwəən, asɪ bəjəwə, xutəj baxača, eemɪ-xa əənimǝji səəksən juujən,
運んで、 妻の 体を、 子供を 産んだ、どうしたわけか ひどく 血を 出す、

5－149
səəksən əənim juučən, gŭǰəj-ə～
血が ひどく 出た、 かわいそうに。

5－150
[K]əənimə xaskaččan,
ひどく強く 揉んだんだ、

5－151
[P]*da,* *oj* bii saača binəxən məənəxən əŋunčəw,
そう、ああ 私は わかって いたならば、自分で やったのだけれど、

5－152
nu *i* *vot* dawčawʊn *tol'ko* əŋuntixi,
さあて、それで そこで 渡った、 やっと そこへ、

5－153
[K]*pristali.* [P]*akha,* *i,*
停めた。 そう、で、

5－154
[K]aakčasʊn,
あなたたちは接岸した、

5－155
[P]aakčawʊn, *tol'ko* aakčawʊn tajsal *nosilkaǰı* mənəttixi tʊksaja,
私たちは接岸した、接岸するとすぐ 彼らは 担架で 自分たちの方へ 走った、

5－156
akha, *srazu* əj *nosilka*dʊkkaj, taj *nosilka*dʊ nʊŋanman nəəčəl
そう、 すぐに この 担架から、 その 担架に 彼女を 乗せた、

5－157
gʊǰəj-ə～ čʊpal ʊlapča,
かわいそうに すっかり 濡れてしまっていた、

5－158
''xutənin iidu, xutənin iidu,'' ''baldıčan.'' *za* xutənin gunčətin, ''iidu.''
「子供は どこだ、子供は どこだ、」「生まれた。」子供のことを 彼らは言う、「どこに。」

5－159
bii, əj doodʊkkon juuwum, taj xutəkkən,
私は、この 懐の中から 出した、 その 赤ん坊を、

5－160
srazu tadʊ *per'onka*wa əməwčətin *i* tajsal *vračh*sal.
すぐに そこで 布を 持って来た、その人たち、医者たち。

5－161
''tʊɣə, tʊɣənǰi,'' *i* taj *mashinaǰ*ı ŋənəčətin, bii *tol'ko* gunčəw nʊŋantıxın,
「早く、 早く、」 そう その 車で 行った、 私が そう言うやいなや、彼らの所へ、

5－162
''bii ŋənəktə, *nemnozhko* əŋuktə, sılkıkta-da taj əŋunmə,
「私は 行きたい、ちょっと ああしたい、洗いたい、その あれ（赤ん坊）を、

5－163
niilbə orʊbaxaǰın.'' *a* tadʊ bičən
誰かの 外套で（くるんでいた）。」ところが そこに いたのは、

5－164
znaesh', *togda*, *tanja talakan*, sii saas？
知ってる？ その時に、ターニャ・タラカンが、あなた 知ってる？

5－165
[K]*znaju*,
知っているわ。

5－166
[P]mıma xutənin, əŋunǰi gılaxaǰı.
ミーマの 娘よ。 あれと、ギリヤークと（結婚して）。

5－167
[K]saam, saam, saam.
知ってる、知ってる、知ってる。

5－168
[P]*akha,* nuŋantɪxɪ ŋənəčəw, nuŋantɪxɪ ŋənəčəw,
そう、彼女の所へ行った、 彼女の所へ 行った、

5－169
tanja oruɓaxaǰɪn..., sɪlkɪjaan, *tanja* oruɓaxaǰɪn təččəw,
ターニャの 外套で、 体を洗ってから、 ターニャの 外套を 着た、

5－170
čupal əmugdəxəəw te～ *andrejka* əŋunǰi mɪnčukaǰɪ,
すっかり お腹は大きくなっている、こんなだ、アンドレイは、あれと、ミンチュカと、

5－171
əməčətin-to čaaskɪ, *chaj*wa suličəwun ŋənəčəwun čaaskɪ. ŋənəčəwun čaaskɪ,
来た、 そこへ、お茶を 飲んだ、 行った、 あそこへ。行った、 あそこへ、

5－172
oktowuntɪxɪ, *bol'nica*tɪxɪ, ŋənəjiwun čaaskɪ, əŋun axɪnmatɪn,
病院へ、 病院へ、 行く、 そこへ、 兄たちを

5－173
i əsitin iiwkənə, taj doottɪxɪn, bii iim əsi-gdə, bii iim,
入れてくれなかった、その 中へ、 私は 入った 今、 私は 入った、

5－174
''*oj zhenshshina,*'' tii gunən luča,
「あれあれ、そこの女性よ、」と そう 言う、ロシア人が、

5－175
''əj asɪ, sii-də əsi xutəj ələə baxaǰas.''
「この 女性は、あなたも 今にも 子供を 今にも 生みそうじゃないか、」と。

5－176
''*nechego*～,'' bii nuŋaltɪxɪn, ''bii ŋəňiǰəw ǰoottɪxɪ
「大丈夫、何ともない、」と 私は 彼らに（言う）、「私は 帰るわ、家へ、

5－177
tadu baxaǰaw. minŋi *eshshjo, ne surok.*''
そこで 産む。 私のは まだ、 その時期になってないわ。」

5－178
''*nu ladno.* *emuka*wa atas ičəččə,'' gunən,
「ふうむ、それならいい。エンマを 見舞わないのか、」と 言う、

5－179
doktorka, potomu chto nuŋanman əŋun-ə, osɪɪja,
医者は、 なぜなら 彼女を、 その、 ひっかき出した（後産を）、

5－180
čupal tajwan *chistili,*
すっかり それを きれいにした、

5－181
''*akha*, *nu ladno*, siksənnə əməǰəwun.'' mɪnčʊkatɪxɪ gunəm bii,
「そう、 まあよい、 夕方 また来ます。」 ミンチュカへ 言った、私は、

5－182
''atap əinəŋdu ŋənəjə, *khoroshaja pogoda*. aja buɣa.
「今日は行かないことにしよう、良い 天気だ。 良い 天気だ。

5－183
atap ŋənəjə, tɪmannan ŋənĭǰəp, anaxan ičəččə oon ŋənipu.''
我々は行かない、明日 帰ろう、 彼女を見ずに どうして 行けようか、」と。

5－184
akha, gəə baǰɪ～k ǰəppən ŋənəjiwun, ɪlan,
さあそうして、さあ、朝 食べた、行く、 三人で、

5－185
ŋənəjiwun ɪlan əməjgičə əməčəwun, munəwə čʊpal iiwkənčətin,
我々は行く、三人で またやって来た、やって来た、我々を 全員 入れてくれた、

5－186
potomu chto əŋun, buu ŋənĭǰəwu～n, gunčəwun,
なぜなら あれだ、我々が もう帰るからだ、我々は言った、

5－187
''buu ŋənəsinəwun ǰoottɪxɪ,'' tixəmi munəwə iiwkənčətin, iiwkənčətin,
「私たちは 出発します、家へ、」 そんなわけで 我々を 入れてくれた、 入れてくれた、

5－188
ičəččəwun ulgučənčəwun, *temperatura*n aja ojgɪčan *nemnozhko* ii
私たちは会った、話した、 彼女の熱は よく なっていた、少しばかりだ、そう、

5－189
buu tii ŋənəčəwun, buu～ *togda*,
私たちは そうして 行った、 私たちは その時、

5－190
taktɪn əŋundulin əčəwun ŋunijə, əmŋun daaptʊlɪn ŋənəjiwun.
タフタの 支流に沿っては 戻らなかった、 アムグン河の 河口の所から 行く。

5－191
əsi-gdə xalɪmɪttɪxɪ ɪssɪwʊn, *andrej*, ənullən. mɪnčaldʊ bičəwun,
今 カリマ村に 着いて、 アンドレイが 病気になった。ミンチャルの所に 留まった、

5－192
ǰəppiwun *i vdrug*, *andrej* ɪllan, bʊɣaskɪɪ juujən,
食事をする時に 突然、 アンドレイが 立ち上がった、外へ 出て行った、

5－193
i bii gunəm, ''eečа-xa *andrej*,''
それで 私は 言った、「どこへ行ってしまったの、アンドレイは。」

5－194
''əčə-də ǰəppə, ilə ŋənəčən,'' əsi-gdə juum bʊɣaskɪ,
「まだ 食べてもいないのに、どこへ 行った。」 今 私は出た、外へ、

5－195
andrej əŋun-ə əŋunǰi, ʊntaǰɪ tii oojǐǰɪ *rezinamaǰɪ* təččičən.
アンドレイは あれ、あれで、 履物で、こんな 魚捕り用のゴム長靴を 履いていた。

5－196
muuli čaaskɪ əwəski xullən čaaskɪ əwəski xullən,
水の中を あっちへ こっちへと 歩き回っている、 あっち こっち 歩き回った、

5－197
''*nu andrej-ka,* eemɪ xulis muuli.''
「ああ、アンドレイ、どうして 歩き回っているの、水の中を。」

5－198
bii məjgəm bojkon-da aŋɪskɪ ooča.
私は 思った、顔色が青ざめていて 別人のように なっていた。

5－199
[K]mɪawan-ŋʊ
心臓か！？

5－200
[P]*ne～t, nu mozhet byt' prostil,*
いや、 さあ 風邪をひいてしまったのか、

5－201
krovotečhenie nʊŋandʊn *otkrjlsja ot ljogikh, akha,* čaaskɪ əwəski.
出血があった、彼に、 開いた、肺から、 そう、 あちら こちらへと。

5－202
ja əməjgim ǰoottɪxɪ gunəm mɪnčaltɪxɪ gunəm, ''mɪnčal,''
私は 戻った、家へ、 私は言った、ミンチャルへ 言った、 「ミンチャル、」と

5－203
gunəm bii, ''*andrejka-to* ənulčə, amŋadʊkkan səəksə juujən.''
言った、私は、「アンドレイが 病気になった、 口から 血が 出ている、」と。

5－204
akha, bii əŋunǰi, mɪnčaǰɪ, əsi-gdə əŋunǰi ŋənəwu čaaskɪ, bʊɣaskɪ.
そう、 私は 彼と、 ミンチャルと、今 彼と 行った、 そっちへ、外へ。

5－205
''gəə, əxəl xullə muuli, eewa xulis muuli,
「さあ、歩くな、 水の中など、何を 歩き回るのか、水辺を、

5－206
tikčəs-də bʊǰəs,'' *akxan,* ''əməxəl əwəski.'' mɪnčal ǰawačan,
倒れたら 死ぬぞ、」と。 さあ、 「来い、 こっちへ。」ミンチャルが 捕まえた、

5－207
ǰoottɪxɪ əməwgičətin, *i* əŋunmə trintixi *kater*wa gələčətin,
家へ 彼らは戻った、そして 彼を トゥイルへ、モーターボートを 探した、

5－208
taj *kater* əməwčən, əməčən, nʊŋanman təəwkənčətin,
その モーターボート、持って来た、来た、 彼を 座らせた、

5－209
ňaan mɪnčʊka tadʊ təəjgijən,
再び ミンチュカも そこに 座った、

5－210
əsi-gdə nʊŋanǰɪn ŋənəjən, bii ilə ŋənəm əmukčəkən, əmən ʊgdaǰɪ,
今 彼と一緒に 行った、私は どこへ 行けよう、一人っきりで、一艘の 舟で、

5－211
bisim mɪnčaljadʊ, *akha, kak* siksənnə,
いる、ミンチャルの所に、さあ、どうする、夕暮れだ、

5－212
tak i mɪnčal *zvoni*jan, *kak* siksənnə,
そこで ミンチャルは 電話した、どうする、日も暮れた、

5－213
''əxəl əŋunə,'' gunən, ''aja,'' gunən, ''aja.''
「行くな、」と 言う、「大丈夫だ、」と 言う、「大丈夫だ。」

5－214
nʊŋaman *tak i* əŋundu *bol'nica*dʊ nəəčətin taj simkiji *bol'nica*tɪxɪn nəəčətin.
彼を そこから どこに、病院に 置いた、その 肺病の 病院に 入院させた。

5－215
a čaaskɪ ŋənəjiduwun, buu əŋuntixi,
一方 さらに先へ 行く時に、 私たちは あそこへ、

5－216
[K]leexɪnma baxačan,
結核を もらったんだわ、

5－217
[P]*akha*, buu əŋuntixi trintixi, əŋunǰi ŋənəjiwun.
そうね、私たちは あそこへ、トゥイルへ、あれで 行った。

5－218
[K]ʊgdaǰɪ,
舟で、

5－219
[P]ʊgdaǰɪ, əŋunǰi mɪnčʊkaǰɪ, *a* ŋənəjiwun, nʊŋan, *grivjotsja*,
舟で、 誰と、ミンチュカと、さて 行った時に、彼が 漕ぐ、

5－220
bii əŋən-ə eeŋčam, *a* taddʊkaj *a*,
私が あれを、 舵をとる、 ところが そこから、

5－221
ryb zavod bisi-əčə əŋundu, telexadʊ,
魚 工場が あるじゃない、あそこに、 ダリジュに、

5－222
ne ryb zavod a baza. akha, taj *baza* əŋunin əməčə *katerin*,
魚工場じゃないわ、貯蔵庫。そう、 あの 貯蔵庫の 所に 来た、 モーターボートが、

5－223
taj *katerin* əməčə, *i* munəw ŋənəwčə.
その モーターボートは 来た、 そして 私たちを 運んだ。

1994 VIII 20. в Белоглинке, Е. М. Самандина

1. омкіккан

эси-гдэ~ омкіккан ілан хүтэнин, таду~ мооду биӡэјэн,
эси-гдэ сулахі эмэчэ. нуӈандун ӡэмүгди,
"омкі-э~ пиктэји бүүрү," гүнэн, "хүтэј бүүхэл,"
омкі гүнэн, "атам бүүјэ~." "эсихис бүүјэ, мооӈіс, мооӈіс,
хоӈнішав, тибгүӡэв." омкі гүнэн, "ееші тибгүс,
оон-ка." ијги, ијги, ичэвкэччэн, "эдү, *острый* өмөн бисин, *тапор.*
эдү *таскаю* ијгидүј," алахіччідај,
"гэ, *тапор таскаю.* эси хоӈнішав, мооӈіс тибгүӡэв."
эси-гдэ~ эӈүн, омкі ӈээлэлэјэн өмөн хүтэј ӡолодојон, тајва ӡэппэн,
"ӈаан бүүхэл, омкі-э, ӈаан бүүхэл, бии эчэв элэјэ."
ӈаан өмөн хүтэј ӡолодојон.
эси-гдэ омкі соӈојон, соӈојон, тихэм-дихэн тај, апаха гааја~,
еема-ха бичэн тај, *большой Филих*а биӡэни-гэ, эмэчэ,
"омкі-э~ ееду соӈос." "эттэ~," гүнэн,
"сулахі, хүилбэ чупал ӡаванахан ӡэппэн." "еедаа бүүктэс."
"мооӈу тибгүдэј нихэјэн," гүнэн. "ееші тибгүјэн нуӈан."
"ичэвкэччэн-е~ гүнэн, эј *мешок*ду, ээнмэ *лёгкий топор* бисин."
тихэм-дихэн, "алахіччан, алахіччан,
гээ, эси, ӈаан эмэјгиӡэн, ӈаан эмэјгиӡэн, хэмэ~ бихэл."
таја, таду үилэ~ дооча, тихэм-дихэн, эмэјгијэн,
"омкі-е, хүтэј бүүхэл." тај апаха гааја тајва,
чавахалачан, элээ, эӈүнтихи, *море*тти тибгүнэчэ,
гэ, таду *море*дү, соӈојон,
"энтэхаја~ серовој, омкі-э хүилбэн серовој,
манаачааӡі серовој, ламу чоктан оошас-е~ серовој,
оон нихэји-кэјэ~ серовој, омкі-э хүилбэн серовој,
манаачааӡі~ серовој, ламу эӈүнин маактан оошас-і~ серовој."
тихэм-дихэн, өмөн куумаха јүүчэ,
"омкі-э, ееду соӈос, сулахі, ееду,"
"ээј, гэ, син эӈүси, *родня*с эгди." "ее," гүнэ,
тајсал гүнэ, "бисин." "ээ, ичэс мин *родня*в
тај тај тај тај тај эӈүнмэ, *это всё*
мин *родня*в тај, тај мин, *родня*салбі. гэ, сии-дэ јүүвкэхэл,
мээн *родня*ј ичэвкэхэл." гээ, эси-гдэ, тај куумаха иигичэ,

jүүjгижэн те~с *полный море* коомасалба,
еема-да чупал jүүjгижэ эмэjгижэ, гээ эси-гдэ талі, давван, давван,
"*один*, өмөн ӡүүл, хелебатах, ілан диғин хелебатах," чуп чупал,
коома гүнэн, "сулахі, ееда тии эӈүнэс, таӈкал,
өмөндүккэj өмөнтихи, ееда тии хэтэхэсис."
ӡааннма, іланма, эj, гаajан даajан биси,
гаajан ээнмэ эгди, даajан, нуӈан түjгэнӡи давдан,
эси-гдэ чааскі давча. "пэв-ее~," эӈүвэн,
"коома, оӈоктас-да мухаӈкісі," гүнэн,
таj коома гүнэн, "ээнмэ гоола атас ӈэнэjэ,
атіjакан, геніундулан бүӡэс." эси-гдэ ӈэнэсинчэ,
таj ӈэнэjэн, ӡэмүгди нуӈандун лэбгэдэj *надо*, ӡэбдэj,
ӈэнэjэн, тихэм-дихэн ичэчэ таj-а~, иннӈэктэ, ээнмэ *сушёный*
ээнмэ эгди. эӈүнӡи тіксаӡі,
өмөн *берёза*ӡи *сытый* таду тajва ӡэпчэ, ӡэпчэ,
эмүгдэхэн эj-дихэн ооча. эси-гдэ эӈүнтихин, *сучка* эӈүнтихин,
*нора*ттіхін иичэ, таду аасінча, *потом* атіjакан иијэн.
"еехун эj, өмөн-дэ инӈэктэ аачін.
эси-гдэ эj еeча инӈэктэ," талі гэлэктијэн.
таj эӈүндүли ичэчэ, *собачий нора*ла, эм сулахіха,
эмүгдэхэн эj-дихэн хүглэjэн.
эси-гдэ атіjакан *тихонику зашёл* ӡооткі,
сіньӈапун *вот такой* эӈүн, сіньӈапун-а,
еева-да чупал *рубили* тajӡі,
тихэм-дихэн эси-гдэ, тajва ӡава<u>ханам</u>, нуӈанман ваача.
таj-а эӈүнмэн *шкура*ван эӈүнчэ, *сушил*, мээндүj *шапка*j ооча,
э~j тихэн *шапка*ӡі, эӈүнэн, тэччэjэн.
тихэм-дихэн түвэ, өмөн сулахі эмэjэн.
"атіjака~н ээ~j, мүүӈис бисини. гэ, бии синдү мүүккэлбэ мүүликтэ-jи.
мооккалба івакта-jі." "гэ, бэлэтми бэлэткэл-кэ," атіjакан.
гээ тихэн гүнэн, "эj сіанмі ээнмэ гілігді.
атіjакан, аавунмі ілдухал миндү." аавунмі бүүjэн тэтивкэнэн.
гээ, таj аавунӡі хүлиптихэн чоп таj аавунма тэттээн
туксанча. ӈэнэчэ. еема-ха ӡооткі ӈэнэчэ-вү.
таду э~ ӈээлэмү~ таду бичэл, чівкакка~л,
еемаккал-да чупал *летают*... дәғиттиккэл. гэ эси-гдэ,
өмөн чівкаккан эӈүнэн, ӈамкаллан.
"хэ~ хэ~ хэлбэгдив, то~ то~ толобагдів."
эj сулахі гүнэн, "эj аjа-да саман биӡэн-и.

гэ, тај чівкаккан гүнэн, "гэ, аавунмі ілдухал, миндү,
бии ајаžі њамкаžав." эси-гдэ аавунžі тэттэн,
тај сулахі аавунžін атіјакан аавунžін, *и* эси-гдэ,
"хэ~ хэ~ хэлбэгдив, то~ то~ толобагдів,"
чоңколдулі, чохол болбол. тај аавунžі тэттэн,
чоңколі гүмми, *вот такой дырали* тај тај диинин
тадуккај-да эгдиңэ, эси-гдэ талі јүүчэ,
атіјакантіхі ңэнэвгичэ. эси-гдэ атіјакан тајва чүхэтими,
эјэ, эси еема-гда чупал биžэн, гэ, *са~мой красивый-то и всякай*,
эңүн, *кра~сный всякай есть*-да, гээ тај, атіјаканін,
эјвэ *красный* эңүнчэ, *всякай тряпкаži привязавала*
чтобы навечно остался. "*ты будешь так красивый.*"
тэžэ-ңү еехун-ңу, *вот это* бај *сказка.* алахічча тээлүң тај.

1994 VIII 20. в Белоглинке, Е. М. Самандина

2. эмэсэни

балдіjан, өмөн бэjэ, гэлбинин эӈүн, эӈүн, ӈии-хэ бичэн-е～,
гэлбэнин омӈоча бисим тии. эмэсэни, эмэсэни, эмүкчэккэн,
по тому что нуӈан эмүкчэккэн эсин сааjа
амінман, энинмэн ӡэпчэл биӡэн, амба,
биӡэмди～н саача, саача, эмүкчэн биӡэjилэj,
ӡэмүгди ооча, сэктэj хэjгидээлин гэлэктиjэн, еехун-да аачін ӡэпүүви,
энинин нээӈкин бичэн сэктэ хэjгидээлини～ үлэккээ～лбэн олоккаалбан,
аачін ӡэмүгди, эси-гдэ, "оон нихэӡэм эси, ӈэнэктэ бии.
ӡэмү." эси-гдэ jүүjэн, jүүjэн талі～ геехуктаjан, геехуктаjан,
еехун-да эсин ичэввэ, еехун-да эсин ичэввэ.
тихэм-дихэн талі～ чааскі ӈэнэjэн, эхинин бичэ
таj-да эсин сааjа нуӈан, таj эхинин гүнэн, "эли еева гэлэктис～" гүнэн.
"бии ділтіхін хүлми ичэчими～ тээ～ талі
ээнмэ эгди бэjүккээсэл еекkаал-да чупал биси," гүнэн.
"таjкахааанма-да ваajаа～н-да эмэвгимчэс еева ӡэбӡэп
ӡэбӡэп, оодан." "маӈга бэjэ бисим," гүннэхэн,
"элэ гааjа эӈүнэн-ӈү, ваajан-ӈу." таіӈі ваaja～н,
ӡэбӡэjидүн, хүглэӡиjэн еехун нуӈандун,
ӡэппэн аасіӈгіjан, еехун *надо*,
биттэ-гэчин дэӈсиjэн *что ли*,
хаваілан эси-гдэ, биӡэн таду тихэм-дихэн, буғаі-да тихэм...
ӈэнэjэн талі～ ӈэнэjэн, бэjүлбэ гэлэктинэми, еема-ха ужаван бахача-ву,
тииски аасінніхін бэгдиj-дэ ӈаалаj эсин ісса.
тихэн, үлгүмээjэн эхинтихин эмэjгиjэн, "эхи-jэ～," гүнэн,
"таj еема ужанін," эхинин гүнэн, "эхэл тавіjаja, эхэл тавіjаja,
таj амбан биттэ амінмат энинмэт ӡэпчэ амбан,"
гүнэн, "таjва эхэл тавіjаja, *лучше* сии туксахал."
"атам, туксаана," гээ эси-гдэ, ӈээлэмү～
тіманнан-ӈу, оохін-ӈу, эмэjэн,
"але～ко～ме～ а～ле～ко～ме～ але～ко～мэскоojандо～о-гда～
але～ко～ме～ але～ко～ме～ але～ко～мэскоojандо～о-гдал,"
эмэjэн амбаха, таj, "ан, доогдалі э～ ajанін гэлбинин,"
эси-гдэ эмэjэн, "гээ, еечa, таj куӈахакан,"
таj куӈахакан ілча, jүүjэн, "еема минэвэ ӡэмнэчэс-и."

"ǯэмнэчэв, ǯүүл, ǯүүл иктэ сиглэдүн-дэ атас ісса,"
тај куӈахан гүнэн, "куӈахан бэјэ, үлэнин масі биǯэн.
пока не будем эвијэ, минэвэ атас ǯэппэ."
"еехун, сии эј диккээнин, бии эј дихээнин."
аді ділілкан-ӈу, ділінін эгди,
ӈүӈүнǯи ділілкан, эӈүн, *змея, оттуда выходит* амбан.
человека, э~ј эси-гдэ а~ј *ма~ленький человек*, биттэӈи *что*,
эси *начинают* күсилчэ, күсијэ, күсијэ, күсијэ, күсијэ,
тихэм-дихэ~н биттэ эӈүннит, *начинает* эӈүнэн, *үстаёт*,
не может уставать, потому что у него, безсмертяный, эӈүн, эјгэнин,
вот там это, как его, кряковый утка, а там кряковый утка,
өмөн умукта, *он улетит*, тај умуктава *уронит*,
гээ, эси-гдэ, *а потом* гүнэн, тај амбан, нэкчичэн
өмөн *девка красивый. маленька*ва *принёс*,
и спрятал, и она расла, она-то чүствала.
эмэчэ, эмэчэ, ичэччэн, нуӈан, биттэ бэјэӈит үгдэхэлэллэн.
тај эӈүнмэ, *шёлковой платок*кі эӈүнтихи, *амур*тіхі *вынёс*,
раз вытряхнул. тадуккај, тадуккај, өмөн, *щука, свистил,*
говорит, "*дай*," *говорит*, "*принеси*, эмүвкэл, тајва,
нуӈан эјгэнмэн умуктава, эмүвкэл, *и,*
тајва эсихис эмүввэ бии-дэ атам биси. еехунхан-да атан биси.
эј түүј ојодун, бүү атавун биси, чоп ǯэбǯэн мүнэвэ."
тајва, доосінча, таду бисин. тихэм-дихэн эмүвгичэ, тај куӈаханма,
еехунма-ха хэлбүчэн-ӈү үғү буғадуккај еева, ǯэпкитпэ, эӈүнмэ,
еехун, *безсмерченный* эӈүн, мүүвэ, тајва умувкаанан, ǯэпүвкээнэн,
еекkалǯі чупал, ееǯі-да чупал *мазе*јан нуӈанман ниилијэн,
чтобы күсүн ојгідан, гэ, тихэм-дихэн, *опять* ӈаан-дахан күсилигијэ,
күсилигијэ, тихэм-дихэн, тај-а эӈүн, куӈахан..., тај-а эӈүхэ,
*щука*ха, эмэјгичэ, умуктава гаǯіјан, амӈадуј.
тајва, тај асі түјгэнǯи ǯавајан, тихэн тај,
тај биттэ бэјэӈит куӈахантіхі бүүјэн, бүүјэн, тихэн гүнэн,
"еехунма дабдачііcі~," гүнэн, "бии ичэчимэ, эјвэ ичэвкэхэл," гүнэн,
нуӈантіхін, "ичэвкэхэл." тихэн тес сиӈгијэми ваадан.
"бии асив бисин, бии аǯааві, асі бэјэвэ ваамі аǯааві."
"аја, эсилэ-хэ, асі-да бэјэ бэјэвэ ваајан,
нііјаві-да бэјэ бэјэвэ ваајан," ии тэӈ бисин
гэ, эси-гдэ, тај-а куӈахан, гүнэн, "о~ј, ичэхэ~л," гүнэн,
"эјвэ, о~ј" ичэјэн, ичэјэн, соӈолча, "хэ~ј бүүјгихэ~л," гүнэн,
"*пожалуйста.* миндү бүүјгихэл. бии хунааǯібі синдү бүүǯэв."

хунаажін таду. хунаажін гүнэн, "эхэл бүүjгиjэ, ваахал,
синҕиjэнҙи ваахал," тајва умуктава эҥүнчэн,
чапчачатін тадуккај өмөн њајамијан,
утёнька мальнкай. таду биси ооча, тајва, бэгдивэн хэгдэлихитин,
тај бэjэхэ, бэгдин хэгдэjкинэн, аасіхан хэгдэлихитин, тај бэjэхэ,
ҕаалан хэгдэjкинэн, гээ тии синҕиjэнҙи ваачатін, тэҙэ, ееву оо,
тај эвэҥки тээлүҥнин, еелі саас-і,
тэҙэгдэвэ, алахіччава, аачілба-гда алахіччава.

1994 VIII 20. в Белоглинке, Е. М. Самандина

3. элэхэс буға балдіча

гээ, элэхэс буға балдіча. гээ, буға балдімі эси-гдэ, ңэнэчэ, тии,
ема-да бэјңэлтики чупал гүнчэ,
"ӡүүлӡи бэгдилкэнмэ, коңнијінӡі діл... њүүктэлкэнмэ ичэми оодіхін
чупал туксандавај," гүнчэ,
эси-гдэ тај ңэнэчэ, тај эңүн, *дикай кабан*, *по нашему* үјгүли[1],
үјгүли гүнчэ, "гэ, оон, оон тај. миндүккэј соо аачін эдү."
эј түүјдү, эј буғаду. бии-гдэ, бии-гдэ-кэн соо бисим."
тај буға гүнчэ нуңантіхін, "синдүккэј соо бисин, ӡүүлӡи бэгдилкэн,
и коңнијін ділілкаан. гээ, мээнми саамкал оодіхіс-і,
бии эмэвкэнӡэв тіманна нуңанман, бахаччаасун,"
гэ тихэн эси-гдэ буға ңэнэчэ,
тај ңэнэјидүј гүнчэ чупал чупал бэјңэлтихи дэғилтихи, гүнчэ,
"ӡүүлӡи бэгдилкэн ичэми оодихин чупал туксандавај-е,"
эси-гдэ хіңкіккан, *рябчик*кан, эси-гдэ～ эңүнэн-нэ, эңүнэсини,
доочіјан, *рябчик* чичиэдүэни сау～-да.
она не... эчэ доолдіја, нуңан эчэ доолдіја,
гэ тиихэми, "еева гүнэс-е～," үлгүмичэ *рябчик*кахан,
"аі," буға гүнчэ, "гэ, эчэ доолдіја умі-да хэмэ бихэл-тэ."
гэ, тиихэми эси..., эсин ичэччэ, эсин алаачча,
*она не боится человека*ӡи тајва *петля*каханма оожас,
повесись она сама туда залезит,
сама мээнэхэн мээнми ваажан.
эси-гдэ, гээ тај үјгүли, үјгүлиттихи, бэјэвэ, гүнчэ. "*только* эхэл вааја,
нуңанман эхэл вааја, *прямо* ојолан тээдэј, ӡүүл сеендун ӡавадај,
*кручд*ај, сеенман тес-да, *только* эхэл вааја, бэјэ еејан
тај, ваапку эхэл-гдэ гојово ваајан-ңу," гээ ңэнэјэн.
гээ ңэнэјэн тај буға, ңэнэјэн талі～,
тај үјгүли-хэ ичэччэ, тај ӡүүлӡи бэгдилкэн эмэјэн, мэјгэјэн,
"еехун тај ӡүүлӡи бэгдилкэн, нуңан еехундуккај күсүн биӡэн,
а бии диғинӡи бэгдилкэн бии бэгдихээв-дэ иктэхээв-дэ соотки,
тај иктэдүккэн тоғонапчан, *искры летает* иктэдүккин, гэ, тајва,
эси-гдэ буға, ичэччэ, *прямо* ојоттікін хэтэхэнчэ, ојодун тэғэчэ,
ӡүүл сеенман мујча, мујча, мујча, мујча,
эси-гдэ тај бими хүктиктэјэн үјгүли бими хүктиктэјэн, хүктиктэјэн

энүгди-ӡэ. нуӈандун *больной ухо*, *ухо*, энүгди.
гээ, тихэм-дихэн дэјчэ. гээ, "элээ~," гүнчэ,
"*больше* эдүккэј атам," тэј үјгүли гүнчэ,
"оохін-да оохін-да атам тавіјаја. тэӡэ~ буға гүнчэн
биӡэји-дееда. синдүккэј соо, тэӈ ӡүүлӡи бэгдилкэн.
а бии мэјгэчэв," гүнчэ, "ӡүүлӡи бэгдилкэн, еехун күсүн биӡэн,"
мин бэгдихээв диғин, *ещё дай* эӈүхээв, эј эӈдүӈэ иктэхээв,
дай иктэдүккэј *ещё искры летает*."
а нуӈандун еехун-да аачін тај, ӡүүлӡи бэгдилкэкэндү,
тии мэјгэчэв-е~," гүнчэ, гээ тај, гээ тај дабдајан,
дабдача. "гээ~ эдүккэј чааскі атам тавіјаја," гүнчэ,
"ӡүүлӡи бэгдилкэнмэ атам тавијаја, ичэми оодіхін *сразу* туксанӡав."
дабдача. эј эсин, эсин, *это* эсин *сказка* биси *это* үлгү. *это*, үлгү.
это не сказка, *а рассказ*, *это точны*, гээ *обожди*,
эси-гдэ тај буға ӈэнэчэ, ӈэнэсинэн, ӡүүл ӈінахінма ооча,
ӡүүл *собака*ва *сделал*. "гэ, бии ӈэнэктэ,
эси гэннэктэ," нуӈатіл эӈүннэтин, *чтобы*
дыхать дышали, *сами делал*, *они-то лежат*,
гэ, ӈэнэчэн, "бии гэннэктэ нуӈатіл эјгэнэтин,
чтобы оохін-да эдэтин бүдэ, *так будут жи~ть жить*.
гээ эси-гдэ тај-а эӈүн-э, ӈэнэчэ буға тај бэјэ, эјгэнмэн гэннэчэ.
гээ тај аачіндун, эӈүн эмэчэ. еема эмэчэн,
еема, *уже забыла* бичэ. *а кто запришёл-то*,
ӈии эмэчэн-ӈү *ну во обшим пришёл*.
человек, человек или зверь-чихэ, гээ, гүнчэ, тај *собака*салтіхі-ббэ,
эӈүнмэ *дыкчанј*атін *сделал* ее~ буға-та *не сделал*, *они уже караулют*,
буға тај, буға гүнчэ, "*они голай*, *без огони, без шкура*,
как один мясо, *ну* тај, *вот* буға гүнчэ,
"бии, бии сүндү, эӈүн *шуба*сал бүүктэ, оохін-да *никогда никогда*,
атан амап... эӈүн атан манавва, *а*, эӈүн, түвэ эмэн аӈӈанду,
эмнэ, іӈӈактасун ојову тикчэн, хөнтө балдігіӡан.
гээ, таӈӈачін ооӈі *шуба*васун бүүктэ.
а бии, эӈүнмэ, эјгэнэсүн оокта."
а то буға гэннэчэ. эј бэјэсэлдү, тај бэјэсэл-*то лежат*,
человек-то, "*и всё земля* эӈүнӡэн, ооӡан,
ӡалупчан, а~ эми бүдэ-хэ.
гээ, бии оокта, өмөн *поколение*ва *пускай* биӈитин, *это умурут*,
а второй поколение будут расти,
а то и все, *будут расти*,

кто друг дружку будут съедать.
а рыба-да не будет или ничего еехун-да,
оло-да еехун-да аачін оошан." гээ тај-да *точно*,
ии, тај-да тэӡэ. тэӡэ тај. гээ, эси-гдэ, ӈэнэчэ.
буға эмэјгичэ, э-је~ тај ӈінахінӈі *шуба*лкасал *уже* геехуктаја.
"бэјэ хэсэнин... ӈии оочан сүндү, ӈии оочан, эјгэнэсүн."
тај омӈоча, ӈии, *кто сделали*, тај оочан, *а* бэјэхэсэл,
аліллан аліллан, нуӈан дээлбэн эӈүнмэн,
эј унтај доктонман аталчан, дээлбэн даапкі иктэчэн.
"эдүккэј чааскі аачін хэсэлэ оошасун.
бэјэ амунман ӡэбӡэсүн."
вот тиихэм ӈінахін аачін хэсэлэ ооча. *это* тэӡэ,
это правильный, это, это не сказка тэӈ бисин.

1994 Ⅷ 20. в Белоглинке, Е. М. Самандина

4. өмөн бэjэ балдiча

өмөн бэjэ балдiча, эj дулiн буғаду, биттэ,
вот это наша света это название... гэлбинин дулiн буға.
биттэ хэjгидээдүт амбан буғанiн. бунiнкан буғанiн.
а биттэ үвидээдүт, тај үвү буға, дэғиктиисэл тај дэғиктиисэл.
үвү буғадун еехун, бэjэ *что ли*, бэjэтин бэjэ,
ну ӡэпкүнтин эӈүн. *сразу* ичэӡээс, гүннэхэн～ бүү...
бии ичэччэв тээлүӈ тии бисин-и. ичэӡээс,
тај асал эмэjэ, iла～н кеетiхан эмэjэ, эӈүчэл,
тај-кка, биттэдими еема кеетiхан, iла～н кеетiхан эмэjэ,
өмөн ээнмэ *прямо* сивүндүлэ *блестеӡ*ан. тај *красивее всех*,
ээнмэ иидүккэj-дэ аjа тај асi, тај-а *сразу*,
тај тээлүӈ тај, *это сказка*, *не правда*
ну, эси-гдэ эмэjэн гээ, эмнэ еехун, өмөн бэjэ балдiча, эӈүнэн,
энинин эӈүндүккэj, үвү～ буғадуккај бисин, амiнiн дулiн буғадуккај,
амiнiн гэлбинин эӈүн, iлдаанi, энинин гэлбинин еема-ха, ӈии-дэ эсин сааjа,
тајва, эси-гдэ～ тај-а эӈүнэн, биси, тихэн-э энинин,
хүтэj асijан гэлэjэн, үвү буғадуккај, мээн эӈүн... *родня*дуккај,
еедуккај-ву, эмэӈитин, эмэӈитин, үвү буғадуккај.
таду ээнмэ гоjоло эчэ биси, өмөн асаткан, эдү, тии тај дулiн буғаду,
биттэ буғадут, балдiча, балдiчан-ӈу～,
амiнман энинмэн амбан ӡэпчэл, *а* нуӈанман ӡајачал,
еечал-ву сэктэ хэjгидээдүн, гээ, тај-а эгдэӈэ оодан, iсоввун,
буғаскi jүүjэн, буғала～-да тэғэчиктэjэн, тај сэктэ хэjгидээлин гэлэктиjэн,
энинин тес тај сэктэ хэjгидээлин нээктэчэ ӡэпкиткэлбэ,
еекkалба, үлэккэлбэ, гэ, тајкаха～нма бахајаан ӡэппэн, тихэм-деен тај,
сэктэ хэjгидээдүн чупал манапча, манавван,
ӡэбӡэхин аачiн оодан, асаткан.
тихэм-дихэ～н, тај нэхүнин бичэ, өмөн куӈахан. тајва эсин сааjа,
нэхүлкэнми-дэ эсин сааjа, еелканмi-да эсин сааjа.
тихэм-дихэ～н таду тэғэчиктэjидүн, тэғэчиктэjидүн-е～ өмөн куӈахан,
эӈүн... ӈэнэчэн, нуӈантiхiн, тај асаткантiхiн, гүнэн,
эхинми саача, гүнэн, "сии," гүнэн,
"миндүккэj сагдiнма бэjэ, сааji биӡэс～" гүнэн,
"еема үӡанiн," гүнэн тај-е, "өмөн үӡава бахачав-е～," гүнэн,

"тииски, *весь ростом* аасінчав," гүнэн,
"тии-ји, тии, өмөн гіјактанін, эј мин *рост*адуккав-да эгдиңэ~,"
гүнэн, гүнэн, тај эхинин гүнэн, "тајва эхэл асактіја,
сии *лучше*, эңүнмэ ӡэбдэвэј эңүнмэ ваахал,"
"эли~ ээнмэ эгди иијучэн хүллэ~," гүнэн,
"эли~-дэ, эситин гојоло биси биӡэн-е~," гүнэн,
"тајва ваајан, эмүвкэл, бии-дэ ӡэбӡээв аачін ооча."
"сии-дээ ӡэбӡээс аачін ооча," ее тај, маңга соо бэјэ биси,
"бии үлгүхээнэм, гојо туксаӡан *что ли*," ңэнэчэн,
ӡүүл бэјэ ілан бэјэвэ сэпкэлэчэн-дэ. ңаалаӡі уксајгічан.
эхинтихи ңэнүвгичэн, тиихэм-дихэн эмнэ тэғэччэн,
тэғэччэн мээн угдандуј, нуңан угдан еехун тај,
простој јүрта, эхинин ӡоонін *между* эңүн,
кадаа, *там спрятал её*, *она там расла*,
таду ӡајачан, тај-а доотін еева-да бэјэвэ-дэ эситин сааја,
еева-да эситин сааја. тихэм-дихэ~н тихэм-дихэн, үлэңңэн хүјүвчэн,
ӡэпчэн, њаан, њаан хүјүвгичэн, њаан хүјүвгичэн,
еева тес нуңантіхін таду үлэ,
еехун үлэ, *мало что ли* нуңатіл еева ӡэппэ *кроме* эңүн, үлэвэн,
еехун биттэ-ичин эңүнмэ *хлеба* ӡэппэ *что ли*, биттэдү,
хлеба бисихин, *конешно* ӡэпүмчэл, тихэм-дихэн, сэктэввэл,
а~ ӡэппээ~н аапухаччан.
тихэм-дихэн сэктэ хэјгидээлин доолдувван, доолдіча,
асі бэјэ ділганін, ділганча, оон-ті бичэн-е~ оон-ті бичэн,
"јеве~ је~ве~ до~ікан дулін буға солінін
јеве~ је~ве~ до~ікан бікааву ңааладу~ мүүлэми
јеве~ је~ве~ до~ікан бікаакін багдаріін хулајін минэвэ
эјэлэлэ мин ңаалај ӡүүлээ~н јеве~ је~ве~ до~ікан,
синэвэ гэннэвкэнэн," гүнэ, эј-*то* куңахан, гүнэн,
улкан куңахан гүнэн, мээн бүүтүв уутандуккај эхи ңэнэлэ,
"бии эсим асаткан биси. атам ңэнэјэ, атам ңэнэјэ~," гүнэн,
аг-да гојопті бэјэ, бэјэдүккэј балдіја бэјэктэ, бэјэдүккэј,
ітка тии бичэн.
улкан куңахан, нијаві хүтэ, мээн ӡооj оохін-да эсин ноодаја,
гээ, тихэм-деен аачігда ојгіча. аачігда ојгіча~ тии бисин.
тии бимдихэ~н, њаан-дахан тии доолдіјан,
тај сэктэнин хэјгидээдүккин, бэјэј эсин ичэвкэнэ,
асаткан ділганін, њаан,
"јеве~ је~ве~ до~ікан дулін буға солінін,

јеве～ је～ве～ до～ікан, солінін маатадуј,
јеве～ је～ве～ до～ікан акім уңал ӡоолані
јеве～ је～ве～ до～ікан багдијін олі," гүнэн эхинин,
"эмэңин мээнэхэн, эмэңин мээнэхэн."
"бии атам ңэнэјэ," балдіча куңахан, еема-да ӡолон, ӡолондуккај,
куңахан бэјэ, мээн ӡоој эсин ноодаја, асаткан,
"өмөн ӡооду бисим бии," тихэм-дихэ～н тихэм-дихэн эси-гдэ,
эмүвчэн-ңү еечан-ңу тајва. гээ, элээ *этим кончатся.*
она спать захатела, эңүнэн, *и сказала*, *завтра продалжаем*,
ај, *так и не продолжала она-то умерла.*

1998 VIII 18. в Маго, Д. Л. Кини и Е. Т. Паскаева

5. *разговор про третью сестрy Эммy по негидальский*

(К)нy, тихэн бии гyнэм нyҧантіхін, нyҧантіхін ҧіјіјчав,
"оон-мал эҧynми ҧэнэӡэв-е~ синэтки,
оон-мал ҥахаткал оон-мал ҧэнэӡэ,
бии-дэ ээнэм апчім-і," эҧynмэн, *Витка* амінман бахача, *ну,*
она до этого нyҧан саача биӡэн. эӡэлэј-дэ эҧynэ,
эӡэлэј-дэ *витка* эӡэлин-дэ бyдэ, эҧynмэ, *она его* саајан,
нyҧанман саајан, иидy-дэ бисивэн, *ну, потом,* эҧynэн,
Витя бyчэлэн, эҧynчэн, ҧіјіјчан, нyҧантіхін,
*ответ*ва ҧіјіјчал те~с-да, эј-ичин оојі эҧynмэ yҧчэл.
*кассета*ва *что бы, она* мээн бисиј тај *кассета*тіхі ҧіјіјдан.
чопал оон бичэвки, *вот пириод ихний расставание.*
как они там жили.
ну, оон бичэккэн, нyҧанман ноодачан, ноодамаччалај,
оон ојгічаткај, еенӡі бичэккэл, оон-да, чупал ҧіјіјдан таду,
а мээн бичэвки, нyҧан *кассета*ва yҧчэ,
или тихэн..., *Эмма* тајва доолдічча, оон-да, оон бичэккэн, *тоже* тес,
"эмэми бии синэтки чупал тајва yлгyчэнӡэв.
и доолдіччас." ааҧ, *ну и* тајва
"ээним синэтки апчім-і~ ээним синэвэ ӡооҧгім-і~
может болоткі биӡэм-ҧy еешам-ҧy бyӡэл-да."
ну, болоні бичэн *и* тyвэни бичэн *нечего,*
(Р)ага,
(К)ҥахаткан. *ну Виталя,* хyллидyј эјкyвэччэн, *специально.*
(Р)чааскі хyлчэн,
(К)хyлчэн, *плавай*насімі ҧэнэми, *ай так-то они до Тебух*-а *Тахтин...*
ҧэнэми, *а решили он Тахтин*тіхі ҧэнэдэвэј, *и* эҧyндэј,
(Р)эјкyдэј,
(К)эјкyдэј, тyктивэччэтин, гэ, нyҧантіхі, *Эммy*каттіхі,
ну и таду *она* гyнэн, гyӡэј *ничего,*
так свелиться гyнэн, тyҧкyктијэн эҧynэн, тэпэјиктијэн.
ӡоо доолін. *ну и* тес чyхэтисинчэ,
гyнэ~, *Виталика*ва-да чапчајан, гyӡэјэ~ гyнэн,
"оој энинмэс, энинтихис апчам-е
энинмэс эмэвкэччим ееда эсин эмэјэ минэттихи."

"гүнчэв-е～," гүнэн, "*она тоже*, ээним ээним энүүнэхэн бисин."
ну, тихэн, тај, нуŋан эчэ ŋијија *кассета*ду, сајіінан.
"сајіігда-і～" гүнэн, "атам ŋијија," гүнэн,
"еева-да атам үлгүчэнэ оон-да бичэвки," *ну*, ŋијијчав гүнчэ,
*внуки*в бисин, хүтэј хүтэнин бисин *и*,
таткаччан эси, нахатукан бинэхэн, *институт*ла эŋүнэн, *паступа*јан,
а гэлбинин *Лёша*, гүнчэ, ŋијијчав гүнэн. *ну и это*,
(Р)*Хабаровска*ду ! ?
(К)*он, он Комсоморьска*ду *что ли*?
(Р)*Комсоморьска,* ноŋатіл бичэтин *Комсоморьска*ду, *Виталия*?
(К)*да, Хабаровски, он, и* тихэн *он говорит*, "*я вот ежу*,
*Комсоморьска*ттіхі *каждый раз* хүлим-е～" гүнэн,
тај *Комсоморьск*аттіхі оохін-да оохін-да хүлим гүнэн
*Комсоморьск*аттіхі, *и не знал что он там*,
(Р)*Виталика*ва.
(К)*и вот* гүнэн *сейчас*, тајва ŋијијчав гүнэн,
"хүтэс хүтэнин, таду бисин."
и асін *потом* ŋијијча асін битэхэлэн, гүнэн гүнэ,
"сии битэхэвэс бахача, бахачавун, тај битэхэвэ бахалчадуккај
умулча тес ајахіва умман, умман, *он, он*."
(Р)а～
(К)*Петя*,
(Р)бии *Петя*ва саам, бии *Петя*ва саам,
(К)саас-і ?
(Р)саам, бүү тіліхаду гэсэ бичэвүн.
когда Эммука нуŋанзін хүллидүн.
Эммука эŋүнчэ, *ну* хүтэј бахајідун бии *же* нуŋанман эŋүнчэ,
чуŋујулбан миинэчэв, чупалба бии эŋүнчэв,
бии *Варелка*зі эŋүнчэв, үјгэгди бичэв,
Варелка балдічан *ноябрь*ду, *а* эŋүн, *Витя* балдічан *сентябрь*ду,
*октябрь*ду *нет начало октября новерно, или сентябрь*ду,
нуŋан бахачан, эŋүн, *Виталика*ва. энүлчэн.
потом что хүглээнзи эчэ балдівва. нуŋанман,
а үјкэду заваанзі балдівчан. гүзэј-е～
минэттихи гүнчэтин бии туксачав, эмүгдэхээв эгдүŋкээјэ,
туксачав, *и* гүзэј～ іліччан тај завачіјан
эŋүнзи, үјкэ эŋүндүн, завчікідун. бии нуŋанман гүнэм,
"элэкэнээ," бии, бии эј доолдіччав сагді эникэндүккэј,
оон миинэвви чуŋујува. *ну*, чуŋујува миинэдэј еехун...

кіптіj-да *надо*. эӈүн-дэ сүмү *или* еехун-мал *тоже надо*,
еехун-да аачін, *ну и* бии бахачав эӈүнмэ, эӈүнмэ,
как суровая нитки были хүпэн,
(К)томкома,
(Р)*да*, тајва эӈүнчэв, хэјкэчэв *и* миинэсинчэв.
а миинэсинчэв, бии гүнэм, "ӌаваткал," гүнэм,
бии тај ајаканӌі эӈүнмэ,
вот Эммука бисидүн үлгүчэнӌэв, *а* эӈүнмэ,
"ӌавачіхал эхэл тиккэ," тај хүтэвэн, эчэв-дэ сілкі, авчав,
"түгэ түгэ," нуӈан орубахаканӌін эхилчэв. *и* нээчэв,
аха бии гүнэм "*Эмма*, гээ бии синэвэ ӈэнэвүктэ,
тај эӈүнтихис, сэктэвүнтихис," ӈэнэвчэв сэктэвүнтихин,
оон-да *место*н эсин јүүјэ.
(К)тихэм биен, эмүӈан, эмүӈан,
(Р)оон-да эсин јүүјэ, бии гүнэм эӈүнтихи~,
оон, еема бичэн-е~ эӈүн-э, эӈүн,
(К)чуӈују ! ?
(Р)*нет не* чуӈују, ахінін-*то*. *Эмка* ахінін,
(К)а~ *Саша* ! ? мінчука ! ?
(Р)мінчука аачін бичэн ӌооду. бичэн эӈүн,
хүтэнин-кэ~ *Володя*. *Володя*.
(К)а~ *Вовка*.
(Р)*Вовка*, *Вовка*тіхі гүнэм, "*Вовка*~ ӈэнэхэл," гүнэм бии,
"*тётя Соня* гэннэхэл," гүнэм бии,
эӈүн асінін, *соловьёва* асінін, *вот* тај *тётя Соня*...
Душа. *тётя Душа* эмэјэн, гүнэн минэттихи,
"гэ, бии нуӈан эмүгдэвэн эӈүн-*то как, её*,"
(К)*массаж*,... моӈӈіӌав,
(Р)"моӈӈіӌав," гүнэн. *ну* тај моӈӈііdүј *наверно*,
эӈүнчэ тааниа биӌэн.
тај эӈүнмэн. *и у неё температура* ооча, *Эммука*дү, *температура*,
эгдүӈэ бичэн. бии гүнэм, эӈүнтихи, ахінтіхін *Эмма*,
гэлбинин мінчукаттіхі *и Андрей*ттіхі, "ӈэнэвмэ, Тактінтіхі ӈэнэвмэ."
а как раз дождик, тигдэ, тигдэнэнэн. *аха*, даі *и* эӈүн-э, эдин,
апав мүндү еема-ха угдава бахачан, *дядя Вася*,
апа бахачан угдава *мы* таду, нуӈанман *насилка*ду нээчэвүн,
и ӈэнэчэвүн, *а* тигдэ, гүӌэј чупал улаппан,
хүтэккэнмэн эчэвүн сілкі, *а* тај эмнэхэн тај эӈүн тигдэдүккэј,
ээним ајаккан ооча, чупал, бии таjӈін эј-ичин эӈүнэн

эj доолін гідам. еела бахас таj, эӈүн, лапчава.
эӈүнмэ, эj доолін гідам, талі эмнэхэн-те~ эмүгдэв ojолін түктикихин,
аха, тактінтіхі эмэчэвүн, тактін бajгідаттіхін,
"гээ эӈүсэл, *прямо* оон даввус, оон даввус,"
(К)ваата?
(Р)эӈ, ваатajан, тихэми~ мінчука гүнэн,
(К)багдімда ваатajан,
(Р)*аха*, "бадін, бадін чаалан ӈэнэӡэт."
чааскі, бадік..., нии аасінчан, *Андрей* моова тэсиjэн,
*костёр*ва эӈүнэн, ілаччан, *ахан ну он* таду,
эӈүндү, угда доодун, бии гүнэм,
"*Андрей*, ӈэнэвкэсүн нуӈанман эӈүн дағаттіхін, тоғо дағаттіхін."
ну, мінчукаӡі ӈэнэвчэтин, тоғо дағаттіхін,
и эӈүнмэ лапчакалба эӈүнэм, *мою*.
(К)*мыли* лапчакалба,
(Р)*аха*, моова тии нээчэвүн, тии лапчалба тии
нээjивүн, хүтэвэн эхилдэj, таду амунча, чихэнчэ
мин эмүгдэв ojодун, *и* нуӈанман *тоже* эӈүндэj *надо*,
немножко олгодан. *ну, и ладно* баӡік-а, ӈэнэвсинчэвүн,
давсінавун, эси-гдэ, *Андрей* гүнэн мінчукаттіхі,
"бии гівулӡав, бии гівулӡав, сии ajаканӡі эӈүхэл, іӈчіхал."
а, минэттихи гүнэн, "эхэл ӈээлэхэччэ, еехун-да аачін,
эси аачін ojгіча эдин, тигдэ-дэ аачін, ніхалаа-да бисин."
акча, давчавун ээним ajаӡі.
ээним ajаӡі давчавун *прямо* тактінтіхі *дибркател* эсин биси,
дибркатер даадун *так-та, и когда* даввідуj ичэм,
о~ *машина* таду іліччан.
аха бии, тадуккаj апа үлгүчэнӡэн,
эӈүнтихи ӈэнээн-дэ, Телеха тагда~дун *озеро* даадун бичэн,
ӡоо таду *телефонист*, гүнэвэччэ, *связисты*.
апа эӈүнӡи *оморочка*ӡі ӈэнэчэн таддукаj үлгүчэнчэ, *больница*ттіхі,
ӈэнэввээн, асі бэjэвэ, хүтэj бахача, еемі-ха ээнимэӡи сээксэн jүүjэн,
сээксэн ээним jүүчэн, гүӡэj-э~
(К)ээнимэ хаскаччан,
(Р)*да, ой* бии саача бинэхэн мээнэхэн эӈүнчэв,
ну и вот давчавун *только* эӈүнтихи,
(К)*пристали*. (Р)*аха, и*, (К)аакчасун,
(Р)аакчавун, *только* аакчавун таjсал *носилка*ӡі мэнэттихи туксаjа,
аха, *сразу* эj *носилка*дуккаj, таj *носилка*ду нуӈанман нээчэл

гүҙэj-э～ чупал улапча,
"хүтэнин иидү, хүтэнин иидү," "балдічан." *за* хүтэнин гүнчэтин, "иидү."
бии, эj доодуккон jүүвүм, тај хүтэккэн,
сразу таду *перьонка*ва эмэвчэтин *и* тајсал *врачи*сал.
"түгэ, түгэнҙи," *и* тај *машина*ҙі ңэнэчэтин,
бии *только* гүнчэв нуңантіхін,
"бии ңэнэктэ, *немножко* эңүктэ, сілкікта-да тај эңүнмэ,
ниилбэ орубахаҙін." *а* таду бичэн
знаешь, *тогда*, *Таня талакан*, сии саас?
(К)*знаю*,
(Р)мііма хүтэнин, эңүнҙи гілахаҙі.
(К)саам, саам, саам.
(Р)*аха*, нуңантіхі ңэнэчэв, нуңантіхі ңэнэчэв,
Таня орубахаҙін..., сілкіjаан, *танjа* орубахаҙін тэччэв,
чупал эмүгдэхээв те～ *Андрейка* эңүнҙи мінчукаҙі,
эмэчэтин-то чааскі, *чаj*ва сүличэвүн ңэнэчэвүн чааскі. ңэнэчэвүн чааскі,
октовунтіхі, *больница*тіхі, ңэнэjивүн чааскі, эңүн ахінматін,
и эситин иивкэнэ, тај дооттіхін, бии иим эси-гдэ, бии иим,
"*ой женщина*," тии гүнэн луча,
"эj асі, сии-дэ эси хүтэj элээ бахаҙас."
"*нечего*～," бии нуңалтіхін, "бии ңэньиҙэв ҙооттіхі
таду бахаҙав. минңи *ещё*, *не сурок*."
"*ну ладно*. *Эмука*ва атас ичэччэ," гүнэн,
докторка, *потому что* нуңанман эңүн-э, осіjа,
чупал тајван *чистили*,
"*аха*, *ну ладно*, сиксэннэ эмэҙэвүн." мінчукатіхі гүнэм бии,
"атап эинэңдү ңэнэjэ, *хорошая погода*. аjа буға.
атап ңэнэjэ, тіманнан ңэниҙэп, анахан ичэччэ оон ңэнипү."
аха, гээ баҙі～к ҙэппэн ңэнэjивүн, ілан,
ңэнэjивүн ілан эмэjгичэ эмэчэвүн, мүнэвэ чупал иивкэнчэтин,
потому что эңүн, бүү ңэниҙэвү～н, гүнчэвүн,
"бүү ңэнэсинэвүн ҙооттіхі," тихэми мүнэвэ иивкэнчэтин, иивкэнчэтин,
ичэччэвүн үлгүчэнчэвүн, *температура*н аjа ojгічан *немножко* ии
бүү тии ңэнэчэвүн, бүү～ *тогда*,
Тактін эңүндүлин эчэвүн ңүниjэ, эмңүн дааптулін ңэнэjивүн.
эси-гдэ халіміттіхі іссівун, *Андрей*, энүллэн. мінчалду бичэвүн,
ҙэппивүн *и вдруг*, *Андрей* іллан, буғаскіі jүүjэн,
и бии гүнэм, "ееча-ха *Андрей*,"
"эчэ-дэ ҙэппэ, илэ ңэнэчэн," эси-гдэ jүүм буғаскі,

Андрей эӈүн-э эӈүнӡи, унтаӡі тии оојіӡі *резинама*ӡі тэччичэн.
мүүли чааскі эвэски хүллэн чааскі эвэски хүллэн,
"*ну Андрей-ка*, еемі хүлис мүүли."
бии мэјгэм бојкон-да аӈіскі ооча.
(К)міаван-ӈу
(Р)*не∼т*, *ну может быть простил*,
кровотечение нуӈандун *откры*лся *от лёгих, аха*, чааскі эвэски.
я эмэјгим ӡооттіхі гүнэм мінчалтіхі гүнэм, "мінчал,"
гүнэм бии, "*Андрейка-то* энүлчэ, амӈадуккан сээксэ јүүјэн."
аха, бии эӈүнӡи, мінчалӡі, эси-гдэ эӈүнӡи ӈэнэвү чааскі, буғаскі.
"гээ, эхэл хүллэ мүүли, еева хүлис мүүли,
тикчэс-дэ бүӡэс," *ахан*, "эмэхэл эвэски." мінчал ӡавачан,
ӡооттіхі эмэвгичэтин, *и* эӈүнмэ тринтихи *катер*ва гэлэчэтин,
тај *катер* эмэвчэн, эмэчэн, нуӈанман тээвкэнчэтин,
ӈаан мінчука таду тээјгијэн,
эси-гдэ нуӈанӡін ӈэнэјэн, бии илэ ӈэнэм эмүкчэкэн, өмөн угдаӡі,
бисим мінчалјаду, *аха, как* сиксэннэ,
так и мінчал з*вони*јан, *как* сиксэннэ,
"эхэл эӈүнэ," гүнэн, "аја," гүнэн, "аја."
нуӈаман *так и* эӈүндү *больница*ду нээчэтин
тај симкији *больница*тіхін нээчэтин.
а чааскі ӈэнэјидүвүн, бүү эӈүнтихи,
(К)леехінма бахачан,
(Р)*аха*, бүү эӈүнтихи тринтихи, эӈүнӡи ӈэнэјивүн.
(К)угдаӡі,
(Р)угдаӡі, эӈүнӡи мінчукаӡі, *а* ӈэнэјивүн, нуӈан, *гривётся*,
бии эӈэн-э ееӈчам, *а* таддукај *а*,
рыб завод биси-эчэ эӈүндү, Телехаду,
не рыб завод а база. аха, тај *база* эӈүнин эмэчэ *катерин*,
тај *катерин* эмэчэ, *и* мүнэв ӈэнэвчэ.

ネギダール語基本文例

1998 年 8 月 14、20 日にマゴ村にて、Dora Leont'evna Kini 氏より聞き取り及び録音。

(s001) Он не нанаец, а негидалец.
noŋan əsin naanɪ bəjən bisi, *a* naa bəjən.
彼は 否定 ネーナイの 者 である、 ネギダールだ。

(s002) Как вас зовут?
sii gilbisi eema.
あなたの 名前は 何？

(s003) Я достану вам сигареты в магазине?
bii baxaǰaw sindu saŋňanma magazɪndʊ.
私は 得るだろう、おまえに タバコを 店で。

(s004) Он едет на лодке.
noŋan ŋənəjən ogdaǰɪ.
彼は 行く 舟で。

(s005) Мне надо купить хлеба.
bii gadaj ňixəm klippə.
私は 得ようと する パン。

(s006) Мой сын поступил в школу.
bii xutəw tatkannan.
私の 子供は 学ぶ。

(s007) Мне нравится это сказка.
mindu aja, əj təəluŋ.
私には 良い、この 話は。

(s008) Я изучаю негидальский язык.
bii tatkačɪm naa bəjən xəsəwən.
私は 学ぶ ネギダール 語を。

(s009) Он негидалец или нанаец?
noŋan naa bəjəni-ŋuu, naanɪ-ʊʊ.
彼は ネギダールか、 ナーナイか？

(s010) Я начал работать здесь с прошлом году.
bii dəŋsilčən tii aňŋanı ədu.
私は 働き始めた、 去年、 ここで。

(s011) Мать послала сына в магазин.
ənin xutəj ŋənəwkənčə xodatkı.
母は 自分の息子を 行かせた、 店へ。

(s012) Я люблю свою бабушку.
bii əənim gŭjəənəm, sagdı əninmi.
私は とても 大切に思う、 自分の祖母を。

(s013) Этот мальчик быстро бегает.
əj xutə əənim tujgəňji toksaktıjan.
この 子供は とても はやく 走る。

(s014) Он вышел из дома без шляпы.
noŋan juučə, aačın awʊla.
彼は 外へ出た、 無しで、 帽子を。

(s015) Этот город стоит на берегу реки.
əj xoton bisin muu čačadʊn.
その 町は ある、川の 岸辺に。

(s016) Нельзя бить ребёнка.
əxəl moŋŋa xutəwə. /əwwi moŋıwwa xutəwə.
禁止 叩く、 子供を。 すべきでない 叩くべき 子供を。

(s017) Благодаря вам за помощь.
kətu-ə～ bələččəjisi.
ありがとう、おまえの助けてくれたことで。

(s018) Благодаря вам мы кончили работу.
kətu-ə～ sii dalıňjısı dəŋsiwə ətəjgičəwun.
ありがとう、おまえの おかげで 仕事を 我らは終えた。

(s019) Он живёт близко.
noŋan bisin daadʊ～-da.
彼は いる、近くに。

(s020) Он более высокий, чем я.
noŋan gʊgda～ mindukkəj.
彼は 高い、 私より。

(s021) У меня болят руки и ноги.
bii ŋaalaw-da, bəgdiw-də ənulkən.
私の 手も、 足も 痛みがある。

(s022) В нашем краю много болот.
mun bʊwadʊwʊn əənim əgdi kʊtaa.
私たちの 地域には とても たくさんの 沼が（ある）。

(s023) Я туда не пойду.
bii čaaskɪ atam ŋənəjə.
私は あそこへ 否定未来 行く。

(s024) Он ничего боится.
noŋan eeǰɪ-da əsin ŋəələxəččə.
彼は 何にも 否定 恐れる。

(s025) Мальчики подходят к дереву и берут яблоки.
koŋaxaal mootkɪ ŋənəjəən, rumkinmə tagdiija.
子供たちは 木の所へ 行ってから、 野生のリンゴを もぎ取った。

(s026) Мальчик бросил камнем в окно.
koŋaxakkan paatkɪ ǰolowa ǰolodača.
子供が 窓に 石を 投げた。

(s027) Говорят что он болен.
gunə, noŋan ənunə～n.
彼らが言うには、彼は 病んでいる。

(s028) Мне нужна белая бумага.
mindu bagdɪjm xawsanma.
私に 白い 紙を。

(s029) Я хочу поговорить с вами.
bii sinǰi ulgučəndəj nixəm.
私は おまえと 話そうと する。

(s030) Вчера я ещё был в Хабаровске, а сегодня я здесь.
tiinuj bičəw bii khabarovskadu, əjnəŋdu ədu.
昨日 いた、私は ハバロフスクに、今日は ここに。

(s031) В этом году весна пришла рано.
əj aňŋanidu ňəŋňə əməjgičə əənim tujgəňji.
今 年 春は またやって来た、とても 早く。

(s032) Вели нас, ведь ты знаешь дорогу.
munəwə xəlbuxəl, sii oǰawa saas.
私たちを 連れて行け、おまえが 道を 知っている（んだから）

(s033) Эти сапоги мне велики.
əj onta mindu əŋdəŋə.
この 長靴は 私には 大きい。

(s034) Камень был величином с кулак.
ǰolo bičən čojgaa-čɪxan.
石は そのようだった、握りこぶしぐらい。

(s035) Вчера он вернулся домой поздно вечером.
tiinuj noŋan əməjgičən dolbon dolɪ～n, ǰootkɪ.
昨日 彼は 戻って来た、 夜 中に、 家へ。

(s036) Я приеду к вам бесной.
bii sunətki əməjgǐjəw ňəŋňə.
私は おまえの所に 戻って来よう、春に。

(s037) Птица села на ветку.
čɪwkaan dooča gajatkɪ.
小鳥が とまった、枝へ。

(s038) Она работает с утро до вечера.
noŋan dəŋsijən baǰɪndukkaj siksəjitkin ǰək-də.
彼は 働く、 朝から 晩まで ずっとだ。

(s039) Он взял книгу со стола.
noŋan ǰawača *kniga*wa dərəədukkəj.
彼は 取った、本を、 机から。

(s040) Ничего не вижу.
eewa-da əsim ičəjə.
何も 否定 見る。

(s041) С горы деревня хорошо видна.
gaandukkaj/gajaadukkaj/ujədukkəj gasin aja〜ǰɪ ičəwwən.
遠くから／上から 村が よく 見える。

(s042) Они едят рыбу палочкими.
noŋatɪl ǰəppə saapkǐǰɪ olowa.
彼らは 食べる、箸で 魚を。

(s043) Он живёт вместе родителями.
noŋan bisin amtɪǐǰɪ.
彼は いる、父たちと。

(s044) Я сделаю это вместо тебя.
bii sin obuuwas oom/oǒjaw.
私が おまえの 代わりに やる。

(s045) Лодка плывёт вниз о течению реки.
ogda əjəsinən əjəpki.
舟は 流れ出した、下流へ。

(s046) Внутри дома было тихо.
ǰoo doodun simŋuxi〜n bičən.
家の 中は 静か だった。

(s047) У неё две внучки.
noŋan ǰuul xutə xutənin.
彼は 二人の 孫だ。

(s048) Дайте мне стакан воды.
mindu buuxəl muuwə stakandu.
私に くれ、 水を、 コップに。

(s049) Возможно, будет дождь.
tigdəǐǰə bǐǰən.
雨が降る だろう。

(s050) Она одного возраста со мной.
buu əmun aŋanidu baldɪčawun.
私たちは 同じ 年に 生まれた。

/noŋan miŋji əmun aŋanǰɪ/du baldɪčan.
彼は 私と 同じ 年に 生まれた。

(s051) Кто-то вошёл в дом.
nii-xəj iičə-wu ǰootkɪ.
誰かが 入った、家へ。

(s052) Он работает учителём в нашей школе.
noŋan dəŋsijən *uchitel'*du mundu.
彼は 働いている、学校で、 私たちの所で。

(s053) Я не могу вспомнить его фамилию.
bii əsim ǰoona noŋan *familiw*an.
私は 否定 思い出す、彼の 苗字を

(s054) Где мы встретимся?
iidu bittə baxanmaččap.
どこで 私たちは 会おうか?

(s055) Всякий человек знает это.
eema-da bəjən saajan tajwa.
どんな 人が 知っていようか、それを。

(s056) Можно войти?
iiǰəm-i.
入ってもいいか?

(s057) Вы наш лучший друг.
sii ajama andawun.
おまえは とても良い 仲間だ。

(s058) Она вышла из дома.
noŋan juučə ǰoodukkaj.
彼女は 出て来た、家から。

(s059) Вы говорите по-негидальский?
sii gunəs-i naa bəjən xəsəǰin.
あなたは 話すか、ネギダールの ことばで？

(s060) Я вижу трёх женщин.
bii ičəm ılaan asalba.
私は 見た、 三人の 女を。

(s061) Хотите горячего чая?
sii sulĩǰəs-i xəkəsi *chaj*wa.
おまえは 飲むか、熱い お茶を？

(s062) Передайте это вашей маме.
əninduj buudəj əjwə.
おまえの母さんに あげてくれ、これを。

(s063) Приходите к нам в гости.
suu-də munətki nimədəwəj.
おまえたちも 私たちの所へ お客に来てくれ。

(s064) Отец даёт мне деньги.
amım buujən mindu maaskawa.
私の父が くれる、私に お金を。

(s065) Мы давно живём в этом городе.
buu gojo～ bisiwun əj xotondu.
私たちは 長いこと いる、 この 町に。

(s066) Он живёт далеко от города.
noŋan goola bisin xotondukki.
彼は 遠くに 住んでいる、町から。

(s067) До дома ещё далеко.
ǰootkı/ǰoodukkı əlkə gojo～.
家へ／家から まだ 遠い。

(s068) Вы знаете, что он делает?
sii saas-ı noŋan eewa nixəjən.
おまえは 知っているか、彼が 何を しているか。

(s069) И день и ночь шёл дождь.
dolbo/dolbonɪ inəŋǰin tigdəjən.
夜に 昼に、と 雨が降る。

(s070) Этот камень в три раза больше, чем тот.
əj ǰolo ɪlaaxan əŋdəŋə tadʊkkɪ/taj ǰolodʊkkɪ.
この 石は 三倍 大きい、あれより／あの石より。

(s071) Он ударил меня по голове кулаком.
noŋan čojgalača dɪlwʊ.
彼は 拳骨で殴った、私の頭を。

(s072) Дети с семи лет ходят в школу.
xujil nadan aňŋanidʊkkaj ŋənəsinə *shkola*tkɪ.
子供たちは 七 年前から 通いだした、学校へ。

(s073) Я не знаю дороги в эту деревню.
bii əsim saaja oǰawa taj gasɪntxɪ.
私は 否定 知る、道を、 あの 村へ。

(s074) Думаю, что он скоро вернётся
bii məjgəčəw noŋan tʊjgəňji močʊjgǰan.
私は 思った、 彼は 早くに 戻って来ると。

(s075) Я живу вместе с братом.
bii bisim axɪmǰɪ gəsə.
私は 暮らしている、 兄と 共に。

(s076) Если пойдёт дождь, мы вернёмся домой.
tigdəllixin buu močʊjgǰawʊn.
雨が降り出したら、 私たちは 戻ろう。

(s077) Она заставила меня ждать.
noŋan minəwə alaačɪwkančan.
彼は 私を 待たせた。

(s078) Он придёт, если захочет.
noŋan əməǰən, əməmi oomɪ.
彼は 来るだろう、 来ると なったら。

(s079) Она смотрит на себя в зеркало.
noŋan ičəččən məənmi ičəxutki.
彼女は 見ている、 自分を、 鏡に向かって。

(s080) Мы готовимся к зиме.
buu bargɪjɪwʊn tuwəǰidəj/tuwətki.
私たちは 準備する、 冬を過ごすために／冬に向かって。

(s081) Я не знаю, что делать.
bii əsim saaja eewa nixəǰəj/nixədəj.
私は 否定 知る、何を するか／すべきか。

(s082) Он должен знать это.
noŋan tajwa saaǰaxɪn.
彼は それを 知っていて当然だ。

(s083) Он говорит по-негидальский как негидалец.
noŋan naadɪjɪjan məən naa bəjən.
彼は ネギダール語で話す、自らが ネギダールである（かのように）。

(s084) Дайте мне два килограмма мяса.
mindu buuxəl ǰuul kilowa uləwə.
私に くれ、 2 キロを、肉を。

(s085) Я взял его за руку.
bii noŋan ŋaalawan ǰawačaw.
私は 彼の 腕を つかんだ。

(s086) Он купил много рыбы.
noŋan olowa tees gača.
彼は 魚を たっぷりと 買った。

(s087) Что ты любишь больше, мясо или рыбу?
eewa sii ajawʊs malxʊñjɪ, olowa, uləwə-li.
何を おまえは 好むか、より多く、魚をか、肉をか？

(s088) Мы должны кончить эту работу сегодня вечером.
bittə ətəgǐjəət-kit əinəŋdu əj dəŋsiwə.
私たちは 終えるはずだ、今日、 この 仕事を。

(s089) Он что-то сказал, но я не понял.
noŋan eewa-xal gunčən-ŋuu, bii xaal xal bisim.
彼は 何か 言ったか、 私は ぼんやり していた

(s090) Кто не работает, тот не ест.
nii ətəji dəŋsi bəjə, taj atan ǰəppə.
誰か 否定 働く 者、 そいつは 否定 食べる

(s091) Я люблю гулять в лесу.
bii xujənduli geelıktıjıwa ajawu.
私は 森の中を 歩き回ることを 好む。

(s092) Земля была покрыта листьями.
tuuj abdaxanǰı dasıwča.
地面が 葉っぱで 覆われた。

(s093) Я помог ему сесть на лошадь.
bii mujmtıxı təədən bələččəw.
私は 馬へ 座れるよう 手伝った。

(s094) Она самая красивая дебушка в деревне.
xonaat baldıča-xın niidukkəj-də aja gasındu.
娘は 生まれついた、誰よりも 美しく、その村で。

(s095) Это хорошее место для отдыха.
əj aja buwa dəjimkittəj.
これは 良い 場所だ、休むのに。

(s096) Там лежит мешок с картофелем.
tadu ılıččan, somalandu *kartoshka*.
そこに あった、袋に ジャガイモが。

(s097) Мы перешли по мосту на другой берег.
buu moolı/təpkəwunduli ŋənəčəwun bajgıskı.
私たちは 棒を通って／橋を通って 行った、 向こう岸へ。

(s098) Я умею плавать.
bii xajwıjıwa otılım.
私は 泳ぐことが できる。

(s099) Я на год старше его.
bii əmun aŋŋanǰı axın bisim, noŋandʊkkın.
私は 一 年 兄さん だ、 彼より。

(s100) Ему надо поговорить с вами.
noŋan siŋǰi ulgučəndəj ŋixəjən.
彼は おまえと 話そうと する。

(s101) Они назвали своего сына Иваном.
noŋatil məən xutəwəj gilbičəl ivaŋǰı.
彼らは 自分たちの 子供を 名づけた、イワンと。

(s102) Как это называется по-негидальск?
oon gilbin əj naa bəjəǰin.
どういう 名前なのか、これは、ネギダール語で。

(s103) Потерянная книга нашлась.
amapča taŋıwun baxajgıčawun.
失くなった 本を 私たちはまた見つけた。

(s104) Он очень напоминает мне отца.
noŋan əənim amım-ičin ooji.
彼は とても 私の父のように 振舞う。

(s105) Мы пришли не к вам, а к нему.
buu sinətki əčəwun əməjə, noŋantıxın əməčəwun.
私たちは おまえの所へ 否定過去 来る、 彼の所へ 来た。

(s106) Несмотря на болезнь, он продолжал работать.
məən ənunnəxən, dəŋsičən.
自分が 病気であるにもかかわらず、彼は働いた。

(s107) Мне нечего делать.
eexʊnma-da əsim ooja.
何も 否定 する (私には何もすることがない)

(s108) Он некому не рассказал об этом.
noŋan niitki-də əčə gunə tajwa.
彼は 誰にも 否定 言う、それを。

(s109) Эти нитки слишком тонкие.
əj xupən əənim nəmkun.
この 糸は とても 細い。

(s110) Пусть он придёт.
gəə, əməŋin noŋan.
さあ、来させよう、彼に。

(s111) Вы знаете, где находятся мои ножницы?
sii saas-i, bii kıptıɪw idu bisin.
おまえは 知っているか、私の 鋏が どこに あるか。

(s112) У него кровь, идёт из носу.
noŋan oŋoktodukkaj səəksə səəčən/juujən.
彼の 鼻から 血が 流れた／出ている。

(s113) Он каждый день носит нам молоко.
noŋan tımannan tımanna munətki-xi əmuwsiktijən əxuňəwə.
彼は 明日また 明日と 私たちの所へ 持って来る、 牛乳を。

(s114) Мне нужно идти.
bii ŋunidəj nixəm.
私は 行こうと している。

(s115) Ему нужно деньги.
noŋan əənim maaskamusin.
彼は とても 金が欲しいのだ。

(s116) Одна девушка хочет вас видеть.
əmun xonaat sinəwə ičəttəj/ičədəj nixəjən.
ある 娘が おまえを 見ようと している。

(s117) Мы его просили, однако он не поехал.
buu noŋanman ojıktıčawun, noŋan əčə əməjə.
私たちは 彼に 頼んだのだが、彼は 否定過去 来る。

(s118) Он работал весь день без отдыха.
noŋan inəŋin tees dəŋsičən, əčə dəjimkiččə.
彼は 一日中 ずっと 働く、 否定過去 休む。

(s119) Я оставил дверь открытой.
bii ujkəwə əčəw somma.
私は 戸を 否定過去 閉める。

/bii ujkəwə niičijĭjin noodačaw.
私は 戸を 開けたままで 放っておいた。

(s120) Наша лодка уже далеко отошла от берега.
muu čɪčadukkɪn ugdawun goolo ŋənəčə.
流れが 川岸から 私たちの舟を 遠くへ 行かせた。

(s121) Давайте плывём к тому берегу.
gəə, xajwɪma bajgɪskɪ.
さあ、泳ごう、向こう岸へ。

(s122) Я ждал, пока он не пришёл.
bii geelɪktɪčaw, noŋan əĭəlin əməjə.
私は 歩き回っていた、彼が 否定 来る。

(s123) Поля были покрыты снегом.
tuuj bičən ɪmanawča.
大地は そのようだった、雪に降られていた。

(s124) Я не понял, что ты сказал.
sii gunəjiwəsi bii əsim/əčiw saaja/otɪlla.
おまえが 言うことを 私は 否定 知る／わかる。

/eewa-da gunčəəs, bii əsim saaja/otɪlla.
何を おまえが言ったか、私は 否定 知る／わかる。

(s125) Я хочу говорить по-негидальски.
naa bəjən xəsəĭin ulgučəndəj nixəm.
ネギダールの ことばで 話そうと 私はする。

(s126) Когда начлась война, он учился в школе.
bəjə kusillidun/kusijidun, noŋan tatkawundu tatkaččan.
人々が 戦争し始めた時に、彼は 学校で 学んでいた。

(s127) Почему ты не зашёл ко мне вчера?
tiinəj eeda əčəs iijə minətki.
昨日 どうして 否定過去 寄る、 私の所へ。

(s128) Я был занят, поэтому не писал вам.
bii eewa-xa oočaw tixəm sindu bitəxəwə əčəw ŋɪŋjɪja.
私は 何やかや していた、それで おまえに 手紙を 否定過去 書く。

(s129) Это написано по-русски.
əj ŋɪŋjɪpla loočapkɪ/loočadapkɪ.
これは 書いてある、 ロシア語で。

(s130) Здесь продают одежды.
ədu xodaja təččəñŋəwə.
ここで 売っている、衣服を。

(s131) Отец приказал мне пойти туда.
amɪm ǰaamʊlan, ŋənəwkəččən tala.
私の父は 指示した、 行かせた、 そこへ。

/amɪm gunčən, tala ŋənədəw.
私の父は 言った、そこへ 私が行くようにと。

(s132) Прочитав его письмо, она рассердилась.
noŋan bitəxəwən taŋŋaan alɪlča.
彼は 手紙を 読んで 怒った。

(s133) Никому об этом не рассказывайте.
niitki-də tajwa əxəl gunə.
誰にも そのことを 禁止 言う。

(s134) Они ловят рыбу сетью.
noŋatɪl adɪǰɪ bəjiččə olowa.
彼らは 網で 捕った、魚を。

(s135) Что он скажет, если узнает об этом.
noŋan eewa gunǰən, tajwa saamɪ.
彼は 何と 言うだろう、そのことを 知ったなら。

(s136) Я сделаю всё, что вы скажете.
eewa-da gunixisun, bii čopal oǰaw.
何でも あなたが言ったなら、私は それを全て やるでしょう。

(s137) Сколько человек пришло там?
adıı bəjə əməčəl/əməčətin tala.
幾 人 来たか、 そこに。

(s138) Тебе лучше сходить туда.
sii tala ŋənəjixis aja.
おまえは そこへ 行ったら よい。

(s139) Ребёнок умеет считать до десячи.
xutəkkəən otıllan ǰaantıxı taŋıwwıwa.
その子供は できるようになりだした、十まで 数えることが。

(s140) Чем больше, тем лучше.
əŋdəŋə～ əŋdəŋədukkəj aja.
もっと多く、それより多くが よい。

(s141) Когда прочитаю книгу, тогда дам её тебе.
bii taŋımı ətəjgičəələj sindu buuǰəw.
私が 読んで 終わった時に、おまえに やろう。

(s142) Дайте мне ту книгу, которую я просил.
buuxəl taj taŋıwʊnma bii gələčəw-ku.
下さいな、あの 本を、 私が お願いしたでしょう。

(s143) Ребёнок стал ходить.
xutəkkəən xulilčə.
子供が 歩き始めた。

(s144) Чьи вещи лежат здесь.
nii xaǰʊnin əj.
誰の 物か、 これは。

(s145) Я приехал, чтобы увидеть тебя.
bii əməčəw sinəwə ičədəj.
私は やって来た、あなたに 会いに。

(s146) Я сказал им об этом ещё раз, чтобы они не забыли.
bii ňaan gunčəw noŋaltɪxɪtɪn ədətin omŋojo.
私は もう一度 言った、彼らに、 否定 忘れる

(s147) Когда он был юношей, он жил здесь.
noŋan omolgɪ bisiduj ədu bičən.
彼は 若者 だった時に ここで 暮らしていた。

(s148) Когда я приехал, он ещё спал.
bii əməjgičəələw, noŋan ələkəə xugləčən.
私が 戻ってきた時、彼は まだ 寝ていた。

(s149) Я рад вас видеть.
bii čuxətim, sinəwə ičəčəəǰij/ičəjgičəəǰij.
私は うれしい、あなたに 会えて。

(s150) Ему очень просто это сделать.
eexʊn-da əsin bisi, noŋandʊn əjwə oomi.
何ということもない、彼にとって これを するのは。

(s151) У лошади длинный хвост.
mojm ijgin ŋonomkaaja.
馬の 尻尾は 長い。

(s152) Он уже четыре дня не ходил на работу.
noŋan digin inəŋiwə əsin xullə dəŋsitki.
彼は 四 日 否定 通う 仕事へ。

(s153) Он всегда чисто моет руки.
noŋan ooxin-da ŋaalaj ŋunŋuj sɪlkɪjɪ.
彼は いつも 自分の手を きれいに 洗う。

(s154) Ты читал эту книгу?
sii taŋčas əj taŋɪwʊnma.
おまえは 読んだか、この 本を。

(s155) Всё, что мы видели в музее, было очень интересно.
eewa-da čopal buu ičəččəwun *muzej*du əənim səbǰənigdi bičən.
何でも みな、私たちが 見たものは、博物館で、とても おもしろ かった。

(s156) Дети рады, что отец вернулся.
xujil čuxutijə amɪnmaj əməjgičəəwən.
子供たちは 喜ぶ、 自分の父親が 戻って来たことを。

(s157) Врач сказал, чтобы я не курил.
doktor gunčən, bii saŋňanma ədəw ʊmma.
医者は 言った、私が タバコを 否定 喫む。

(s158) Знает ли он что-нибудь об этом?
saan-ɪ noŋan, eewa-da tajwa.
知っているか、彼は、 何か、 このことについて。

(s159) Дверь была открыта.
ujkə niičičən.
戸が 開いていた。

(s160) Я увидел трёх стариков.
bii ičəččəw ɪlaan ətixəəsəlbə.
私は 見た、 三人の おじいさんたちを。

(s161) Каждое утро я умываюсь холодной водой.
baǰɪjɪm taŋʊndʊn giligdi/gilisi muuǰi sɪlkɪm dəəlbi.
朝 毎に 冷たい 水で 洗う、 自分の顔を。

(s162) Пойдём со мной.
gəə, ŋənəməə miňji.
さあ、行こう 私と。

/gəə, miňji ŋənəŋəj.
さあ、私と 行こう。

(s163) Ему не хотелось пойти с ней.
noŋan əčə ŋənəmusi noŋaňjɪn.
彼は 否定過去 行きたい 彼女と。

(s164) У тебя есть дети?
sii xujilkən bisis.
おまえは 子持ち なのか?

(s165) Мы шли по дороге.
buu ŋənəčəwun oǰalı.
私たちは 行った、 道に沿って。

(s166) Они помогают друг другу.
noŋatıl bələččə gee geewaj.
彼らは 助けた、互いが、互いを。

(s167) Он увидел, что два человека идут.
noŋan ičəččən ǰuul bəjə ŋənəjiwən.
彼は 見た、 二人の 人が 行くのを。

(s168) Как хочешь, так и делай.
sindu bisin, oon-da nixəxəl/ooxal.
おまえに ある（おまえ次第だ)、どうにでも しろ。

(s169) Которую из этих книг ты возьмёшь?
əj taŋıwwıdukkaj eemawa ǰawaǰas.
この 本の中から どれを おまえは取るか？

(s170) Человек, который вошёл в дом, его старший брат.
əj iičə bəjə ǰootkı, noŋan axınn.
この 入った 人は、家へ、 彼の 兄さんだ。

ネギダール語の音韻

本書では以下のような音韻体系を仮定し、それに基づいた表記を行なった。

・子音

無声破裂・破擦音	p(п)	t(т)	č (ч)	k(к)
有声破裂・破擦音	b(б)	d(д)	ǰ(ӡ)	g(г)
鼻音	m(м)	n(н)	ň(нь)	ŋ(ң)
無声摩擦音		s(с)		x(х)
接近音	w(в)		j(j)	
流音		l(л)	(r(р))	

・母音

女性母音	i(и)	ə(э)	ɵ(ө)	u(ү)		
男性母音	ɪ(і)	a(а)	o(о)	ʊ(у)	e(е)	ee(ее)

まず子音に関して。

本書で重子音とみなしたもののうち、-čč- と -ǰǰ- については、音韻論の立て方によっては -tč-, -dǰ- と解釈し表記することも考えられよう。

ni と ňi について、Cincius（1982）はその語彙集の中でこの区別をしているが、この違いはないものとみて本書では全て ni で表記した。この点に関してはなお検討が必要である。ŋi は ni のようにも発音される。特に Paskaeva 氏の発音では完全に ni である。

w は無声子音の前で無声化し、[ɸ]のように発音される。

ү の取り扱いも問題である。本書ではdiүin「四」、uүu「上の」、dəүi-「飛ぶ」、buүa「天」などの語に ү を認めたが、その発音はあまり明瞭に聞こえるではない。「冬」はそのような摩擦音が全く聞かれなかったのでtuwəとしたがやはり検討を要する。Cincius（1982）は uү^{w}u, tuү^{w}ə, のように表記している。この他に、-gəčinなどにも-үəčinのような発音が聞かれる。

次に母音に関して述べる。本書での男性母音の ɪ を Cincius（1982）は e としている。女性母音の i との違いは第一音節においてもっとも明瞭に現れるが、第二音節以降では不明瞭である。他のツングース諸語との対応から考えても、男性母音の ɪ とするのがよいと考える。

これに対し、本書でのe はもっぱらtes（ナーナイ：tias）、付属語の-e 、さらには間投詞的・擬音語的な要素（serowoj, xelebetax, ale～kome）及び地名に現れるのみである。これらも、ɪ と考えてもよいものかもしれない。ee はおそらく連母音 ia を起源とするものであり（ナーナイ語では現在も連母音である）、「何」を意味する疑問詞（eexun, eema, eedu, eeǰɪ, eedaa）の他は、geexukta-「歩く」、seen「耳」、keetɪxan「カモメ」などの語に限られる。なお Cincius（1982）は、本書で čə, ǰə, ňə, と表記しているものを一律に、če, ǰe, ňe としている。これは前の子音の口蓋化に惑わされたものであろう。母語であるロシア語の干渉であることもおおいに考えられる。

ɵ については、本書でこれが現れると認めたのはɵmən「一」とxəntə「別の」の二語の

みである。したがってこの母音の存在に関してはなお検討を要する。Cincius（1982）は p, b, m などの両唇音の後の母音の円唇化を捕らえて ə$_o$ のような表記を行なっているが、これは全く別物であり、またこのような異音における円唇化は軽微であって、特別な考慮に価しないものと筆者は考える。

ネギダール語において最も特徴的なことは、他のツングース諸語の o に対応する要素が、一語中の二音節以上にわたって現れる場合には、これが[ɑ]もしくは[ɒ]のような音、つまり[ɔ]よりもさらに広く、かつ円唇性も弱まった音（日本人にはアに聞こえるような音）で発音される点である。具体的には、ǰolo「石」、olo「魚」、gojoptɪ「大昔」、ojo-「上」、soŋo-「泣く」、omŋo-「忘れる」、olgo-「乾かす」、などの語である。

このようにo の調音点が下がっていることと関連しているのか、男性母音のʊ の調音点も低く、[o]のような音である。具体的にはnʊŋan「彼」、xʊnaaǰɪ「娘」、ʊgda「舟」、čʊpal「全部」、sʊlaxɪ「キツネ」、ʊǰa「道」、ʊnta「長靴」、čʊŋujʊl「へそ」、kʊʊmaxa「アザラシ」、dʊlɪn「真ん中」、ʊmukta「卵」、tʊksa-「逃げる」、ʊla-「濡れる」、ʊm-「飲む」、mʊj-「ねじる」、などの語である。Cincius（1982）はこれらの語の ʊ を全部 o で表記しているので、上記のアに聞こえる o と同一の音素に合流していると見なしていることになる。しかし単に音声的な違いからみても、この体系は受け入れ難い。

他方で上記の下線部の条件を満たさない o 、すなわち具体的にはǰoo「家」、moo「木」、oo-「作る」、ojgɪ-「作り直す」などのo が問題である。これらはアのようには発音されず、[ɔ]もしくは[o]のように発音される。したがってこれらが上記の ʊ と合流している可能性がある（実際にナーナイ語ではそのようなことが起きた）。今後更なる検討を要する問題であると考える。

最後に、ə の母音にもかなり a に近く聞こえるものとそうでないものがある。その条件は現在のところまだ筆者には説明できない。a に近く聞こえるのは以下のような語の ə である；məən「自分の」、səəksə「血」、minəwə「私を」、ŋəələ-「恐れる」、nəə-「置く」、gələ-「求める」。xəjgidəədut「下側の」、uwigidəədut「上側の」のような語の下線部もそのようである。つまり、これも調音点は下がっていることになる。この音声的な面を重視すれば、これらの語の ə が a に合流しているとする音韻体系をたてることも考えられよう。否定動詞の未来形は否定動詞の語幹が ə-と考えられることからすれば、ətə-とすべきかもしれないが、発音はかなり明瞭にa であるので、本書ではata とした。対格の-wə/-mə や完了の-čə なども、女性母音語につくにも関わらずかなりa に近く発音されることがある。語末に行くほど調音点が下がって行くような発音も時に観察される。このようにa とə の区別が明瞭でなく、しかも a に合流して行く傾向は、筆者の知る限りではウデヘ語やオロチ語に認められる。

以上みてきたように、女性母音のu, 及び女性母音の i を除く大部分の母音は、引き連鎖的に（もしくは押し連鎖的に）、連動して調音点が下がっている。英語の大母音推移とは逆の方向であり、このような変化が一般的であるのか、音声学的に自然な方向への変化であるのか、筆者は寡聞にして知らない。a に聞こえる音の機能負担量が高くなり、安定した体系にはならないのではないか、という推測もできる。またこうした方向への変化が起きた原因も現在のところ筆者は説明できない。

音韻論の体系的な整理ができたとはまったく言い難いが、ネギダール語の音声・音韻に関して、おおよそ上記のような特徴が観察された。

ネギダール語 接尾辞一覧表

1．接辞

1.0. 名詞及び形容詞類につく接辞（格-人称の順序で接辞がつく）

1.1. 格

1.1.1. 主格（～が）	-ϕ
1.1.2. 定対格（～を）	-wa/-wə/-ba/-bə/-ma/-mə
1.1.3. 不定対格（～を）	-ja/-jə/-a/-ə
1.1.4. 与格（～に）	-du/-tu
1.1.5. 方向格（～へ）	-tki/-tti/-tixi
1.1.6. 処格（～に沿って、～の部分を）	-la/-lə/-dola/-dulə/-tola/-tulə
1.1.7. 経由格（～を通って）	-li/-duli/-tuli
1.1.8. 奪格（～から）	-dukkaj/-tukkaj
1.1.9. 道具格（～で、～と）	-ǰi/-či

1.2. 人称

一人称単数	-w/-m/-bi/-uu		除外的一人称複数 包括的一人称複数	-wun/-bun/-pun/-mun -t/-ti
二人称単数	-s		二人称複数	-sun
三人称単数	-nin		三人称複数	-tin
再帰単数	-ji/-bi/-pi/-mi		再帰複数	-waj/-baj/-paj/-maj/-ŋaj

1.3. その他

1.3.1. 複数-l/-sal/-səl

1.3.2. 所有「～持ちの」-lkan/-lkən

1.3.3. 共同「～と共に、～と一緒に」-lgalı/-čil

1.3.4. 比較「～のような」-gačın/-gəčin/-ŋačın/-ŋəčin/-ǰin

1.3.5. -選別形「～の方（は）」nma/-nmə

1.3.6. 指小-xaan/-xəən/-xkaan/-xkəən/-kkaan/-kkəən

1.3.7. 指大-xaaja/-xəəjə/-kaaja/-kəəjə/-nǰa/-nǰə

1.3.8. 否定と呼応する要素-la/-lə

1.3.9. 譲渡可能-ŋi

1.3.10. ～のもの-ŋii

1.3.11. ～の側-gıdaa

1.3.12.1. 序数詞形成-i-tin/-i-nin/-i-wgim （ただし１はňooɣu、２はgeenma/geetın）

1.3.12.2. 集合数詞 -nii

1.3.12.3. 集合数詞形成（人を数える時）-ıŋasal/-iŋəsəl

1.3.12.4. 集合数詞形成（野生のトナカイ、ヘラジカを数える時）-jagda/-ŋna

1.3.12.5. 分配数詞形成-tal/-təl

1.3.12.6. 日数数詞 -la/-lə
1.3.12.7. 回数数詞 -jaa
1.3.12.8. 倍数（？）数詞形成-xa/-xə

1.4. 指示代名詞
1.5. 人称代名詞
1.6. 再帰代名詞
1.7. 代理名詞・代理動詞 əŋun
1.8. 存在の否定 aačɪn
1.9. 擬音語擬態語

2.0. 動詞につく接辞（派生接辞−屈折接辞の順序をとる、屈折接辞は必須）
2.1. 屈折接辞
2.1.1. 形動詞

2.1.1.1. 現在	-ji/-Ci
2.1.1.2. 過去	-ča/-čə
2.1.1.3. 未来	-ǰa/-ǰə
2.1.1.4. 被動	-pla/-plə
2.1.1.5. 習慣	-wkii
2.1.1.6. 近接過去	-makta
2.1.1.7. 可能	-ŋaat

2.2. 定動詞

2.2.1.1. 直説法現在	-ja/-jə/-ゼロ（1 sg. 2 sg.で）語幹末子音に同化 bi-, ə-, V-muでは-si、ga-, bu-, o-では-da/-də
2.2.1.2. 直説法過去	-ča/-čə
2.2.1.3. 直説法未来	-ǰa/-ǰə/-ča/-čə
2.2.2.1.1. 命令法近未来単数 2.2.2.1.2. 命令法近未来複数	-xal/-xəl -xa-sun/-xə-sun/-xan/-xən
2.2.2.2.1. 命令法遠未来単数 2.2.2.2.2. 命令法遠未来複数	-da-j/-də-j -da-waj/-də-wəj
2.2.2.3.1. 一人称命令単数 2.2.2.3.2. 一人称命令複数 2.2.2.3.3. 三人称命令単数 2.2.2.3.4. 三人称命令複数	-kta/-ktə -ŋi-wun/-ŋaj/-ŋəj -ŋi-n -ŋi-tin
2.2.3.1. 警告法単数 2.2.3.2. 警告法複数 一、三人称では-ǰa＋人称-məl	-ǰəkkə-s/-čəkkə-s -ǰəkkə-sun/-čəkkə-sun
2.2.4. 勧誘法	-maja/-məjə
2.2.5. 反実仮想法	-mča/-mčə
2.2.6. 推量法	-naa/-nəə/-noo［＋人称＋-dixə/-čixə］

定動詞（直説法）の人称

一人称単数	-m	除外的一人称複数 包括的一人称複数	-wun -p
二人称単数	-s	二人称複数	-sun
三人称単数	-n	三人称複数	-tin/-ゼロ（現在で）

2.3. bi-の助動詞的用法
2.4. 否定動詞
2.4.1. 一般的禁止　ə-ti　V-w-wa/-w-wə
2.4.2. 否定動詞現在
2.4.3. 否定動詞過去
2.4.4. 否定動詞未来
2.4.5. 否定動詞副動詞形

2.5. 副動詞

2.5.1. 同時副動詞	-naxan/-nəxən
2.5.2. 先行副動詞	-jaan
2.5.3. 長時間副動詞	-mdin/-mdɪxan/-mdixən
2.5.4. 条件副動詞	-mi
2.5.5. 限界副動詞「～するまで」	-dalaa/-dələə＋人称
2.5.6. 先行副動詞（処格による）	-ča-la＋人称
2.5.7. 先行副動詞（遠過去）	-ŋasa/-ŋəsə＋人称
2.5.8. 条件副動詞「～すれば」	-jik/-jixi/-čak/-čaxɪ＋人称
2.5.9. 目的副動詞「～するため」	-daa/-dəə＋人称
2.5.10. 限界副動詞	-knan/-knan-maj（非人称）
2.5.11 同時副動詞２	-anǰi/-ənǰi

2.6. 派生接辞
2.6.1. ヴォイス
2.6.1.1. 使役態　-wkaan/-wkəən
2.6.1.2. 相互態　-mat/-mət
2.6.1.3. 受動態　-w/-mu
2.6.1.4. 中動・再帰態　-p
2.6.1.5. 共同態　-ǰii

2.6.2. アスペクト

2.6.2.1. 継続動作体	-č/-či/-t
2.6.2.2. 多回体	-kta/-ktə
2.6.2.3. 開始体	-l
2.6.2.4. 長時間体	-s/-si
2.6.2.5. 反動・反復体	-jgi/-gi
2.6.2.6. 瞬間体	-sin
2.6.2.7. 習慣体	-wat/-wət/-pat/-pət/-mat/-mət
2.6.2.8. 不完了体	-ǰa/-ǰə

2.7. その他

2.7.2. 趨向体-naa/-nəə

2.7.3. 願望体-tča/-tčə

2.7.4. -mu 生理的欲求「～したい」

２．小辞

-gda/-gdə, -gdəkkəən, -malıxan, -məlin, -dəə, -la, -ka, -xa, -nun, -tii, -dıxa, -gu, -ku, -wal, -ŋasa

ネギダール語 文法概説

1．接辞

1.0. 名詞及び形容詞類につく接辞（格-人称の順序で接辞がつく）

1.1.格

1.1.1. 主格（～が）-ɸ

主格は明示的な形を持たない。名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文のいずれでも主語となる（(1), (2), (3)）。主語になる他、以下の(4), (5)のように oo-「なる」という意の動詞の補語ともなる（これを「格無し形式」として主格とは別物とする立場もある）。

(1)gəlbinin dolın bʊɣa.
名前は 真ん中の 世界、だ。

(2)dılmın əgdi, (2-041)
そいつの頭は 多い、

(3)əsi-gdə solaxı əməčə. (1-002)
今 キツネが やって来た。

(4)lamʊ čoktan ooǰas-e～ (1-026)
海の 貝殻に なるだろう、

(5)əmugdəxən əj-dixən ooča. (1-050)
その腹は こんな風にパンパンに なった。

1.1.2. 定対格（～を）-wa/-wə/-ba/-bə/-ma/-mə

-wa/-wəは母音終わりの語に、-ba/-bəは n 以外の子音終わりの語に、-ma/-məは n に終わる語につく。(7)のように gu-「言う」の相手を示す名詞にもつく例がある。期間を示す用法もある（(8)）。

(6)taj aawʊn**ma** təttəən toksanča. (1-067)
その 帽子を かぶって 逃げた。

(7)bii noŋan**ma**n gunəm, (5-074)
私は 彼女に 言った、

(8)noŋan digin inəŋi**wə** əsin xullə dəŋsitki. (s152)
彼は 四 日 否定 通う 仕事へ。

1.1.3. 不定対格（～を）-ja/-jə/-a/-ə

-a/-əは n に終わる語につく。エウェンキー語であればこの格は、人称がつかない場合、未来時制の文に典型的に現れて不定の目的語を示し、人称がついた場合にはナーナイ語等にある指定格のように「誰々のための～を」のような意味を示すという。人称がついて指定格的な意味を実現している例は以下のように見出されたが、人称のつかない例は見出せなかった。

(9)xutəj asi**ja**n gələjən, uwu bʊɣadʊkkaj, (4-017)
自分の子供の 妻を 求める、 上の 世界から、

(10)bii gənnəktə noŋatıl əjgən**ə**tin,
私は 取りに行ってくる、 彼らの 体を、

1.1.4. 与格（～に）-du/-tu

存在文における存在場所（(11)）、動作の場所（(12)）を示す。感情形容詞の斜格主語を示すのにも用いられる（(13), (14)）。与格の名の通り、授受動詞文の受け手にもつく（(15), (16)）。時間を示す用法もあり（(17)）、そのことから発展して、形動詞について全体として時を示す副動詞節のように働く用法がみられる（(18), (19)）。なお一文中に二度用いられることがある（(20)）。

(11)əj *mešok***du**, əənmə *ljogkij topor* bisin.'' (1-017)
この 袋の中に、 とっても 軽い 斧が あるんだと。

(12)gə, tadʊ *more***du**, soŋojon, (1-023)
さあ、そこで 海で、 泣く、

(13)noŋan**du**n ǰəmugdi, (1-002)
彼は お腹を空かしていた、

(14)noŋan**du**n *bol'noj uxo*, *uxo*, ənugdi. (3-036)
彼（イノシシ）には 痛い、 耳が、 耳が 痛い。

(15)amɪm buujən min**du** maaskawa. (s064)
私の父が くれる、 私に お金を。

(16)gə, bii sin**du** muukkəlbə muuliktə-ji. (1-063)
さあ、オレが あんたに 水でも 運んで来ようか。

(17)ta**du** tajwa ǰəpčə, ǰəpčə, (1-049)
そこで それを 食った、食った、

(18)taɪŋɪ waaja～n, ǰəbǰəji**du**n, (2-019)
そのヘラジカを 獲った、 それが草を食べている間に。

(19)taj ŋənəji**du**j gunčə (3-013)
それは 去る時に 言った、

(20)noŋan dəŋsijən *uchitel'***du** mun**du**. (s052)
彼は 働いている、学校で、 私たちの所で。

1.1.5. 方向格（～へ）-tki/-tti/-tixi

なんらかの場所への方向を示す（(21)）以外に、gu-「言う」の相手を示す用法（(22), (7)では定対格をとった例があった）、時間を示す用法（(23)）がみられる。

(21)əsi-gdə atɪjakan *tikhoniku zashjol* ǰoo**tkɪ**, (1-056)
今 おばあさんは 静かに 入った、 家へ、

(22)taj bʊɣa gunčə noŋan**tɪxɪ**n, (3-009)
その 天は 言った、 彼に、

(23)bolo**tkɪ** bǐǰəm-ŋu eeǰam-ŋʊ (5-022)
秋まで 私は生きているか どうか、

1.1.6. 処格（～に沿って、～の部分を）-la/-lə/-dola/-dulə/-tola/-tulə

場所名詞について存在及び動作の場所を示す（(24)）。与格同様、形動詞について時間的な状況を示す用法がある（(25)）。

(24)ojo**lan** təədəj, (3-025)
上に 座って、
(25)bǐjəmdi～n saača, saača, əmukčən bǐjəji**ləj**, (2-005)
暮らしていて、 知った、知った、一人で 暮らしている時に、

1.1.7. 経由格（～を通って）-li/-duli/-tuli
通り道を示す。
(26) gəə əsi-gdə ta**lɪ**, dawwan, dawwan, (1-036)
さあ 今 そこを通って、渡る、 渡る、
(27)čoŋkol**dulɪ**, čoxol bolbol. (1-078)
天窓から、 バタバタと飛び去ってしまった。
(28)eemɪ xulis muu**lɪ**. (5-197)
どうして 歩き回っているの、水の中を。
(29)bii xujən**duli** geelɪktɪjɪwa ajawʊ. (s091)
私は 森の中を 歩き回ることを 好む。

1.1.8. 奪格（～から）-dukkaj/-tukkaj
移動動詞の出発点を示す（(30)）ので、方向格とセットになった例（空間に関して(31), 時間に関して(32)）もみられる。取得源を示す用法（(33)）、時間の起点を表す用法（(34)）、比較の対象を示す用法（(35)）もある。
(30)amŋa**dʊkkaj** səəksə juujən. (5-203)
口から 血が 出ている、
(31)əmən**dukkəj** əmɛntixi, (1-039)
一匹から 別の一匹へと（一匹ずつ）、
(32)noŋan dəŋsijən bǎjɪn**dʊkkaj** siksəjitkin ǰək-də. (s038)
彼は 働く、 朝から 晩まで ずっとだ。
(33)eexʊnma-xa xəlbučən-ŋu uɣu bʊɣa**dʊkkaj** eewa, ǰəpkitpə, (2-061)
何を 持って来たんだか、上の 世界から 何を、食べ物か、
(34)gəə～ **ədukkəj** čaaskɪ atam tawɪjaja, (3-046)
さあ、これからは ずっと 手を出さないよ、
(35)min**dukkəj** soo aačɪm ədu. (3-007)
オレより 強い奴なんか いないぞ、ここには。

1.1.9. 道具格（～で、～と）-ǰi/-či
道具や材料を示す（(36), (37)）。tət-「着る」という動詞は対象に道具格をとる例がいくつも観察される（(38), (39)）が、他方で定対格をとった例もある（(6)）。動作の協力者（共同動作主）も示す（(40)）。形容詞について副詞を形成する働きもある（(41), (42)）。所有の形式「～持ちの」-lkan/-lkənと用いられる例もある（1.3.2.参照）。感情等の述語とともに、その感情の引き起こし手（原因）を示す（(43), (44), (45)）。
(36)eewa-da čopal *rubili* ta**ǰɪ**, (1-058)
何でも 全部 切り落とした、それで、

(37)əmən *berjoza***ǰɪ** *sytyj* (1-049)
一箱分の 白樺の箱で 満腹になる、
(38)*shapka***ǰɪ**, əŋunən, təččəjən. (1-061)
帽子で、 どうする、 かぶっている。
(39)əsi-gdə aawun**ǰɪ** təttən, (1-075)
今 その帽子を かぶる、
(40)*nu*, mɪnčuka**ǰɪ** ŋənəwčətin, toɣo daɣattɪxɪn, (5-129)
さあ、ミンチュカと 行かせた、 火の 側へ、
(41)noŋan tujgən**ǰi** dawdan, (1-041)
彼は 早く 渡るために (とばした)。
(42)bii taj ajakan**ǰɪ** əŋunmə, (5-083)
私は それを 良くしっかりと、それを、
(43)kətu-ə～ bələččə**ǰi**si. (s017)
ありがとう、おまえの助けてくれたことで。
(44)noŋan ee**ǰɪ**-da əsin ŋəələxəččə. (s024)
彼は 何にも 否定 恐れる。
(45)bii čuxətim, sinəwə ičəčəə**ǰi**j/ičəjgičəə**ǰi**j. (s149)
私は うれしい、あなたに 会えて。

1.2. 人称

一人称単数	-w/-m/-bi/-uu		除外的一人称複数 包括的一人称複数	-wun/-bun/-pun/-mun -t/-ti
二人称単数	-s		二人称複数	-sun
三人称単数	-nin		三人称複数	-tin
再帰単数	-ji/-bi/-pi/-mi		再帰複数	-waj/-baj/-paj/-maj/-ŋaj

以下には一人称単数 ((46))、二人称単数 ((47))、三人称単数 ((48))、再帰人称単数 ((49))、包括的一人称複数 ((50))、二人称複数 ((51))、三人称複数 ((52))、再帰人称複数 ((53)) の例をそれぞれあげておく。再帰人称は主語としては用いられず、格の無い、再帰人称のみがついた形は目的語として機能するものと考えられる ((49))。
(46)bii asi**w** bisin, (2-071)
私の 妻だ。
(47)mooŋɪ**s**, mooŋɪ**s**, xoŋnǰaw, (1-004)
おまえの木を、木を 切ってしまうぞ、
(48)omkɪkkan ɪlan xutə**nin**, (1-001)
モモンガと 三匹の その子供が、
(49)məənduj *shapka***j** ooča, (1-060)
自分に 帽子を 作った、
(50)taj amban bittə amɪmma**t** əninmə**t** ǰəpčə amban,'' (2-027)
あれは 魔物だ、私らの 父さんと 母さんを 食った 魔物だ、」と
(51)əjgənə**sun** ookta. (3-068)
お前たちの体を 作ろう。

(52)*nu* ǰəpkun**tin** əŋun. (4-006)
だが 彼らの食べ物は あれだ。
(53)sii *luchshe,* əŋunmə ǰəbdə**wəj** əŋunmə waaxal, (4-038)
お前は まだ、 何か 自分たちの食べ物となる 獣を何か、獲れ、

1.3. その他
1.3.1. 複数-l/-sal/-səl
-l と-sal/-səlの使い分けの条件は不明である（-sal/-səlは定動詞の人称には用いられない)。指小辞より後につくことが(54)の例からわかる。数詞と共起する ((56)) が、共起しなくともよい ((57)、なお共起している例はロシア語からの翻訳であるため、その影響が考えられる)。親族名称には「不規則な複数形」とされてきたものがあるが、これは等質なものの複数ではなく、いわば X and others という意味を示すものと考えられる ((58))。
(54)tadʊ ə～ ŋəələmu～ tadʊ bičə**l**, čɪwkakka～**l**, (1-069)
そこには ああ、恐ろしく（たくさん）そこには 暮らしていた、鳥たちが、
(55)əj bəjə**səl**du, taj bəjə**səl**-to *lezhat,* (3-069)
この 者たちに、その 者たちは 横たわっている、
(56)bii ičəččəw ɪlaan ətixəə**səl**bə. (s160)
私は 見た、 三人の おじいさんたちを。
(57)noŋan ičəččən ǰuul bəjə ŋənəjiwən. (s167)
彼は 見た、 二人の 人が 行くのを。
(58)noŋan bisin am**tɪl**jɪ. (s043)
彼は いる、父たちと。

1.3.2. 所有「～持ちの」-lkan/-lkən
疑問詞、数詞、形容詞などが-lkan/-lkənのつく名詞を修飾している場合、それらの要素は道具格をとる ((59), (60), (61))。外来語や疑問詞についた例も観察される ((62), (63))。指小辞や複数接辞の前につきうることが少なくとも(61), (62)の例からわかる。(64)の例では複数形にさらに接辞しているが、l が一つ落ちている。
(59)adɪ dɪlɪ**lkan**-ŋʊ, dɪlɪnɪn əgdi, ňuŋuňji dɪlɪ**lkan**, (2-041)
そいつは いくつ頭があるのだろうか、そいつの頭は 多い、六つの 頭を持っている、
(60)ǰuuǰi bəgdi**lkən**mə, koŋnɪjɪnǰɪ dɪl... ňuuktə**lkən**mə (3-003)
二本の 足を持つ者を、黒い 頭、 髪の毛を持っている者を
(61)eexʊn-da aačɪn taj, ǰuuǰi bəgdi**lkə**kəndu, (3-044)
何にも ない、あの、二本の 足を持っている奴には、
(62)taj ŋɪnaxɪnŋɪ *shuba***lka**sal *uzhe* geexʊktaja. (3-079)
その 犬たちが 毛皮を身に着けた者たちが もう 歩いている。
(63)nəxulkənmi-də əsin saaja, ee**lkan**mɪ-da əsin saaja. (4-029)
弟がいることを 知らない、 どんな兄弟がいるのかも 知らない。
(64)sii xujil**kən** bisis. (s164)
おまえは 子持ち なのか？

1.3.3. 共同「～と共に、～と一緒に」-lgalı/-čil
この形式の例は見出せなかった。

1.3.4. 比較「～のような」-gačın/-gəčin/-ŋačın/-ŋəčin/-ǰin
先行研究にならい、名詞の接辞の箇所でとりあげたが、小辞（付属語）と考えたい（現在その十分な根拠はまだ示せない）。先行研究の記述とは異なり、-ičinという形で現れることが多かった。これのついた句は形容詞的にも、副詞的にも働くことがわかる。
(65)bittə-**gəčin** dəŋsijən *chto li*, (2-021)
私たちのように 働いただろうか、
(66)eexun bittə-**ičin** əŋunmə *khleba* ǰəppə *chto li*, (4-055)
何が 私らと同じようにあるだろうか、あれを、 パンなんか 食べるだろうか、
(67)əj-**ičin** ooji əŋunmə uŋčəl. (5-009)
このような あれを 送った。
(68)bii tajŋın **əj-ičin** əŋunən (5-116)
私は その赤ん坊を このように こうした、

1.3.5. 選別形「～の方（は）」-nma/-nmə
名詞についた例は見出せなかった。
(69)mindukkəj sagdı**nma** bəjə, saajı bǐjəs～'' (4-033)
私より 年上ですから、（そのことを）知っている でしょう、

1.3.6. 指小-xaan/-xəən/-xkaan/-xkəən/-kkaan/-kkəən
小さいこと、少ないものを示すと考えられる。()では指大辞と対比的に用いられている。複数の接辞より前につくことが(70), (71), (72)からわかる。疑問詞や外来語、指示詞についた例も見出された（(71), (73), (74)）。--kkan/-kkənもしくは-kaxanという形式が見出されたが、先行研究の示す-xaan/-xəən/-xkaan/-xkəənのような異形態は見出されなかった。
(70)gə, bii sindu muu**kkə**lbə muuliktə-ji. (1-063)
さあ、オレが あんたに 水でも 運んで来ようか。
(71)tadu bičəl, čɪwka**kka**～l, eema**kka**l-da (1-069)
そこには 暮らしていた、鳥たちが、 いろんなのが
(72)ulə**kkəə**～lbən olo**kkaa**lban, aačın (2-007)
肉も、 魚も、 ない、
(73)əsi-gdə xɪŋkɪ**kkan**, *rjabchik***kan**, (3-016)
今 エゾヤマドリ、エゾヤマドリは、
(74)gə, taj**kaxa～n**ma baxajaan ǰəppən, (4-025)
さあ、そのそれを 見つけて 食べる、

1.3.7. 指大-xaaja/-xəəjə/-kaaja/-kəəjə/-ŋǰa/-ŋǰə
大きいものを示す。指大辞が用いられのは、1群の言語（特にソロン語をのぞくエウェン語、エウェンキー語、ネギダール語）の特徴であると考えられる。形容詞についた例も見出された（(77), (78)）。

(75)''eexun, sii əj dikkəənin, bii əj di**xəə**nin.'' (2-040)
「何、 おまえは そんなに 小さいのに、 オレは こんなに デカいんだぞ。」
(76)min bəgdi**xəə**w diɣin, *eshshjo daj* əŋu**xəə**w, əj əŋduŋə iktə**xəə**w, (3-042)
オレの 大きな足は 四本だし、さらに ほれ、これも、 この 大きな 歯も、
(77)bii toksačaw, əmugdə**xəə**w əgdu**ŋkəəjə**, (5-072)
私は 走った、 私のお腹も 大きかったのだけれど、
(78)mojm ijgin ŋonom**kaaja**. (s151)
馬の 尻尾は 長い。

1.3.8. aačɪn と呼応する要素 -la/-lə
aačɪnが述語になる時、それが支配する名詞は特に何の要素もとらず、aačɪnは後ろに来るが ((80))、別の語の修飾語句となる時にはaačɪnが前になり支配される名詞は-la/-ləを伴う ((79))。
(79)ədukkəj čaaskɪ aačɪn xəsə**lə** oǒjasun. (3-84)
これから この先 言葉は無く なるだろう、お前たちは。
(80)eexun əj, əmən-də inŋəktə aačɪn. (1-052)
何だ、これは、 一つも ウスミズザクラの実が ないわ。

1.3.9. 譲渡可能 -ŋi
(83)は再帰人称単数と、(84)は一人称単数との融合と考えられる。
(81)muu**ŋi**s bisini. (1-063)
水は あるか？
(82)tixəm-dixə～n bittə əŋun**ŋi**t, *nacinaet* əŋunən, *ustajot*, (2-045)
そうしてから 我らが あれ（少年）は、 どうなりはじめた、 疲れてきた、
(83)taj ŋɪnaxɪm**ŋɪ** *shuba*lkasal *uzhe* geexuktaja. (3-079)
その 犬たちが 毛皮を身に着けた者たちが もう 歩いている。
(84)''moo**ŋu** tibgudəj nixəjən,'' (1-016)
「私の木を 倒そうと するんです、」

1.3.10 ～のもの -ŋii
(85)min**ŋi** *eshshjo*, *ne surok.* (5-177)
私のは まだ、 その時期になってないわ。

1.3.11. ～の側 -gɪdaa
(86)bittə xəj**gidəə**dut amban buɣanɪn. (4-003)
我々の 下には 魔物の 世界だ。
(87)noŋanman ǰajačal, eečal-wu səktə xəj**gidəə**dun, (4-022)
彼女を 隠した、どうしたか、敷物の 下に、

1.3.12.1. 序数詞形成-i-tin/-i-nin/-i-wgim （ただし１はňooɣu、２はgeenma/geetɪn）
1.3.12.2. 集合数詞 -nii

1.3.12.3. 集合数詞形成（人を数える時）-ɪŋasal/-iŋəsəl
1.3.12.4. 集合数詞形成（野生のトナカイ、ヘラジカを数える時）-jagda/-ŋna
1.3.12.5. 分配数詞形成-tal/-təl
1.3.12.6. 日数数詞 -la/-lə
1.3.12.7. 回数数詞 -jaa
上記の諸数詞形成接辞については適当な例を見出せなかった。
1.3.12.8. 倍数（？）数詞形成-xan/-xən
(88)əj ǰolo ɪlaa**xan** əŋdəŋə tadukkɪ/taj ǰolodukkɪ. (s070)
この 石は 三倍 大きい、あれより／あの石より。

1.4. 指示代名詞
Cincius（1982）によれば、指示代名詞にはəjmalǰɪ/əjgiit, tajmalǰɪ/tajgɪɪtという離格の形があるというが、そのような形式は見出されなかった。ちなみにソロン語、エウェン語、エウェンキー語には離格があるが、1群にあってネギダール語だけには普通の名詞に離格がない。
疑問代名詞とともに、いわゆる相関構文を形成する。
(89)**nii** ətəji dəŋsi bəjə, **taj** atan ǰəppə. (s090)
誰か 否定 働く 者、 そいつは 否定 食べる

1.5. 人称代名詞
人称代名詞には属格がある。斜格語幹そのままの形が属格として用いられる。
(90)**sin** əŋusi, *rodnja*s əgdi. (1-030)
おまえの あれは、親類は 多いか？
(91)ičəs **min** *rodnja*w (1-031)
見えるか オレの 親類たちを、
(92)**min** *rodnja*w taj, taj **min**, *rodnja*salbɪ. (1-033)
オレの 親類だぞ、ほれ、ほれ オレの 親類たちだ。
(93)**min** ŋaalaj (4-063)
私の 手を、

1.6. 再帰代名詞
(94)は与格形、(95)は属格形、(96)の後者は対格形である。Kolesnikova i Konstantinova（1968）は限定（opredelitel'nyj）代名詞としてməən～məənəxənがあるとしているが、(96)の前者はその形と一致する。しかしこの用法をみる限りでは副詞的に働く再帰代名詞の一変化形とみなすべきもののようである。
(94)**məənduj** *shapka*j ooča, (1-060)
自分に 帽子を 作った、
(95)nɪjawɪ xutə, **məən** ǰooj ooxɪn-da əsin noodaja, (4-069)
男の 子供、自分の 家を いつだって 捨てることはない、
(96)*sama* **məənəxən məənmi** waaǰan. (3-023)
自分で、自分で 自らを 殺す。

1.7. 代理名詞・代理動詞 əŋun

Cincius（1982）、Kolesnikova i Konstantinova（1968）のいずれにも明確な記述が無い。この語幹は名詞にも動詞にも用いられ、名詞や動詞と同様の接辞をとる。意味はなく、話者が問題の単語を思い出せない時にその位置を埋めるために用いられる。問題の語を思い出せばəŋunの後にすぐ続けることも多い。ウデヘ語及びオロチ語であれば aŋi、ナーナイ語であれば xai が同様の目的で用いられる。ウデヘ語及びオロチ語の形式はこのネギダール語のəŋunと語源的にも関連のあるものかもしれない。対してナーナイ語の xai は疑問詞「何」と同形である。

(97)taj-a **əŋun**mən *shkura*wan **əŋun**čə, *sushil*, (1-060)
それから そいつを、 毛皮を ああした、乾かした、

1.8. 存在の否定 aačɪn

(98)əmən-də inŋəktə **aačɪn**. (1-052)
一つも ウスミズザクラの実が ないわ。

1.9. 擬音語擬態語

ウデヘ語やナーナイ語に比べて擬音語擬態語の使用は少ないように感じられる。

(99)gəə, taj aawʊnǰɪ xuliptixən **čop** (1-067)
さあ、その 帽子で 歩き回るのだが、すっかり姿を消した、

(100)*rjabchik* čičiəduəni **saʊ**～-da. (3-016)
エゾヤマドリは 騒いでいる、うるさく。

2.0. 動詞につく接辞（派生接辞−屈折接辞の順序をとる、屈折接辞は必須）

2.1. 屈折接辞

2.1.1. 形動詞

2.1.1.1. 現在-ji/-Ci

形動詞現在には形容詞的用法（(101)）、名詞的用法（(102), (103)）、述語的用法（(104), (105)）がある。助動詞的に用いられた bi-「ある、いる」の補語になっている例（(106)）も、名詞的用法の一種とみなせるだろう。処格や与格をとって時間的な状況を示す節を作ることはすでに述べた（(107), (108), (109)）。否定動詞や存在動詞兼コピュラの bi-などでは現在形動詞形に-si が用いられる（(110)）。

(101)gəə, tajjačɪn oo**jɪ** *shuba*wasʊn buuktə. (3-067)
さあ、そんな風に 作って、そういう毛皮をお前たちに やろう。

(102)noŋanman saajan, iidu-də bi**si**wən, (5-007)
彼のことを 知った、どこに 彼が住んでいるかを、

(103)bii xujənduli geelɪktɪ**jɪ**wa ajawʊ. (s091)
私は 森の中を 歩き回ることを 好む。

(104)əmŋun daaptʊlɪn ŋənə**jɪ**wun. əsi-gdə xalɪmɪttɪxɪ ɪssɪwʊn, (5-190)
アムグン河の 河口の所から 行く。 今 カリマ村に 着いて、

(105)noŋan ooxin-da ŋaalaj ŋunŋuj sɪlkɪ**jɪ**. (s153)
彼は いつも 自分の手を きれいに 洗う。

(106)''mindukkəj sagdınma bəjə, saa**ji** bĭjəs〜'' (4-033)
「私より 年上ですから、 (そのことを) 知っている でしょう、」
(107)bĭjəmdi〜n saača, saača, əmukčən bĭjə**jĭ**ləj, (2-005)
暮らしていて、 知った、知った、一人で 暮らしている時に、
(108)taıŋı waaja〜n, ǰəbǰə**jĭ**dun, (2-019)
そのヘラジカを 獲った、 それが草を食べている間に。
(109)taj ŋənə**jĭ**duj gunčə (3-013)
それは 去る時に 言った、
(110)tajwa ə**s**in saaja, (4-028)
そのことを 知らない、

2.1.1.2. 過去-ča/-čə

形容詞的用法 ((111))、名詞的用法 ((112), (113), (114))、述語的用法 ((115)) をあげておく ((114)を名詞的用法とみるのには問題があるかもしれない)。述語的用法の場合、定動詞の形と区別がつかない。述語の位置にたつ -ča/-čə の人称は、名詞につく方の人称のシリーズのみであり、唯一三人称の単数と複数に定動詞と形動詞述語用法の対立がある。すなわち三人称単数定動詞形は V-ča/-čə-ɨに対し三人称単数形動詞形は V-ča/-čə-nとなり、三人称複数定動詞形は V-ča/-čə-l に対し三人称複数形動詞形は V-ča/-čə-tin となる。テキストにはどちらの形も現れているが、どのような使い分けになっているのかは明らかでない。Kolesnikova i Konstantinova (1968) はこの違いに注意を払っていないようだ。Cincius (1982) は次のようなパラダイムの中にこの対立を位置づけている。

	過去時制		過去完了 (過去結果相)	
	単数	複数	単数	複数
一人称 除外	V-ča/-čə-w	V-ča/-čə-wun	V-ča/-čə bisim	V-ča/-čə-l bisiwun
包括		V-ča/-čə-t		V-ča/-čə-l bisip
二人称	V-ča/-čə-s	V-ča/-čə-sun	V-ča/-čə bisis	V-ča/-čə-l bisisun
三人称	**V-ča/-čə-n**	**V-ča/-čə-tin**	**V-ča/-čə**	**V-ča/-čə-l**

(111)taj amban bittə amınmat əninmət ǰəp**čə** amban,'' (2-027)
あれは 魔物だ、私らの 父さんと 母さんを 食った 魔物だ、」と
(112)eewa-da čopal buu ičəč**čə**wun *muzej*du əənim səbǰənigdi bičən. (s155)
何でも みな、私たちが 見たものは、博物館で、とても おもしろ かった。
(113)əj ii**čə** bəjə ǰootkı, noŋan axınm. (s170)
この 入った 人は、家へ、 彼の 兄さんだ。
(114)sii bitəxəwəs baxača, baxa**ča**wun, (5-056)
あなたの 手紙を 受け取った、受け取ったのを、
(115)bii məjgə**čə**w,'' gunčə, (3-041)
オレは 思った、」と 言った、

2.1.1.3. 未来-ja/-jə

未来定動詞（直説法未来）に関して、Cincius（1982）と Kolesnikova i Konstantinova（1968）の記述は食い違っており、Cincius（1982）は名詞型の人称のついたパラダイムのみを、Kolesnikova i Konstantinova（1968）は定動詞型と名詞型の人称の混在したパラダイムのみをあげている（下記の表の太字部分、すなわち一人称単数形及び一人称複数包括形に両者の違いははっきりと現れる）。

	Cincius（1982）		Kolesnikova i Konstantinova（1968）	
	単数		複数	
一人称　除外	V-ǰa(ŋaa)-**w**	V-ǰa(ŋaa)-wun	V-ǰa-**m**	V-ǰa-wun
包括		V-ǰa(ŋaa)-**t**		V-ǰa-**p**
二人称	V-ǰa(ŋaa)-s	V-ǰa(ŋaa)-sun	V-ǰa-s	V-ǰa-sun
三人称	V-ǰa(ŋaa)-n	V-ǰa(ŋaa)-tin	V-ǰa-n	V-ǰa-tin

実際にテキストを調べてみると両方の形があることがわかる。すなわち一人称単数に関して、(116), (117)は Cincius（1982）の示した形に、(118), (119)は Kolesnikova i Konstantinova（1968）の示した形になっている。同様に一人称複数包括形について、(120)は Cincius（1982）の示した形に、(121), (122)は Kolesnikova i Konstantinova（1968）の示した形になっている。これらのうち(116)のみは名詞的な用法で、形動詞とみて間違いない。他は述語的な用法である。さらに他の人称の述語的な用法の例をあげておく（(123), (124)）。

(116)bii-də　ǰəb**ǰəə**w　aačın ooča.　(4-041)
　あたしも 自分の食べ物が 無く　なったのよ、
(117)oon-mal　əŋunmi　ŋənə**ǰə**w-e～ sinətki,　(5-002)
　何とかして　そうなれば 私は行く、　あなたの所へ、
(118)oon　nixə**ǰə**m　(2-008)
　どう　したらよいのだろう、
(119)*mozhet*　bolotkı　bi**ǰə**m-ŋu　eeǰam-ŋu　(5-022)
　ひょっとすると 秋まで　私は生きているか どうか、
(120)*akha*, ''badın, badın　čaalan　ŋənə**ǰə**t.''　(5-124)
　そう、「夜明け、夜明けが来たら あっちへ 行こう。」
(121)eewa ǰəb**ǰə**p　(2-016)
　何を 私たちは食べよう、
(122)atap ŋənəjə,　tımannan ŋəni**ǰə**p,　(5-183)
　我々は行かない、明日　帰ろう、
(123)''*akha*, *nu ladno*,　siksənnə　əmə**ǰə**wun.''　(5-181)
　「そう、まあよい、　夕方　また来ます。」
(124)bəjə amunman ǰəb**ǰə**sun.　(3-085)
　人の 大便を　食べるようになるだろう。

2.1.1.4. 被動 -pla/-plə

Cincius（1982）はこれを遠過去の被動形動詞であるとしている。

(125)əj　ŋıjıı**pla**　loočapkı/loočadapkı.　(s129)
　これは 書いてある、ロシア語で。

2.1.1.5. 習慣 -wkii

(126)taj *kassetat*ɪxɪ ŋɪjɪjdan. čopal oon bičə**wki**, (5-010)
その カセットに 録音するようにと。全て、どのように 彼女が暮らしたかを、

2.1.1.6. 近接過去 -makta

2.1.1.7. 可能 -ŋaat

テキスト中には例を見出せなかった。以下でも、例のあがっていない項目はテキスト中に例が見出せなかった要素である。

2.2. 定動詞

2.2.1.1. 直説法現在

母音語幹につく場合は-ja/-jə/-joだが（(127)）、一人称単数及び二人称単数ではゼロ形式となる（(128), (129)）。三人称複数で人称がゼロ形式である例もあげておく（(130)）。n以外の子音に終わる語幹ではjが語幹末子音に同化するものと考えられる（(131), (132)、ただしまだ全ての子音での同化が確かめられたわけではない）。子音nに終わる動詞では-a/-ə/-oとなる。これは1・2群に起きた -nd- > -n- の変化の結果である（(133), (134)）。Kolesnikova i Konstantinova（1968）はbi-「いる、ある」, 否定動詞ə-, V-mu（2.7.3.参照）では-siとなる、としている（これは形動詞形とみるべきものではないだろうか、ただ(172)の否定動詞はbisiという形式とともに現れている）。さらに、ga-, bu-, oo-では-da/-dəとなる（(135)）。

定動詞の人称

定動詞（直説法）の人称

一人称単数	-m	除外的一人称複数 包括的一人称複数	-wun -p
二人称単数	-s	二人称複数	-sun
三人称単数	-n/-ゼロ	三人称複数	-tin/-l/-ゼロ（現在で）

(127)əmugdəxən əj-dixən xugləjən. (1-055)
その腹が こんなにでかいのが 寝ている。

(128)bii *petja*wa saam, (5-060)
私は ペーチャを 知っているよ、

(129)''omkɪ-ə〜 eedu soŋos.'' (1-014)
「モモンガよ、 なんで 泣いているんだ。」

(130)xujil nadan aŋŋanidukkaj ŋənəsinə-ゼロ *shkola*tkɪ. (s072)
子供たちは七 年前から 通いだした、学校へ。

(131)əmən xutəj ǰolodojon, tajwa ǰəppən, (1-009)
一匹の 子供を 投げた、 それを 食った。

(132)gəə əsi-gda talɪ, dawwan, dawwan, (1-036)
さあ今 そこを通って、渡る、 渡る、

(133)kooma gunən, (1-038)
アザラシが 言う、
(134)tətiwkənən. (1-066)
かぶらせた。
(135)ǰəbǰəxin aačm oodan, (4-027)
食べ物は なく なった、

2.2.1.2. 直説法過去-ča/-čə
(136)əsi-gdə solaxɪ əməčə -ゼロ. (1-002)
今 キツネが やって来た。
(137)bii əčəw ələjə. (1-010)
オレは まだ足りない。
(138)tadʊ ə～ ŋəələmu～ tadʊ bičəl, čɪwkakka～l, (1-069)
そこには ああ、恐ろしく（たくさん）そこには 暮らしていた、鳥たちが、
(139)noŋan čojgalačа-ゼロ dɪlwʊ. (s071)
彼は 拳骨で殴った、 私の頭を。
(140)iidu bittə baxanmaččap. (s054)
どこで 私たちは 会おうか？
(141)noŋatil məən xutəwəj gilbičəl ivanǰɪ. (s101)
彼らは 自分たちの 子供を 名づけた、イワンと。
(142)adɪɪ bəjə əməčəl/əməčətin tala. (s137)
幾 人 来たか、 そこに。

2.2.1.3. 直説法未来-ǰa/-ǰə/-ča/-čə
bǰənは「推量」の形式として文法化しているため、(145)のように-ǰa/-ǰəが連続して現れることもある。
(143)əj aja-da saman bǰən-i. (1-073)
こいつは 良い シャーマン だろう。
(144)eewa ǰəbǰəp (2-016)
何を 私たちは食べよう、
(145)tigdəlǰə-ゼロ bǰən. (s049)
雨が降る だろう。

2.2.2.1.1. 命令法近未来単数-xal/-xəl/-kal/-kəl
母音終わりの語幹で-xal/-xəl、子音終わりの語幹で-kal/-kəlとなる。否定動詞では多くのツングース諸語にみられるəǰiという形式にならず、əxəlとなる（(150)）。
(146) xutəj buuxəl, (1-003)
（おまえの）自分の子を くれ、
(147)məən *rodnjaj* ičəwkəxəl. (1-034)
自分の 親類を 見せろ。

(148)taŋ**kal**, (1-038)
数えろ、
(149) ''gə, bələtmi bələt**kəl**-kə,'' (1-064)
「ああ、手伝うなら 手伝っておくれ、」
(150)ə**xəl** tawɪjaja, ə**xəl** tawɪjaja, (2-026)
触るな、 手を出すな、

2.2.2.1.2. 命令法近未来複数-xa-sun/-xə-sun/-xan/-xən

2.2.2.2.1. 命令法遠未来単数-da-j/-də-j
これは「2.5.9. 目的副動詞」の再帰人称形と同じものであると筆者は考えたい（単複とも）。(153)のように再帰人称以外の人称をとった形も現れる。しかしこうみなした場合、副動詞で唯一文の述語となれるということになる。(153)にみられるように否定動詞にもつく。
(151)noŋanman əxəl waaja, *prjamo* ojolan təə**dəj**, ǰuul seendun ǰawa**daj**,
イノシシを 殺すな、 まっすぐ 上に 座って、 二つの 耳を つかんで、
*kruch***daj**, (3-025)
ねじるようにせよ、
(152)əninduj buu**dəj** əjwə. (s062)
おまえの母さんに あげてくれ、これを。
(153)*doktor* gunčən, bii saŋǐanma ə**dəw** umma. (s157)
医者は 言った、私が タバコを 否定 喫む。

2.2.2.2.2. 命令法遠未来複数-da-waj/-də-wəj
(154)čopal toksan**dawaj**,'' (3-004)
とにかく 逃げることにせよ、
(155)suu-də munətki nimə**jdəwəj**. (s063)
おまえたちも 私たちの所へ お客に来てくれ。

2.2.2.3.1. 一人称命令単数-kta/-ktə
ナーナイ語の一人称単数命令形 -gi-ta と同語源のものか。以下にみる一人称複数、及び三人称の単数及び複数の命令形は -ŋi という要素と人称からなっており、この一人称単数命令だけが異なった構成になっている。したがってこれだけは別の体系に属する要素としたほうがよいのではないだろうか。

(156)gə, bii sindu muukkəlbə muuli**ktə**-ji. mookkalba rwa**kta**-jɪ. (1-063)
さあ、オレが あんたに 水でも 運んで来ようか。薪でも 伐って割って来ようか、
(157)ŋənə**ktə** bii. (2-008)
行こう、オレは。
(158)gəə bii sinəwə ŋənəwu**ktə**, (5-087)
さあ 私は お前を 運んで行くよ、

(159)''bii ŋənə**ktə**, *nemnozhko* əŋu**ktə**, sılkıkta-da taj əŋunmə, (5-162)
「私は 行きたい、ちょっと ああしたい、洗いたい、その あれ（赤ん坊）を、

2.2.2.3.2. 一人称命令複数-ŋi-wun/-ŋaj/-ŋəj
(160)gəə, miŋ̌ji ŋənə**ŋəj**. (s162)
さあ、 私と 行こう。

2.2.2.3.3. 三人称命令単数-ŋi-n
(161)''əmə**ŋin** məənəxən, əmə**ŋin** məənəxən.'' (4-077)
「来ればいいんだ、自分で、 来ればいいんだ、自分で。」
(162)gəə, əməŋin noŋan. (s110)
さあ、来させよう、 彼に。

2.2.2.3.4. 三人称命令複数-ŋi-tin
(163)əmən *pokolenie*wa *puskaj* bi**ŋitin**, (3-072)
一つの 世代が いるとしよう、
(164)eedukkaj-wu, əməŋitin, əmə**ŋitin**, uwu buɣadukkaj. (4-018)
どこかから、 来させる、来させる、 上の 世界から。

2.2.3.1. 警告法単数-ǰəkkə-s/-čəkkə-s
2.2.3.2. 警告法複数-ǰəkkə-sun/-čəkkə-sun
一、三人称では-ǰa＋人称-məl

2.2.4. 勧誘法-maja/-məjə
採集されたテキストにみられたこの形式は-maja/-məjəではなく、-ma/-məとみるべき形式であった。
(165)''ŋənəw**mə**, taktıntıxı ŋənəw**mə**.'' (5-110)
「連れて行こう、タフタ村へ、連れて行こう、」と。
(165)gəə, xajwı**ma** bajgıskı. (s121)
さあ、泳ごう、 向こう岸へ。
(166)gəə, ŋənə**məə** miŋ̌ji. (s162)
さあ、行こう 私と。

2.2.5. 反実仮想法-mča/-mčə
(167)''tajkaxaanma-da waajaa～n-da əməwgi**mčə**s (2-016)
「ほうれそれを 獲ってから 持って来ればよかったのに、
(168)*khleba* bisixin, *koneshno* ǰəpu**mčə**l, (4-057)
パンが あったならば、もちろん 食べたことだったろうよ、

2.2.6. 推量法-naa/-nəə/-noo［＋人称＋-dixə/-čixə］

2.3. bi-の助動詞的用法

Cincius（1982）はbi-が一般動詞の形動詞とともに助動詞的に用いられて、過去完了や遠過去完了のような複合時制を示すとしている。(169)そのような例と考えられる。(170)及び(171)の bǐjən は推量のムードの形式となっているものと考えられよう。

(169)gəlbənin omŋoča **bisim** (2-002)
名前は 忘れて しまった、

(170)amɪnman, əninmən ǰəpčəl **bǐjən**, amba, (2-004)
父親も 母親も、 食べてしまったん だろう、 魔物が、

(171)noŋan saača **bǐjən**. (5-005)
彼女（エンマ）は 知ったの だろう、

2.4. 否定動詞

2.4.1. 一般的禁止 ə-ti V-w-wa/-w-wə

2.4.2. 否定動詞現在

否定動詞と否定される動詞の間には別の要素が入り得る（(172), (178)）。

(172)bii **əsim** asatkan bi**si**. (4-066)
私は 娘ではない。

(173)*i* **əsitin** iiwkən**ə**, taj doottɪxɪn, (5-173)
入れてくれなかった、その 中へ、

2.4.3. 否定動詞過去

「まだ～していなかった」という意の否定ではə-ǰələ-人称（もしくはə-ǰəli-人称）、という形式が用いられるようだ（(176), (177)）。

(174)noŋan **əčə** ŋɪjɪja *kassetad*ʊ, sajɪnan. (5-039)
彼女は それ以上 書かなかった、カセットに、恥ずかしがった。

(175)**əčə**-də ǰəp**pə**, ilə ŋənəčən, (5-194)
まだ 食べてもいないのに、どこへ 行った。

(176)**əǰələj**-də əŋun**ə**, **əǰələj**-də *vitka* **əǰəlin**-də bu**də**,
まだ、 あれだ、まだ、 ヴィーティカは まだ死んでいなかった、

(177)bii geelɪktučaw, noŋan **əǰəli**n əmə**jə**. (s122)
私は 歩き回っていた、彼が 否定 来る。

2.4.4. 否定動詞未来 ə-tə-/a-ta-人称

未来では否定動詞の語幹は ə- ではなく、a- と聞こえる。ウデヘ語でも同様な事実があるが、その理由は不明である。

(178)**atam** buu**jə**～. (1-004)
私はやらないよ

(179)**atap** əinəŋdu ŋənə**jə**, (5-183)
今日は行かないことにしよう、

2.4.5. 否定動詞の副動詞形

否定動詞の副動詞形（2.5.1. の同時副動詞-naxan/-nəxən）も観察された。

(180)**anaxan** ičəčča oon ŋənipu. (5-183)
彼女を見ずに どうして 行けようか、

2.5. 副動詞

2.5.1. 同時副動詞-naxan/-nəxən

ウデヘ語にやはり同様の機能で用いられる-naa/-nəə が、エウェン語に-nʉkan/-nʉkənがあるが、これと同源のものであろう。日本語の「～ながら」に似て、同時の意と逆接の意がある（「新聞を読みながらごはんを食べた」「自分で書いておきながら読めない」）

(181) ''solaxɪ, xuilbə čopal ǰawa**naxan** ǰəppən.'' (1-014)
「キツネが、子供たちを すっかり 奪って 食べてしまうんです、」

(182)əənim ənuu**nəxən** bisin. (5-038)
ひどく 病んで いるのだ。

(183)naxatʊkan bi**nəxən**, *institut*la əŋunən, *pastupa*jan, (5-043)
小さいけれども、 インスティトゥートに 進学した、

(184)məən ənun**nəxən**, dəŋsičən. (s106)
自分が 病気であるにもかかわらず、彼は働いた。

(185) *oj* bii saača bi**nəxən** məənəxən əŋunčəw, (5-151)
ああ 私は わかって いたならば、 自分で やったのだけれど、

(186)a**naxan** ičəččə oon ŋənipu. (5-183)
彼女を見ずに どうして 行けようか、

2.5.2. 先行副動詞-jaan

順行同化により、直説法現在と同様の異形態を示す。

(187)taj aawʊnma tət**təən** toksanča. (1-067)
その 帽子を かぶって 逃げた。

(188) gə, tajkaxa～nma baxa**jaan** ǰəppən, (4-025)
さあ、そのそれを 見つけて 食べる、

(189)a～ ǰəp**pəə～n** aapʊxaččan. (4-058)
さあ、 食べてから 横になった。

(190)sɪlkɪ**jaan**, *tanja* orʊbaxaǰɪn təččəw, (5-169)
体を洗ってから、 ターニャの 外套を 着た、

(191)noŋan bitəxəwən taŋ**ŋaan** alɪlča. (s132)
彼は 手紙を 読んで 怒った。

2.5.3. 長時間副動詞-mdin/-mdɪxan/-mdixən

(192)bǐjə**mdi～n** saača, (2-005)
暮らしていて、 知った、

(193)tii bi**mdixə～n**, ňaan-daxan tii dooldɪjan, (4-071)
そうして 暮らしていたが、また そうして 聞いた、

2.5.4. 条件副動詞-mi

(196)はomɪ 全体が形動詞形をうけて条件副動詞のように機能している。動詞の条件副動詞形とoomiが同時に使われている例もあった（(198)）。(200)は否定動詞と共に使われている。

(194) ''gə, bələt**mi** bələtkəl-kə,'' (1-064)
「ああ、手伝うなら 手伝っておくれ、」

(195)əsi-gdə atɪjakan tajwa čuxət**imi**, (1-081)
今 おばあさんは これを 喜んで、

(196)asɪ bəjəwə waa**mɪ** ǎjaawɪ.'' (2-071)
女性を 殺すことは タブーだ。

(197) əčə dooldɪja o**mɪ**-da xəmə bixəl-tə. (3-019)
もし聞いていなかったの なら、 黙って いろ、

(198)noŋan əməǰən, ə**mi** oo**mɪ**. (s078)
彼は 来るだろう、 来ると なったら。

(199)ə**mi** bii sinətki čopal tajwa ulgučəňǰəw. (5-019)
あなたが来たら、私（エンマ）は あなたに すっかり それを 話しましょう

(200) ǰalʊpčan, a～ ə**mi** budə-xə. (3-071)
（地上が）いっぱいになってしまう、（何者も）死ななかったならば。

2.5.5. 限界副動詞「～するまで」-dalaa/-dələə＋人称

2.5.6. 先行副動詞（処格による）-ča-la＋人称

これは機能的には副動詞的だが、形動詞の名詞的用法の一つとみるべきだろう。それについては 1.1.4., 1.1.6., 2.1.1.1.でもすでに触れた。したがって過去形動詞によるものだけでなく、現在形動詞によるもの（(202)）、処格によらずに与格や奪格によるものもある（(203), (204), (205), (206)）。

(201)noŋanman noodačan, noodamač**čalaj**, (5-013)
彼のことを 捨てて、 互いに別れた時に、

(202)bǐǰəmdi～n saača, saača, əmukčən bǐǰə**jilə̆j**, (2-005)
暮らしていて、 知った、知った、一人で 暮らしている時に、

(203)taɪŋɪ waaja～n, ǰəbǐǰə**jidun**, (2-019)
そのヘラジカを 獲った、 それが草を食べている間に。

(204)taj ŋənə**jiduj** gunčə (3-013)
それは 去る時に 言った、

(205)təɣəčiktə**jidun**-e～ əmən koŋaxan, əŋun... ŋənəčən, noŋantɪxɪn, (4-030)
座っているときに、 一人の 少年が、 あれだ、行った、 彼女の方へ、

(206)taj bitəxəwə baxal**čadukkaj** omulča (5-056)
その 手紙を もらって以来、 酒を飲み始めた、

2.5.7. 先行副動詞（遠過去）-ŋasa/-ŋəsə＋人称

2.5.8. 条件副動詞「～すれば」-jik/-jixi/-čak/-čaxɪ/-sixi/-dixi＋人称

-jixiのjは、定動詞直説法現在形などと同様に、動詞語幹末の子音に順行同化してさまざまな異形態をとるようである（(209), (210)）。-čak/-čaxɪという異形態は見出されなかった。他方否定動詞には（またおそらく存在動詞 bi-にも）には-sixiが、oo-「なる、作る」には -dixi がつくことがわかった（211), (212)）。

(207)sii tala ŋənə**jixi**s aja. (s138)
おまえは そこへ 行ったら よい。

(208)eewa-da gun**ixi**sun, bii čopal oǒjaw. (s136)
何でも あなたが言ったなら、私は それを全て やるでしょう。

(209)tiiski aasɪn**nɪxɪ**n bəgdij-də ŋaalaj əsin ɪssa. (2-024)
それは 横になってみたら その自分の足も 自分の手も 届かないくらい広かった。

(210)tigdəl**lixi**n buu močʊjgǐjawʊn. (s076)
雨が降り出したら、 私たちは 戻ろう。

(211)ə**sixi**s buujə, mooŋis, xoŋnǐjaw, (1-004)
おまえがくれないなら、おまえの木を、切ってしまうぞ、

(212)koŋnɪjɪnǰɪ dɪl... ǐuuktəlkənmə ičəmi oo**dɪxɪ**n (3-003)
黒い 頭、 髪の毛を持っている者を 見たらば、

2.5.9. 目的副動詞「～するため」-daa/-dəə＋人称

2.2.2.2.1. 命令法遠未来単数との関連についてはすでにその節で触れた。人称をとる副動詞であるが、主節の主語と従属節の主語は同一である例が多いようだ。(215)の人称は1人称に、(216)のそれは再帰人称になりそうなものだが、このような人称で現れている。nixə-「する」とともに用いられて、ロシア語のнадо＋動詞、хотеть＋動詞の訳にも用いられる（(220), (221)）。

(213)''mooŋʊ tibgu**dəj** nixəjən,'' (1-016)
「我らの木を 倒そうと するんです、」

(214) bii mʊjɪntɪxɪ təə**dən** bələččəw. (s093)
私は 馬へ 座れるよう 手伝った。

(215)əj aja buwa dəjimkit**təj**. (s095)
これは 良い 場所だ、休むのに。

(216)noŋan tujgənǰi daw**dan**, (1-041)
彼は 早く 渡るために（とばした）。

(217)noŋandʊn ləbgədəj *nado*, ǰəb**dəj**, ŋənəjən, (1-046)
彼には 食うことが 必要だ、食べようと、行く、

(218)*ona* məən bisij taj *kassetat*ɪxɪ ŋɪjɪj**dan**. (5-010)
彼女が 自分の 人生を その カセットに 録音するようにと。

(219)lapčalba tii nəəjiwun, xutəwən əxil**dəj**, (5-132)
布を そうして 掛けて乾かした、子供を くるむために、

(220)bii ga**daj** ǐixəm klippə. (s005)
私は 得ようと する パン。

(221)bii sinǰi ulgučən**dəj** nixəm. (s029)
私は おまえと 話そうと する。

2.5.10 限界副動詞 -knan/-knan-maj（非人称）

2.5.11 同時副動詞２ -anǰi/-ənǰi
以下にみるような副動詞とみるべき要素の例が見出された。ここでは仮に「同時副動詞２」と名づけておく。
(222)xuɣlə**ənǰi** əčə baldɪwwa. (5-070)
横になっていて 生まれなかったから。
(223)*a* ujkədu ǰawa**anǰɪ** baldɪwčan. (5-071)
戸に つかまって 産んだ。

2.6. 派生接辞
2.6.1. ヴォイス
2.6.1.1. 使役態 -wkaan/-wkəən
(225)にみるように、被使役主は対格をとって現れる。したがって他動詞の使役文では二重対格が生じるものと考えられる。
(224) ijgi, ičə**wkəč**čən, (1-006)
尻尾を 見せた、
(225)sinəwə gənnə**wkən**ən, (4-064)
おまえを 取りに行かせて戻って来させる、
(226)bəjəj əsin ičə**wkən**ə, (4-072)
自分の姿は 見せない、

2.6.1.2. 相互態 -mat/-mət
(227)noŋanman noodačan, nooda**mač**čalaj, (5-013)
彼のことを 捨てて、 互いに別れた時に、
(228)iidu bittə baxan**mač**čap. (s054)
どこで 私たちは 会おうか？

2.6.1.3. 受動態 -w/-mu
以下にみるように、受動態というよりも中動・再帰態と呼ぶべきような用例しかテキストには現れなかった。したがって次にみる中動・再帰態との関係が問題となる。(231), (238)にみるように、同じ文脈で言い換えた例が見出された。したがって両者はきわめて近い意味を持っていると考えられる。否定もしくは三人称単数の例がもっぱら観察され、むしろ非人称語幹形成とでも呼ぶべき機能を示している。(237)のように、その動作一般を示す用法がある。自動詞や無意志動詞にもつく（(236)）。
(229)eexun-da əsin ičə**w**wə, (2-010)
何も 見あたらない、
(230)atan mana**w**wa, (3-064)
尽きることのない、

(231)čopal manapča, manaẅwan, (4-026)
すっかり 尽きてしまった、無くなった、
(232)tixəm-dixən səktə xəjgidəəlin doolduẅwan, dooldıča, (4-058)
それから 布団の 下から 聞こえる、 聞いた、
(233)xuɣləənǰi əčə baldıẅwa. (5-070)
横になっていて 生まれなかったから。
(234)oon miinəẅwi čoŋojowa. (5-076)
どうやって 切るかを、 へその緒を。
(235)tuuj abdaxanǰı dasıẅča. (s092)
地面が 葉っぱで 覆われた。
(236)tuuj bičən ımanaẅča. (s123)
大地は そのようだった、雪に降られていた。
(237)xutəkkəən otıllan ǰaantıxı taŋıẅwıwa. (s139)
その子供は できるようになりだした、十まで 数えることが。

2.6.1.4. 中動・再帰態 -p
(238)čopal manapča, manawwan, (4-026)
すっかり 尽きてしまった、無くなった、
(239)*a* tigdə, gŭǰəj čopal olappan, (5-114)
だが 雨で、 かわいそうに すっかり 濡れてしまった、

2.6.1.5. 共同態 -ǰii

2.6.2. アスペクト
2.6.2.1. 継続動作体-č/-či/-t
(246)と(247)では動詞語幹も後続の接尾辞も同じであるのに別の異形態が現れている。その理由は不明である。
(240)ujkə niičičən. (s159)
戸が 開いていた。
(241)bii dıltıxın xulmi ičəčimi～ təə～ talı (2-014)
私が 頭の向いた方へ 歩き回ると、見ていると、ほうら 向こうには
(242)taj amban, nəkčičən əmən *devka* (2-049)
その 魔物は、監禁していた、一人の 女の子を、
(243)doočɪjan, (3-016)
木にとまっていた、
(244)tiixəm-dixən əmnə təɣəččən, (4-046)
それから ある時、座っていた、
(245) ılıččan taj ǰawačɪjan (5-073)
立っていた、 あれに つかまっている、
(246)''ǰawatkal,'' (5-082)
「へその緒を握っていろ、」

(247)''ǰawa**čɪ**xal əxəl tikkə,'' (5-085)
「つかんでいろ、倒れるな、」と、

2.6.2.2. 多回体-kta/-ktə
(248), (249)の例は移動動詞についた例で、多回というより、多方向の意で機能している。
(248)talı～ geexʊ**kta**jan, geexʊ**kta**jan, (2-009)
そこを 歩きまわった、たくさん歩いた、
(249)ujguli bimi xukti**ktə**jən, xukti**ktə**jən (3-035)
イノシシが 走り回る、 走り回る、
(250)bʊɣala～-da təɣəči**ktə**jən, (4-023)
外に 座っている、

2.6.2.3. 開始体-l
2.6.2.6.の瞬間体も動作の開始を示しているようだ。両者のどちらかをとるかは動詞語幹によって決まっているの可能性がある。
(251) ňamka**l**lan. (1-071)
シャーマンをし始めた。
(252)əsi *nachinajut* kusi**l**čə, kusijə, kusijə, kusijə, kusijə, (2-044)
今 戦い始めた、 戦う、 戦う、 戦う、 戦う、
(253)bittə bəjəŋit ugdəxələ**l**lən. (2-052)
我ら 人間の仲間が 弱ってきている。
(254)alı**l**lan alı**l**lan, (3-082)
天は怒った、怒った、
(255)omʊ**l**ča (5-057)
酒を飲み始めた、
(256)ənu**l**čən. (5-069)
病気になったんだ、

2.6.2.4. 長時間体-s/-si
2.6.2.5. 反動・反復体-jgi/-gi
動作の繰り返しや、逆方向への動作を示す。i 及び n に終わる動詞語幹では-giとなる。ヘジェ語にみられる-rgiという形と、ナーナイ語にみられる-go/-guという形から、この接辞の祖形に*-rguを仮定することができよう。
(257)ňaan əmə**jgi**ǰən, xəmə～ bixəl.'' (1-019)
また 来たら、 静かに していろ。
(258)əsi-gdə, taj koomaxa ii**gi**čə, juu**jgi**jən (1-034)
今、 その アザラシは 再び水に入った、再び出てくる、
(259)ǰəppən aasɪŋ**gɪ**jan, (2-020)
食べた、 再び横になった、
(260)ňaan-daxan kusili**gi**jə, (2-064)
再び 戦い始めた、

(261)xə～j buu**jgi**xə～l, (2-075)
ああ、返してくれ、

2.6.2.6. 瞬間体-sin
ナーナイ語の-psinと対応するものと考えられる。
(262)əsi-gdə ŋənə**sin**čə, (1-045)
今 やっとそこで行き始めた、
(263)tadʊ aa**sɪn**ča, (1-051)
そこで 眠り込んだ、
(264) *nu i* tes čuxəti**sin**čə, (5-034)
さあ そして ひどく 喜んだ、
(265) *i* miinə**sin**čəw. (5-081)
それから 切り始めた。
(266)baǰɪk-a, ŋənəw**sin**čəwun, daw**sɪn**awʊn, (5-135)
朝だ、 運び始めた、 渡る、
(267)ogda əjə**sin**ən əjəpki. (s045)
舟は 流れ出した、下流へ。

2.6.2.7. 習慣体-wat/-wət/-pat/-pət/-mat/-mət
(268)*vitalja*, xulliduj əjku**wəč**čən, (5-025)
ヴィターリャは 行き来していた時に いつも立ち寄っていた、
(269)tukti**wəč**čətin, gə, noŋantɪxɪ, (5-031)
いつも山の方へ上って行っていた。さあ、彼女の所へ、

2.6.2.8. 不完了体 -ǰa/-ǰə
Cincius（1982）は不完了体の -ǰa/-ǰə は散発的にのみ用いられるとし、bǐjə-, jəbǐjə- の２例のみをあげている。筆者の集めたテキスト中にもこの２つの動詞の例のみが見出された。
(270)omkɪkkan ɪlan xutənin, tadʊ～ moodʊ bǐ**ǰə**jən, (1-001)
モモンガと 三匹の その子供が、 あそこに、木の上に 暮らしていた、
(271)bǐjəmdi～n saača, saača, əmukčən bǐ**ǰə**jiləj, (2-005)
暮らしていて、 知った、知った、一人で 暮らしている時に、
(272)ǰəbǐ**ǰə**jidun, xugləǰijən eexʊn noŋandʊn, (2-019)
それが草を食べている間に。そうして寝ているのか、何か、彼は、
(273)bǐ**ǰə**ji-deeda. sindukkəj soo, təŋ ǰuulǰi bəgdilkən. (3-040)
いるのだと。お前より 強いと、たった 二本の 足を持つそいつは。

2.7. その他
2.7.1. 趨向体-naa/-nəə
(274)*more*ttɪ tibgu**nə**čə, (1-022)
海へ 行って落とした、

(275)bəjulbə gələktinəmi, (2-023)
獣を 求めて行くと、
(276)əsi gənnəktə, (3-052)
今 取りに行ってくる、

2.7.2. 願望体-tča/-tčə

2.7.3. -mu 生理的欲求「～したい」
動詞についた場合、否定動詞や存在動詞のような他の状態性の特殊な動詞同様、-si をとって動詞として振舞う ((277))。もしくは後に何もとらず、形容詞として働く ((278), (279))。名詞についた例も見出された ((280))。
(277)noŋan əčə ŋənəmusi noŋanǰın. (s163)
彼は 否定過去 行きたい 彼女と。
(278)tadʊ ə～ ŋəələmu～ tadʊ bičəl, čɪwkakka～l, (1-069)
そこには ああ、恐ろしく（たくさん）そこには 暮らしていた、鳥たちが、
(279)ŋənəktə bii. ǰəmu.'' (2-008)
行こう、オレは。お腹が空いた。
(280)noŋan əənim maaskamusin. (s115)
彼は とても 金が欲しいのだ。

2．小辞
-gda/-gdə, -gdəkkəən, -malɪxan, -məlin, -dəə, -la, -ka, -xa, -nun, -tii, -dɪxa, -gu, -ku, -wal, -ŋasa

以下の -i はyes-no疑問を、-li, -ŋu は選択疑問を作る。
(281)iǰəm-i. (s056)
入ってもいいか？
(282)eewa sii ajawʊs malxʊnǰɪ, olowa, uləwə-li. (s087)
何を おまえは 好むか、より多く、魚をか、肉をか？
(283)''ələ gaaja əŋunən-ŋu, waajan-ŋu.'' (2-018)
「もう 長いこと やっていることか、獲っていることか。」
(284)əmuwčən-ŋu eečan-ŋu tajwa. (4-081)
連れて来たんだか、どうしたんだか、それを
(285)tɪmannan-ŋu, ooxɪn-ŋu, əməjən, (2-030)
次の日だか、 いつだか、 やって来る、
(286)ŋii əməčən-ŋu *nu vo obshim prishjol.* (3-059)
誰が 来たんだったか、 ま、 とにかく やって来た。

以下の要素は疑問詞について不定等の意味を示すものと考えられる。
(287)eema-xa bičən (1-013)
何と 言うんだったかしら、

(288)ŋii-**xə** bičən-e～, (2-001)
誰だかだった、
(289)nii-**xəj** iičə-wu ǰootkɪ. (s051)
誰かが 入った、家へ。
(290)noŋan eewa-**xal** gunčən-ŋuu, bii xaal xal bisim. (s089)
彼は 何か 言ったか、 私は ぼんやり していた
(291) ''oon-**mal** əŋunmi ŋənəǰəw-e～ sinətki, (5-002)
「何とかして そうなれば 私は行く、 あなたの所へ、
(292)oon-**tɪ** bičən-e～ oon-**tɪ** bičən, (4-059)
どんな だったかねー、どんな だったかねー、
(293)eewa-**da** čopal *rubili* tajǰɪ, (1-058)
何でも 全部 切り落とした、それで、
(294)əsi eema-**gda** čopal bǐjən, (1-082)
今 どんなのだって 全て あるだろう

以下の要素は取り立てや強調を示すものと考えられる。
(295)əmugdəxən əj-**dixən** ooča. (1-050)
その腹は こんな風にパンパンに なった。
(296)bittə ətəgǰǰəət-**kit** əinəŋdu əj dəŋsiwə. (s088)
私たちは 終えるはずだ、今日、 この 仕事を。
(297)buuxəl taj taŋɪwʊnma bii gələčəw-**ku**. (s142)
下さいな、あの 本を、 私が お願いしたでしょう。

ツングース言語文化論集

既　刊

『ソロン語基本例文集』　朝　克、津曲敏郎、風間伸次郎　編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年3月

『ツングース言語文化論集　1』　黒田信一郎、津曲敏郎　編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年12月

『ナーナイの民族遊戯』（ツングース言語文化論集　2）
ポンサ　K．キレ著／　佐々木史郎、匹田剛、津曲敏郎　編訳
小樽商科大学言語センター、1993年3月

『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』（ツングース言語文化論集　3）
津曲敏郎　編、小樽商科大学言語センター、1993年6月

『ナーナイ語テキスト』（ツングース言語文化論集　4）
風間伸次郎　採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1993年7月

『ナーナイの民話と伝説』（ツングース言語文化論集　5）
風間伸次郎　採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1995年2月

『鄂温克語三方言対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集　6）
朝　克　採録・著、津曲敏郎　編、小樽商科大学言語センター、1995年3月

『オロチ語基礎資料』（ツングース言語文化論集　7）
風間伸次郎　採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月

『ナーナイの民話と伝説2』（ツングース言語文化論集　8）
風間伸次郎　採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月

『ウルチャ口承文芸原文集1』（ツングース言語文化論集　9）
風間伸次郎　採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月

『ナーナイの民話と伝説3』（ツングース言語文化論集　10）
風間伸次郎　採録・訳注、東京外国語大学、1997年3月

『中国ツングース諸語対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集　11）
朝克 採録・著 津曲敏郎 補訂・編、小樽商科大学言語センター 1997年8月

『ナーナイの民話と伝説4』（ツングース言語文化論集　12）
風間伸次郎　採録・訳注、千葉大学、1998年3月

『Эвенские народные песни〈エウェンの歌〉』（ツングース言語文化論集 13）
Bokova, E. P.著・Z. I. Babceva 露訳・A. B. Dorzheev 英訳・風間伸次郎編、2000年4月

『ナーナイの民話と伝説5』（ツングース言語文化論集　14）
風間伸次郎　採録・訳注、東京外国語大学、2000年4月

『ナーナイの民話と伝説6』（ツングース言語文化論集　15）CD8枚付
風間伸次郎　採録・訳注、ELPR、2001年3月

『増訂 ウイルタ口頭文芸原文集』（ツングース言語文化論集　16）CD1枚付
池上二朗　採録・訳注、ELPR、2002年

『ウデヘ語自伝テキスト』（ツングース言語文化論集　17）CD1枚付
アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編訳、ELPR、2002年

『ナーナイの民話と伝説7』（ツングース言語文化論集　18）
風間伸次郎　採録・訳注、、ELPR、2002年

PUBLICATIONS ON TUNGUS LANGUAGES AND CULTURES
- A list of published books -

Solon Basic Sentences compiled by D. O. CHAOKE, Toshiro TSUMAGARI, and Shinjiro KAZAMA, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.

Papers on Tungus Languages and Cultures edited by Shin-ichiro KURODA and Toshiro TSUMAGARI, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.

Traditional Folk Play of Nanay (Publications on Tungus Languages and Cultures 2). Pongsa K. KILE/ edited with a Japanese trnslation by Shiro SASAKI, Go HIKITA, and Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru University of Commerce, 1993.

A Solon (Ewenke) Index to the Classified Vocabulary by D. O. Chaoke: with English Equivalents (Publications on Tungus Languages and Cultures 3). compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.

Nanay Texts (Publications on Tungus Languages and Cultures 4). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.

Nanay Folk Tales and Legends (Publications on Tungus Languages and Cultures 5). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.

A Basic Vocabulary of Three Ewenki (Ewenke) Dialects(Publications on Tungus Languages and Cultures 6). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.

Orochi Linguistic Materials (Publications on Tungus Languages and Cultures 7). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Nanay Folk Tales and Legends 2 (Publications on Tungus Languages and Cultures 8). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Ulcha Oral Literature 1 - A Collection of Texts (Publications on Tungus Languages and Cultures 9). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Nanay Folk Tales and Legends 3 (Publications on Tungus Languages and Cultures 10). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Tokyo University of foreign Studies, 1997.

A Basic Vocabulary of the Tungusic Languages in China (Publications on Tungus Languages and Cultures 11). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1997.

Nanay Folk Tales and Legends 4 (Publications on Tungus Languages and Cultures 12). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Chiba University, 1998.

Ewen Folk Songs (Publications on Tungus Languages and Cultures 13). E. N. Bokova/ translated in Russian by Z. I. Babtseva, translated in English by A. V. DORZHEEV, compiled by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

Nanay Folk Tales and Legends 5 (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

Nanay Folk Tales and Legends 6 (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). With 8 CDs. translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, ELPR, 2001.

Uilta Oral Literature - A Collection of Texts Revised and Enlarged Edition (Publications on Tungus Languages and Cultures 16). With a CD, translated and annotated by Jiro IKEGAMI, ELPR, 2002.

An Udehe Autobiographical Text: with a Russian Translation (Publications on Tungus Languages and Cultures 17). With a CD, Aleksandr KANCHUGA / edited with a Japanese translation by Toshiro TSUMAGARI, ELPR, 2002.

Nanay Folk Tales and Legends 7 (Publications on Tungus Languages and Cultures 18). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, ELPR, 2002.

ネギダール語　テキストと文法概説（ツングース言語文化論集 19）
（「環太平洋の言語」成果報告書A2-021）

Negidal Texts and Grammar (Publications on Tungus Languages and Cultures 19)
(ELPR Publications Series A2-021)

発行日　平成14年10月31日
刊行責任者　大阪学院大学情報学部
文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』」
領域代表　宮岡伯人
総括班代表　崎山　理・遠藤　史（編集担当）
〒564-8511 吹田市岸部南 2 丁目36-1
TEL: 06-6381-8434　（代表）（内線5058）
編集　風間伸次郎（東京外国語大学）
印刷　中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
TEL: 075-441-3155　（代表）

Published: October, 2002
Project Director: MIYAOKA, Osahito
Editorial Board: SAKIYAMA, Osamu, and ENDO, Fubito (Assistant)
Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Endangered Languages of the Pacific Rim
Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University,
2-36-1 Kishibe Minami, Suita, Osaka 564-8511, JAPAN
TEL: +81-6-6381-8434 (extension: 5058)
E-mail: elpr@utc.osaka-gu.ac.jp
Editor: KAZAMA, Shinjiro (Tokyo University of Foreign Studies)
Printed by Nakanishi Printing Co.,Ltd.
Shimotachiuri Ogawa Higashi, Kamikyoku, Kyoto 602-8048
TEL: +81-75-441-3155
ISSN 1346-082X

Copyright is held by the author.